

| | | |
|-----|-----------------------------|----|
| 第1章 | 安心して子どもを産み、育てることのできるまち | 2 |
| 第2章 | 心豊かでたくましい青少年がはぐくまれるまち | 12 |
| 第3章 | 社会を生き抜く力を育成する学校教育が充実しているまち | 22 |
| 第4章 | 専門的な教育の機会が確保されているまち | 42 |
| 第5章 | 生涯学習が盛んで、その成果が活かされるまち | 46 |
| 第6章 | スポーツを通して生きがいと満ち、活気にあふれるまち | 54 |
| 第7章 | 文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち | 62 |
| 第8章 | 一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち | 70 |
| 第9章 | 多文化共生が実現するまち | 78 |

評価・検証シート【施策】

平成 30 年度

【所管部局】保健福祉部、市民協働部

| | |
|-----|------------------------------------|
| 施策名 | (第1編第1章) 安心して子どもを産み、育てることのできるまち |
|-----|------------------------------------|

1. 計画 (Plan)

| | | | | | | |
|---|---------|------|------|------|------|---|
| 意図 (どういふ状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 市民が安心して子どもを産むことができ、子育てに幸せや楽しさを実感して暮らせるまちを目指します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 子育てしやすいと思っている市民の割合 | 目標値 (%) | 52.0 | 54.0 | 56.0 | 58.0 | 現状値から10ポイント程度(年2ポイント)の向上を目指す。「現状値: 47.2% (H26年度実績)」 |
| | 実績値 (%) | 49.2 | 47.5 | 55.3 | | |
| | 達成度 (%) | 94.6 | 88.0 | 98.8 | | |

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

| | |
|--|--|
| (1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証) | |
| <ul style="list-style-type: none"> 本施策の成果指標については、構成事業を概ね計画通りに進めたことにより、前年度より7.8ポイントアップし55.3%となり、目標の達成度としては98.8%となりました。 H30年4月に子育て世代包括支援センター (はぐはぐ smile) を設置し、妊娠期から子育て期にわたり、助産師、保健師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士といった専門職が子育て家庭に寄り添い、各種の相談に応じることで切れ目ない支援を行いました。 子ども医療費や保育園、幼稚園の保育料における市独自の助成や軽減を継続し、安心して子どもを産み、育てられる環境づくりを進めました。 学童保育所(クラブ)については、共働き世帯の増加等を背景に利用希望が多く待機児童が発生しています。これに対応するため、H30年4月には吉野校区に第2学童クラブを開設、白川学童の定員の増を行いました。また、8月からは民間放課後児童クラブへの補助事業を拡充し、新たに開設された民間放課後児童クラブに対し補助を実施しました。これらの待機児童の解消に向けた取り組みを進め、前年度と比較し入所できた児童の割合は増えましたが、未だ解消には至っていません。 本市の子育て支援施策については、妊産婦や乳幼児を持つ家庭をはじめ、関係団体等へ子育て情報誌や子育てお役立ち情報のチラシ等を活用した情報発信を行いました。また、はぐはぐ smile の開設をきっかけに、広報紙やホームページ・FMたんなどを活用して広く周知をしたこと、切れ目のない支援を行ってきたこと等により、“子育てしやすいまち”という認識を高めることができたと考えます。 発達段階に応じた家庭教育支援を行う「幼児期子育て講座」「就学前子育て講座」等を実施しました。開催にあたり、入学前説明会と同時開催などの参加しやすい環境整備を行っています。 | |
| (2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す) | |
| <ul style="list-style-type: none"> 市民が安心して子どもを産み、育てることが出来るよう、引き続き、子育ての負担感・不安感の軽減や子育て家庭の経済的負担の軽減、仕事と家庭の両立支援などに取り組みます。 子育て世代包括支援センター事業では、様々な機会や手段を活用し周知を行うとともに、関係機関等と連携しながら、妊産婦、乳幼児等の個々の状況に応じた相談・支援の充実を図ります。 課題となっている学童保育所(クラブ)の待機児童の解消に向け、地域の実情等に応じて第2学童クラブの整備や定員の増、民間学童クラブの活用及びその他の手法の検討を行います。また、事業を休止している病後児保育事業については、事業再開を目指し関係機関と協議を進めます。 おおむた縁結び支援事業では、近隣自治体や民間事業者等と更なる連携に向けた協議を重ねながら、出会いの場の創出等に取り組みます。 <p style="text-align: right;">(保健福祉部長 岩成 寿美)</p> <ul style="list-style-type: none"> より多くの保護者に家庭教育のあり方について見つめ直す機会を提供できるよう、参加しやすい子育て講座の実施方法等を引き続き検討します。 <p style="text-align: right;">(市民協働部長 中島 敏信)</p> | |

4. 施策推進の視点と各構成事業

| No. | 事業名 | 所管課 | 成果指標等 | | | 評価結果 | |
|------------------------|----------------------|--------|-----------------------------|----|------------------|-------------|------------|
| | | | 指標名 | 単位 | H30 目標 H30 実績 | 結果検証 ・分析 | 今後の 方向性 |
| [視点1] 地域における多様な子育て支援 | | | | | | | |
| 1 | 家庭教育支援事業 | 生涯学習課 | 就学前子育て講座の参加率 | % | 93.0 87.6 | 順調 | 継続 |
| 2 | 地域子育て支援拠点事業 | 子ども育成課 | つどいの広場登録組数 | 組 | 820 749 | 順調 | 継続 |
| 3 | ファミリー・サポート・センター事業 | 子ども育成課 | 支援活動件数 | 回 | 870 1,076 | 順調 | 継続 |
| 4 | 子育て短期支援事業 | 子ども育成課 | 利用申請中利用できた人の割合 | % | 100 95.6 | 順調 | 継続 |
| 5 | 保育所、幼稚園等における保護者負担軽減 | 子ども育成課 | 軽減の実施 | — | 実施 実施 | 順調 | 継続 |
| [視点2] 母子の健康維持 | | | | | | | |
| 6 | 【重点】子育て世代包括支援センター事業 | 子ども家庭課 | セルフプラン策定割合 | % | 100 100 | 順調 | 継続 |
| 7 | 妊婦健康診査事業 | 子ども家庭課 | 健康診査平均受診回数 | 回 | 12.9 12.3 | 順調 | 継続 |
| 8 | 子ども医療費助成事業 | 子ども家庭課 | 子ども医療費受給者1人当たりの平均助成額 | 円 | 25,000 24,089 | 順調 | 継続 |
| 9 | 育児支援事業 | 子ども家庭課 | 延参加人数 | 人 | 1,150 1,224 | 順調 | 充実 |
| 10 | 子どものアレルギー予防事業 | 子ども家庭課 | 子どものアレルギー教室の延参加人数 | 人 | 80 109 | 順調 | 継続 |
| [視点3] 仕事と家庭が両立できる環境づくり | | | | | | | |
| 11 | 保育所管理・運営事業 | 子ども育成課 | 入所できた児童の割合 | % | 100 100 | 順調 | 継続 |
| 12 | 【重点】放課後児童健全育成事業 | 子ども育成課 | 入所できた児童の割合 | % | 100 96.9 | やや遅れ | 改善 |
| 13 | 保育所等施設整備費補助事業 | 子ども育成課 | 整備数 | 園 | 1 1 | 順調 | 充実 |
| 14 | 休日保育事業 | 子ども育成課 | 年間延べ利用者数 | 人 | 280 461 | 順調 | 継続 |
| 15 | 病後児保育事業 | 子ども育成課 | 年間利用児童数 | 人 | 180 0 | 遅れ | 改善 |
| [視点4] 様々な家庭への子育て支援の充実 | | | | | | | |
| 16 | 児童家庭相談室事業 | 子ども家庭課 | 相談に対する延べ対応件数 | 回 | 7,000 8,060 | 順調 | 継続 |
| 17 | 子ども支援ネットワーク事業 | 子ども家庭課 | 個別ケース会議の開催 | 回 | 85 86 | 順調 | 継続 |
| 18 | (再掲) 子育て世代包括支援センター事業 | 子ども家庭課 | セルフプラン策定割合 | % | 100 100 | 順調 | 継続 |
| [視点5] 出会いのサポート | | | | | | | |
| 19 | 結婚サポートセンター事業 | 子ども育成課 | イベントの大牟田市民参加者数及び大牟田市内開催参加者数 | 人 | 80 50 | 遅れ | 休廃止 |
| 20 | 【重点】おおむた縁結び支援事業 | 子ども育成課 | 出会い応援事業参加者数 | 人 | 125 182 | 順調 | 継続 |

※「子ども・子育て支援事業計画策定事業」は評価対象から除外しています。

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 地域における多様な子育て支援

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 家庭教育支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】子どもを持つ保護者に発達段階に応じた家庭教育のあり方を見つめなおす機会を提供するため、「幼児期子育て講座」「就学前子育て講座」を実施しました。「就学前子育て講座」については、就学前の全保護者の参加が見込める入学説明会を活用して実施しました。また、幼稚園等入園前の子どもの保護者が子どもと一緒に安心して集える「ふれあい広場」を実施しました。「幼児期子育て講座」については、親子での参加も可能とされていたことから、講座に集中できなかったとの意見もいただきました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】より多くの保護者に、家庭教育のあり方について見つめ直す機会を提供できるよう、効果的な子育て講座等の周知や実施方法等を検討します。 |
| 事業名 | 地域子育て支援拠点事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】社会福祉法人に委託し、事故もなく安全な事業の実施ができました。また、利用者アンケート結果を踏まえ魅力ある行事の実施や親しみやすい雰囲気の醸成に努めたことから登録組数、利用者数共に増加しています。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】引き続き、利用者の安全に配慮した場を提供します。さらなる魅力ある行事に取り組むと共に、効果的な情報発信を行い利用者の増加につなげます。 |
| 事業名 | ファミリー・サポート・センター事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】社会福祉法人に委託して、事故もなく安全な事業の実施ができました。H30年度は、活動件数が大きく増加しています。児童（特に乳児）を預かることから、安全確保を含めた質の向上が課題です。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】援助会員（児童の預かりを行う会員）の質の向上（安全な預かりの実施）のため、定期的な研修を継続し実施します。引き続き、事業の周知を図ります。 |
| 事業名 | 子育て短期支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】児童福祉施設（社会福祉法人）に委託して事業を実施しています。施設での感染症の流行などで利用を断らざるを得ない場合もありますが、H30年度は利用希望者の95%以上が、利用することができました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】委託施設の人員体制や施設の状況等による受入れの制約がある中であっても、施設と連携を密にしながら、利用希望者の受入れを図っていきます。 |
| 事業名 | 保育所、幼稚園等における保護者負担軽減 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】子育て世帯の経済的な負担の軽減を目的に、本市独自の保育料軽減を継続して行うとともに、国の幼児教育の段階的無償化に伴う、低所得の多子世帯やひとり親世帯等の保護者負担の軽減を実施しました。子育て支援充実に向けて、経済的負担の軽減の拡充が求められています。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】国においてR元年10月に実施する幼児教育・保育の無償化を円滑に実施し、保護者の経済的負担の軽減による子育て支援の充実を図ります。 |

[視点2] 母子の健康維持

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 【重点】子育て世代包括支援センター事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 妊婦健康診査事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】妊婦健診では、14回分の公費負担を行いました。H30年度は、妊娠初期の血糖検査を追加して、健診項目の充実を図りました。平均受診回数は、委託料及び補助金の支払件数を当該年度の妊娠届出者数で除して算出しています。(8,978回÷729人) 特に支援を必要とする妊婦に対しては、電話や訪問による指導や助言等により継続した状況把握を行いながら、健診結果を活用した適切な保健指導等、妊婦と胎児の健康管理を進めます。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】自己管理意識を高め、妊娠の週数に応じた必要な健康診査を受診できるように、引き続き妊娠11週以内の届出を周知していきます。また、医療機関等との連携を密にし、妊婦と胎児の健康管理を行います。 |
| 事業名 | 子ども医療費助成事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】中学生までの入院、通院の助成を継続して行いました（中学生は独自助成）。申請勧奨と制度周知を図る一方医療費増加抑制につながる取組みも必要と考え、窓口での制度案内チラシや医療証送付時の通知に上手な医療機関のかかり方・小児救急医療電話相談（＃8000）の情報を掲載しました。併せて、3歳及び新1年生の医療証送付時にはむし歯予防チラシを同封。小中学生家庭宛の制度周知チラシにはインフルエンザ予防情報を掲載しました。今後も子どもの疾病を未然に予防するための取組みについて考えていく必要があります。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】市民及び関係機関への制度周知を引き続き行いながら、子ども医療費助成対象者への医療証発行を促進し、安心して産み育てられる環境を整えます。また、制度周知と併せて疾病予防の啓発及び事業等を行うことにより、医療費の増加を抑制します。 |
| 事業名 | 育児支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】事業の延参加人数は、パパ・ママ育児専科 94人、ママのほっとスペース 257人、赤ちゃん広場 379人、乳幼児の歯育て教室 494人でした。今後も、利用者が参加しやすいように、開催場所や時間帯、内容等について工夫し、実施します。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【充実】国・県の支援策等を有効に活用し、対象者への事業案内を充実させ、利用者ニーズに沿った事業を実施していきます。また、パパ・ママ育児専科の実施にあたり、地域の専門職の人材活用を進めることで、子育て家庭を支援するネットワーク作りに取り組みます。 |
| 事業名 | 子どものアレルギー予防事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】こどもアレルギー教室で市民を対象に、アレルギーに関する講話や実習、相談、指導等を行ったほか、乳幼児健康診査等により把握したリスク児に対する指導、ぜん息児を対象とした水泳訓練教室を行いました。水泳訓練期間中には、ぜん息児本人への勉強会を実施し、自己管理能力の向上を図りました。 近年、アレルギー症状を起こす人が増えており、アレルギーに関する新しく正しい情報を提供し、基礎知識の普及や意識の向上を図っていく必要があります。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】こどものアレルギーに関する健康相談や健康診査、機能訓練を実施します。新たに妊娠届の機会を活用し、妊婦へスキンケアの方法等を伝えることで、アレルギー予防への意識の向上を図ります。 |

[視点3] 仕事と家庭が両立できる環境づくり

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 保育所管理・運営事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】公立保育所を含む市内22園の保育所において、安心して安全な保育の提供及び継続的な施設の運営が行えるよう、私立保育所の管理、公立保育所の運営を実施しました。H30年度は待機児童の発生はありませんでしたが、今後においては保育士不足の影響等により入所困難な状況の発生が懸念されます。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】安心・安全な保育環境の確保が図れるように、継続的な運営等の支援を実施します。保育所との連携・調整を密に行いながら、保育士等の人材確保に努め、待機児童発生防止に取り組みます。 |
| 事業名 | 【重点】放課後児童健全育成事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 保育所等施設整備費補助事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】児童の安心・安全な環境の確保を目的に、国の交付金を活用して老朽化が進んでいる社会福祉法人立の保育所の施設整備費補助を計画的に進めています。H30年度は、1施設の整備を実施（R元年度完成予定）、R元年度においても1施設の整備を予定しています。なお、認定こども園等からも施設整備についての意向が示されており、R1年度からは補助対象の拡大等について方針を整理します。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【充実】保育所の老朽化対策として実施してきた本事業については、R元年度から認定こども園等への補助対象の拡大を実施します。 |
| 事業名 | 休日保育事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】仕事と家庭の両立支援の充実に向けて、情報発信の強化等を図りながら利用者拡大に取り組みました。情報発信は、各園へのチラシ配布等を行うほか、広報おおむたやFMたんとを積極的に活用しました。児童が楽しく安全に過ごしているという保護者の声もあり、利用者数は年々増加しています。保育士不足の中、休日保育対応の保育士確保が課題です。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】安心して子どもを預けられる環境の充実に向け、情報発信の強化を図りながら利用ニーズの充足を図ります。あわせて、安定した保育士確保を目指します。 |
| 事業名 | 病後児保育事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【遅れ】市内の医療機関に委託して事業を実施していましたが、H29年11月から事業を休止しています。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【改善】病気の児童を預かるという事業の特性から、委託先は限られていますが、早期の事業再開を目指し関係機関と協議を進めます。 |

[視点4] 様々な家庭への子育て支援の充実

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 児童家庭相談室事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】市民等からの子育てに関する相談や児童虐待の通告等に対し、内容や状況に応じた適切な対応を行っています。相談内容が複雑化・深刻化・長期化しており、H30年度の相談件数は736件、相談に対する延べ対応件数も8,060回と増加しています。対応する専門職の確保と新たに導入した児童家庭相談システムを活用した効果・効率的な業務運営を図っていく必要があります。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】相談等に対応する専門職の安定した確保を図ります。また、児童家庭相談システムによる迅速な状況把握など、効果・効率的な業務運営を行い、相談・支援の充実を図ります。 |
| 事業名 | 子ども支援ネットワーク事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】子ども支援ネットワークでは、代表者会議、実務者会議、個別ケース会議を開催し、保護・支援が必要な児童等に関する情報共有や、支援方針等の協議、個別のケースに応じた具体的な支援を行っています。H30年度からは、ケースの進行管理等を行う実務者会議を危険度等により分け、関係機関による見守り中心のケースを対象とする実務者会議を立ち上げ、より効果的な運営を図りました。今後も調整機関としての更なる能力向上や効率・効果的な業務運営を図っていく必要があります。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】調整機関職員としての必要な研修受講と職場での情報共有を行います。また、児童家庭相談システムによる迅速な状況把握など、効果・効率的な業務運営を行い、相談・支援の充実を図ります。 |
| 事業名 | 子育て世代包括支援センター事業 《再掲 同編同章視点2参照》 |

[視点5] 出会いのサポート

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 結婚サポートセンター事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【遅れ】H30年度は、会員登録者数やイベント参加者数が伸び悩んでいたことから、例年1回開催している幹事会を6回開催し、今後の方策を協議しました。本市のイベント等への参加者数は目標を上回っているものの、3市合計での新規会員登録者数や婚活イベント開催数などは、前年度比減という結果となりました。 このようなことから、H30年度をもって結婚サポートセンターの運営を終了します。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【休廃止】結婚サポートセンターの運営は終了しますが、イベント実施の協力や新たな取り組みに向けた検討など、今後も近隣自治体と連携しながら結婚サポートに取り組んでいきます。 |
| 事業名 | 【重点】おおむた縁結び支援事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 子ども家庭課

| | |
|------------|--------------------------------------|
| 事業名 | (施策推進の視点) 母子の健康維持 子育て世代包括支援センター事業 |
|------------|--------------------------------------|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|------------|------------|------------|------------|---|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 地域で家族を支え、子育て世代が安心して妊娠・出産・子育てができる環境を整えていきます。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| <p>妊娠期から子育て期にわたり、妊娠の届出等の機会に得た情報を基に、妊娠・出産・子育てに関する相談に応じ、必要な情報提供・助言・保健指導を行います。また、保健医療・福祉の関係機関との連携・情報の共有を行っていきます。更に、手厚い支援や継続的な支援、関係者の調整等が必要と判断される対象者については、支援プランを策定します。</p> <p>妊娠・出産・子育てに関するリスクの有無にかかわらず、予防的な視点を中心として、全ての妊産婦(産婦:産後1年以内)と乳幼児(就学前)とその保護者を対象とし、保健と福祉の連携による支援を行います。</p> | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| セルフプラン策定割合 | 目標値 (%) | — | — | 100 | 100 | 全ての妊婦がセルフプラン(サービス利用計画)を立てることができることを目指します。 |
| | 実績値 (%) | — | — | 100 | | |
| | 達成度 (%) | — | — | 100 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|---|--|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・H30年4月に子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠期から子育て期にわたり助産師、保健師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士といった専門職が各種の相談に応じ、支援を行いました。 ・広報おおむたやホームページ、FMたんとう、広告モニター等を活用し、センターの周知を行いました。 ・医療機関をはじめ、各種関係団体等との情報共有を進め、支援の充実を図りました。 ・全ての妊婦がセルフプランを立てられるように支援し、ハイリスク妊婦・特定妊婦等に対しては、支援プランを作成し、継続した状況把握やサービス利用の支援等を行いました。また、妊娠28週以降の妊婦に対して、はぐはぐコール(電話相談指導)により、出産や産後の育児への情報提供と助言を行い、不安の軽減を図りました。 ・H30年11月から、市内の産科医療機関と連携し、宿泊型及び日帰り型の産後ケア事業を開始し、産後の支援の充実を図りました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 17,902 千円 | 5,890 | 5,307 | | 521 | 6,184 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・センターの存在を多くの人に認識してもらうよう、更なる周知が必要です。 ・個々の状況に応じた相談・支援を行うために、対象者と早期に信頼関係を築くことが重要です。 ・関係機関との情報共有や連携のためのネットワークを強化する必要があります。 | | | | | | |
| 今後の方向性(具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・広報おおむたやホームページ、FMたんとう等での紹介、リーフレットの配布など、様々な機会や手段を活用して効果的な広報活動を行います。 ・担当職員の各種研修会やセミナーの受講を促進し、職員の対人支援スキルの向上を目指します。 ・庁内の関係課や関係機関等との連絡調整、健康診査の結果等により、妊産婦・乳幼児の実情を継続的に把握し、個々に応じた情報提供や助言、サービス利用の支援を行っていきます。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 子育て世代が安心して妊娠・出産・子育てができるように、今後も関係機関との連携強化を図ります。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 子ども育成課

| | |
|------------|---|
| 事業名 | (施策推進の視点) 仕事と家庭が両立できる環境づくり 放課後児童健全育成事業 |
|------------|---|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|------------|------------|------------|-----------|-----------------------|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 放課後等に保護者が家庭にいない児童で入所を希望する児童に対して、生活や適切な遊びの場を提供することで、児童の健全育成及び保護者の家庭と仕事の両立支援を図ります。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 未整備校区への対応及び利用者の増加に伴う待機児童の解消を図るため、H28年3月に(第3次)学童保育所(クラブ)整備方針を策定し、これに基づき対応を行っています。 | | | | | | |
| H30年度はこの整備方針に基づき、特に待機児童が多い白川校区については、支援単位を見直し定員を80名に、定員を大きく超えて入所している吉野校区については第2学童クラブを開設できるよう協議を進めます。また、民間放課後児童クラブへの補助事業も推進していく予定としています。 | | | | | | |
| H29年11月末に取りまとめ予定の放課後児童健全育成事業に係るアンケート調査の結果を踏まえ、開所時間等についての検討を行うこととしています。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 入所できた児童の割合 | 目標値 (%) | 100 | 100 | 100 | 100 | 利用希望者全員が利用できる状態を目指します |
| | 実績値 (%) | 94.7 | 93.5 | 96.9 | | |
| | 達成度 (%) | 94.7 | 93.5 | 96.9 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|---|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 4月に吉野校区で第2学童保育所(クラブ)を開設しました。これにより、待機児童対策を進めると共に保育の質の向上が図れました。 4月に白川学童保育所の定員増を行いました。これにより、白川校区での待機は解消しました。 待機児童の解消を目的に創設した民設民営の放課後児童クラブへの補助事業については、これまでの2施設から3施設と拡充し補助を実施しました。 事業者との協議により、安全な預かりが可能な施設については定員を超える受入れを行いました。 課題となっている支援員確保の促進のために、人材バンクの設立準備を進めました。 預かり時間の延長について、実施に向けて事業者との協議を進めました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 120,080 千円 | 33,295 | 32,749 | | 27,272 | 26,764 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 待機児童の解消に向け取組みは進めたものの、待機児童が生じ目標値である100%入所は達成できませんでした、引き続き取組みが必要です。 預かり時間の延長については支援員確保の困難性等により、事業者の理解、協力を得るためには丁寧な協議が必要です。 | | | | | | |
| 今後の方向性(具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 整備方針に基づき、地域の実情にあった待機児童解消の取組みを進めます。 預かり時間延長の実施に向け、事業者の理解・協力を得るために丁寧な協議を継続します。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| やや遅れ・改善 | 第2学童クラブの整備や定員の増、民間放課後児童クラブへの補助事業の拡充などの取組みを進めましたが、待機児童の解消はできませんでした。今後も多くの利用希望児童が想定されることから、更なる取組みを進めます。また、預かり時間の延長に向けた取組みを進めると共に質の向上についても検討を進めます。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 子ども育成課

| | |
|------------|-----------------------------------|
| 事業名 | (施策推進の視点) 出会いのサポート おおむた縁結び支援事業 |
|------------|-----------------------------------|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | | |
|---|------------|--|------------|------------|------------|-----------|---|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | | |
| 独身者が結婚したいという思いの醸成をはかるとともに、希望の結婚像・ライフスタイルにあった相手を探せるようサポートや出会いの場の創出を行います。 | | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | | |
| 婚活イベントの開催、コミュニケーション力の向上などを目的とする婚育セミナーの実施や民間団体が主催する婚活イベント等への補助を行うと共に、結婚応援団体等との関係づくりを図ります。 婚活イベントについては、H29年度から民間事業者への委託を行っており、引き続きH30年度についても民間事業者へ委託を予定しています。 イベントやセミナーについては、有明定住自立圏域の自治体との情報共有や共同での情報発信等についての協議を行うと共に、魅力あるイベント内容や効果的な事業実施など、引き続き検討を行い、事業へ反映していきます。 | | | | | | | |
| | 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 出会い応援事業参加者数 | 目標値 (人) | | 75 | 100 | 125 | 150 | 事業参加者が伸びることにより、出会いの機会の増、交際、結婚へのサポートが図られます |
| | 実績値 (人) | | 100 | 156 | 182 | | |
| | 達成度 (%) | | 133.3 | 156.0 | 145.6 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|---|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 婚活イベントの開催 (1月): 参加者数 37人、申込者数 40人、カップル成立数 5組 婚育セミナー (県との共催) の開催 (11月、12月): 参加者数 12人 民間団体等への補助 (20万円×1団体、175千円×1団体): イベント参加者数 133人、カップル成立数 25組 セミナー、イベントについては、広報おおむた、チラシ配布、ホームページ (市及び結婚サポートセンター)、Facebook、FM たんと、愛情ねつとを活用し周知を行いました。 婚活イベントや婚育セミナーの実施に当たっては、柳川市及びみやま市と協議を行い、連携して実施しました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 904 千円 | | | | | 904 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| 各市や団体等がそれぞれで事業を行っているため、近隣自治体や民間団体等との連携・協力を図りながら、計画的に事業を行うことが必要です。また、民間団体等が実施している婚活イベント等も充実してきていることから、より効果的・効率的に進めるために、民間団体等が行う事業に対して、市からの支援等を充実させていくことも必要です。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| R元年度の婚活イベントや婚育セミナーについては、柳川市及びみやま市と協議を行い、連携して実施します。あわせて、市内の民間団体等との関係づくりを推進し、婚活イベント等の充実に取り組みます。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 婚活イベントについてはH30年度も定員を超える申込みがありました。H30年度は、新規採用職員が研修で企画したイベント内容を参考に民間事業者に委託して実施しました。参加者からのアンケートの評価は、概ね好評でした。今後も、近隣市や関係団体と事業実施の際には連携して取り組みます。 | | | | | |

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 施策名 | (第1編第2章) 心豊かでたくましい青少年がはぐくまれるまち |
|-----|-----------------------------------|

1. 計画 (Plan)

| 意図 (どうい状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
|--|---------|------|------|------|------|---|
| 次世代を担う青少年が、家庭や学校、地域における様々な人との関わりの中で、社会を生き抜くたくましさを身に付けながら、創造性豊かで思いやりのある心を持ち、心身ともに健康に、社会の一員として成長し自立することを目指します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 子どもの育成や見守り活動への参加率 | 目標値 (%) | 19.0 | 21.0 | 23.0 | 25.0 | 現状値から10ポイント程度(年2ポイント)の向上を目指します。 [現状値:16.5%(H26年度実績)] |
| | 実績値 (%) | 15.0 | 16.0 | 16.7 | | |
| | 達成度 (%) | 78.9 | 76.1 | 72.6 | | |

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

| (1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証) |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 子どもの体験活動をはじめとする子どもの参加型事業等については、目標値まで達していない事業が一部あるものの、新規に対象となる事業や箇所が現れるなど、地域を含む組織等のボランティアの理解や協力、見守り等で熱心に取り組んでいただき、多くの事業で昨年度より実施数等が伸びており、一定の効果は出ていると考えられます。 一方で、活動する組織・団体等では、子どもの減少やニーズの多様化により、継続した取り組みに必要な子どもの参加者数を確保できず、組織・団体等の活動が成り立たなくなり、解散等をせざるを得ない状況も見受けられます。 成果指標については、青少年の体験活動等の各事業を通じて、地域等で子どもの育成や見守り活動へ多くの参加がありましたが、各事業の実施数が計画していた数まで伸びなかったことや組織・団体等での活動の縮小などにより、身近な地域での参加ができなくなっていることなどから、目標値より低くなっています。しかしながら、社会教育・生涯学習基礎調査研究による調査からは、子どもの見守りや活動支援などに関するボランティア活動を希望する人が多く見受けられ、「地域全体で子育て」との機運が認識されているところです。 |
| (2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す) |
| <ul style="list-style-type: none"> 各事業を行うにあたっては、家庭・学校・地域の理解と多くのボランティアの協力が必要となることから、より多くの市民に各事業の取り組みや主旨を理解のうえ、協力いただけるよう事業の内容や必要性について、引き続き周知・啓発を図ります。 子どもの減少やニーズの多様化により、組織や団体によっては、子どもの参加者が減少していることから、事業参加者数の確保が課題とされています。今後、統合や新たな組織のあり方を検討して、組織や団体の継続により、子どもたちが心身ともに健康でたくましく思いやりの心やふるさとを愛する心を持った自立した大人へと成長していくことにつながるような支援を検討します。 体験活動や子ども向け事業は、子どもたちの身近な場所で提供されるべきものであることから、子どもの育成や見守り活動へより多くの参加を促すため、各事業の周知・啓発や青少年の活動に大人が関わることの必要性を引き続き周知・啓発していきます。 「大牟田市わくわくシティ基金」を活用し、スポーツ、文化の振興を通して次世代を担う青少年の人材育成を図る事業を支援します。 |
| (市民協働部長 中島 敏信) |

4. 施策推進の視点と各構成事業

| No. | 事業名 | 所管課 | 成果指標等 | | | 評価結果 | |
|----------------------------------|----------------------------------|-------------------|--|----|--------------------|-------------|------------|
| | | | 指標名 | 単位 | H30 目標 H30 実績 | 結果検証 ・分析 | 今後の 方向性 |
| [視点1] 子どもの体験活動の充実 | | | | | | | |
| 1 | 子どもの居場所づくり支援事業 | 生涯学習課 | 開設箇所数 | 箇所 | 28 25 | 順調 | 継続 |
| 2 | 【重点】通学合宿支援事業 | 生涯学習課 | 通学合宿を実施している 校区数 | 校区 | 8 7 | 順調 | 継続 |
| 3 | 子ども会活動支援事業 | 生涯学習課 | 子ども会入会率 | % | 36.0 29.0 | やや遅れ | 改善 |
| 4 | 【重点】子ども読書推進事業 | 生涯学習課 | 児童書の貸出し冊数 | 冊 | 164,000 157,752 | 順調 | 継続 |
| 5 | 子ども体験活動事業 | 生涯学習課 | リフレスおおむた青少年 利用者数 | 人 | 10,000 9,963 | 順調 | 継続 |
| 6 | 【重点】子ども未来デッサン事業 | 地域コミュニティ 推進課 | 夢や将来のことを考えたり 思ったりした参加者の 割合（参加者アンケート） | % | 95.0 89.7 | 順調 | 継続 |
| 7 | 【重点】文化芸術を通じたコミュニ ケーション能力アップ事業 | 生涯学習課 | 「コミュニケーション能 力向上の必要性を理解し た」参加者の割合 | % | 90.0 99.6 | 順調 | 継続 |
| [視点2] 社会の宝として、地域全体で子どもたちを見守り、育てる | | | | | | | |
| 8 | （再掲）子どもの居場所づくり支援 事業 | 生涯学習課 | 開設箇所数 | 箇所 | 28 25 | 順調 | 継続 |
| 9 | （再掲）通学合宿支援事業 | 生涯学習課 | 通学合宿を実施している 校区数 | 校区 | 8 7 | 順調 | 継続 |
| 10 | （再掲）子ども会活動支援事業 | 生涯学習課 | 子ども会入会率 | % | 36.0 29.0 | やや遅れ | 改善 |
| 11 | PTA 活動支援事業 | 生涯学習課 | 研修会の開催数 | 回 | 3 3 | 順調 | 継続 |
| [視点3] スポーツ・文化芸術活動を通じた青少年の心身の育成 | | | | | | | |
| 12 | 【重点】子どもの体力向上事業 | スポーツ推進室 | 半年後に運動・スポーツを 週1回以上継続して実施し ている子どもの割合 | % | 100 100 | 順調 | 継続 |
| 13 | スポーツ少年団育成委託事業 | スポーツ推進室 | 小学生数に占めるスポー ツ少年団員数の割合 | % | 13.4 12.0 | 順調 | 継続 |
| 14 | おおむたっ子ががんばれ奨励金事業 | 生涯学習課、スポ ーツ推進室 | 奨励金の交付件数 | 件 | 170 186 | 順調 | 継続 |
| 15 | 子どもの文化芸術体験事業 | 生涯学習課 | アウトリーチ事業の実施 件数 | 件 | 44 51 | 順調 | 継続 |
| [視点4] 青年の社会参加の促進 | | | | | | | |
| 16 | （再掲）市民活動サポート事業 | 生涯学習課 | 市民活動団体補助事業へ の申請団体数 | 件 | 10 8 | 順調 | 継続 |
| 17 | 成人式の開催 | 生涯学習課 | 式典出席率 | % | 65.0 66.2 | 順調 | 継続 |
| [視点5] 青少年の問題行動や悩みへの対応 | | | | | | | |
| 18 | 青少年指導相談事業 | 生涯学習課 | 本市の非行者率 (少年人口千人当たり) | 人 | 5.1 2.8 | 順調 | 継続 |
| 19 | 青少年有害環境浄化事業 | 生涯学習課 | 県条例違反店舗数 | 件 | 0 0 | 順調 | 継続 |
| 20 | 青少年健全育成事業 | 生涯学習課 | 毛筆書写作品展への小中 学校からの出展率 | % | 70.0 64.9 | 順調 | 継続 |

※「青少年健全育成プラン改訂事業」は評価対象から除外しています。

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

〔視点1〕子どもの体験活動の充実

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 子どもの居場所づくり支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】子どもの居場所に対する補助金については、これまで定期開設を条件としていたが、長期休業期間中に子どもたちが集う場所も必要と考え、長期休業期間中の居場所開設に対しても補助金を交付するよう改正を行い、2箇所開設ができました。また、これまでの定期開設も新規に1ヶ所開設され多くの子どもが参加し、様々な体験をしています。ただし、現在開設できている居場所もボランティアの高齢化など継続開設が危ぶまれる居場所もあります。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】自分で歩いて行ける距離に居場所があることが理想であることから、居場所がより多く開設されるように支援します。同時に現在の居場所も継続した開設ができるような支援を検討します。 |
| 事業名 | 【重点】通学合宿支援事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 子ども会活動支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【やや遅れ】子ども数の減少とともに、子ども会への入会の減少や、子ども会の運営が難しくなり活動を辞める子ども会もでてきています。一方、校区単位での子ども会設立の動きもあることから、加入率増加に向けて新しい形の組織に対する支援が必要です。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【改善】校区単位での子ども会設立の働きかけ等、子ども会の加入率増加に向けての支援のあり方を検討します。 |
| 事業名 | 【重点】子ども読書推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 子どもの体験活動事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】リフレスおおむたで行う子ども体験事業において、自然の大切さや命の尊さ、仲間づくり、共同生活の大切さなどを体験する機会を提供しました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】リフレスおおむたの指定管理者である YMCA と連携を図りながら、子どもの体験の機会を提供します。 |
| 事業名 | 【重点】子ども未来デッサン事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 【重点】文化芸術を通じたコミュニケーション能力アップ事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |

[視点2] 社会の宝として、地域全体で子ども達を見守り、育てる

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 子どもの居場所づくり支援事業 《再掲 同編同章視点1参照》 |
| 事業名 | 通学合宿支援事業 《再掲 同編同章視点1参照》 |
| 事業名 | 子ども会活動支援事業 《再掲 同編同章視点1参照》 |
| 事業名 | PTA活動支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】小学校PTA連合会、中学校PTA合同研修会及び幼稚園PTA連合会の研修会の支援を行い、PTA活動の活性化の支援を行いました。また、小学校PTA及び中学校PTAの組織一本化を図りました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】今後も研修会の支援等を行い、PTA活動の活性化を図ります。 |

[視点3] スポーツ・文化芸術活動を通じた青少年の心身の育成

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 【重点】子どもの体力向上事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | スポーツ少年団育成委託事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】地域の子どもたちのスポーツ活動の機会づくりとして、交流ドッジボール大会（実績：18団体、301名）や体力測定会（24団体、509名）を実施し、前年度より多くの参加者が得られました。また、スポーツ少年団活動を普及・啓発を図るため、機関紙「スポーツ少年団ニュース」を作成し配布しました。（H30年度スポーツ少年団員数：40団体、646名）近年、スポーツ少年団の団員数が減少傾向にあり、今後、単位団の存続も危惧され、団員確保が課題となっています。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】スポーツ少年団の活動を子どもたちに広く周知し、団員確保につなげます。 |
| 事業名 | おおむたっ子がんばれ奨励金事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】18歳以下の青少年が地区予選を経て全国レベルの大会又は国際大会に出場する青少年に、おおむたっ子がんばれ奨励金を交付しました。（H30年度は185人1団体に対して655千円） |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】今後も、青少年の育成、文化の振興及び出場者の意欲向上に寄与するために青少年育成基金を活用し、「おおむたっ子がんばれ奨励金」を交付します。 |
| 事業名 | 子どもの文化芸術体験事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】まちの芸術家派遣事業ではさまざまな分野の文化芸術活動者（団体）を学校へ15件派遣しました。また、文化庁巡回公演事業として、小学校3校合同の演劇鑑賞会を実施しました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】今後も引き続き、大牟田市文化振興財団等と連携し、学校鑑賞事業や子どもの育成事業に取り組みます。 |

[視点 4] 青年の社会参加の促進

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 市民活動サポート事業 《再掲 計画の実現に向けて1章視点4参照》 |
| 事業名 | 成人式の開催 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】市外居住者の対象者の電子申請について一定の事務処理の確立を行い全体的にスムーズに事務処理ができました。しかし、一部の成人による、飲酒等トラブルが発生しています。一方、2022年の成人年齢の見直しに向けた、成人式の式典の実施方法等の検討のための情報収集が必要です。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】今後も、より多くの新成人に式典に参加してもらえるよう広報等を行い、成人としての自覚と社会参加意識向上の醸成へとつながるよう、成人式を開催します。また、成人年齢の見直しによる式典のあり方等の検討を行います。 |

[視点 5] 青少年の問題行動や悩みへの対応

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 青少年指導相談事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】街頭活動：延べ2,587人で472回、青パト巡回：延べ860人で442回、補導された少年の数は、昨年度より95人減少し163人でした。電話・面談により悩みを持つ青少年や保護者等からあらゆる分野の相談を受ける相談活動については、ヤングテレホンカードの配布に加え、H30年度は街頭啓発時の花の種にも新たにヤングテレホンのお知らせを掲載し周知を図りました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】関係機関・団体等との連携を図りながら、年間の活動計画に基づき、引き続き活動を実施します。 |
| 事業名 | 青少年有害環境浄化事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】H30年度は、コンビニエンスストアや書店をはじめとする全89店舗等への要望活動や立ち入り調査を7月と11月に実施しました。調査の結果、指摘事項はなく、各店舗においては福岡県青少年健全育成条例を遵守していただいています。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】店舗等に福岡県青少年健全育成条例の趣旨を理解し、実践してもらうよう、引き続き活動を実施します。 |
| 事業名 | 青少年健全育成事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】青少年自らが地域の一員として、豊かな心、命の大切さ、自分の将来について考える機会としての毛筆書写作品展等について事業を実施し、毛筆作品については、小学4年生から中学生までに依頼し、合計201点の出展がありました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】「青少年の非行・被害防止強調月間」の7月と、「子ども・若者育成支援強調月間」の11月を中心として、関係機関と連携を図り引き続き実施します。 |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

| | |
|------------|-----------------------------------|
| 事業名 | (施策推進の視点) 子どもの体験活動の充実 通学合宿支援事業 |
|------------|-----------------------------------|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|---|----------|------------|------------|------------|------------|---|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 子どもが、家事などの日常生活を自分自身で行うことにより、規則正しい生活習慣を身につけ、働くことや協力することの大切さを理解し、自主性や協調性、自尊感情を高めます。また、地域の大人が、ボランティアとして関わることにより、地域住民同士の交流を深め、子どもを地域で育てようとする機運を高めます。この事業を継続することにより、地域における子育て環境の充実に図ります。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 通学合宿は、子どもたちが親元を離れ、地域の人々の協力を得て、公民館等に寝泊りしながら学校外の生活を自分たちの力で行う事業です。市は、通学合宿を実施する各実行委員会に対する事業費補助の交付や運営の助言指導を行うことで支援します。 また、実行委員会と共催で通学合宿 (モデル事業) を行い、通学合宿の認知度の向上及び運営手法の確立を図ります。 ボランティア養成講座を実施することにより、通学合宿の意義や必要性の理解を促し、通学合宿の運営や子どもの指導を行うボランティアを養成します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 通学合宿を実施している校区数 | 目標値 (校区) | 6 | 7 | 8 | 9 | 実施校区が増えることにより、子どもの体験活動の場と機会が増え、地域における子育て環境が充実します。 |
| | 実績値 (校区) | 5 | 6 | 7 | | |
| | 達成度 (%) | 83 | 85.7 | 87.5 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|--|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> これまで実施していなかった手鎌校区に通学合宿の意義等を伝え実行委員会の立上げ支援を行いました。新規実施校区を対象とした通学合宿モデル事業を手鎌小通学合宿実行委員会と共催で実施し、14人の子どもたちと実人数37人 (延べ51人) のボランティアが参加しました。 通学合宿を実施する団体への支援を行いました。県委託1団体、市補助4団体、自主運営1団体に対し、準備会等の実行委員会や合宿当日の助言や人的支援を行いました。6団体合計で131人の子どもたちと実人数204人 (延べ466人) のボランティアが参加しました。 新規実施校区で、ボランティア養成講座を行いました。ボランティア説明会と養成講座を一体的に実施することで、より実践につながる講座となりました。参加者は23名で、全員が通学合宿で実際にボランティアとして活動に参加しました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 195 千円 | | | | | 195 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 通学合宿を地域で実施するには、地域・保護者・学校の理解と協力が不可欠であることから、機会を捉えて通学合宿事業の理解の促進に取り組むことが必要です。 地域の負担感や不安感を解消する為に事業のスリム化やマニュアル化を行う等、地域が自立して実施できるような仕組みづくりが必要です。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 周知においては、通学合宿を既に実施している校区の記録写真や実施後の子ども達の感想等を示す等、より分かりやすく、事業の重要性を感じてもらえるような説明を行い理解の促進に取り組みます。 事業のマニュアル化を図り、通学合宿実行委員会にマニュアルに沿った事業実施を案内する等、実行委員会の自立を支援します。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 目標より1校区少ないが、新規に1校区実施できました。今後も、未実施校区に働きかけ、より多く子どもに体験の機会が提供ができるよう取り組みます。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

| | |
|------------|------------------------------------|
| 事業名 | (施策推進の視点) 子どもの体験活動の充実 子ども読書推進事業 |
|------------|------------------------------------|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|------------|------------|------------|------------|--|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 多くの子どもが、読書の楽しさを知り、自主的に読書活動を行うようになります。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| ①家庭・地域・学校での、子どもの発達段階に応じた読書活動推進、②各関係団体、機関の連携や協力の推進、③子どもの読書活動に関する理解と関心の普及啓発により、子どもの読書活動の環境づくりを進めます。 具体的には、ブックスタート事業、小学生読書リーダー養成講座、子ども読書に関する啓発などに取り組みます。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 児童書の貸出し冊数 | 目標値 (冊) | 162,000 | 163,000 | 164,000 | 165,000 | 子どもの数が減少していく状況にあっても、H27年度の実績(16万1千冊)から毎年1千冊増加。 |
| | 実績値 (冊) | 158,348 | 160,542 | 157,752 | | |
| | 達成度 (%) | 97.7 | 98.5 | 96.2 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|---|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ブックスタート事業 全新生児に、ブックスタートバック(絵本、布バッグ、リーフレット)を732人に配布するとともに、フォローアップ講座「赤ちゃんとのコミュニケーション講座」を実施しました。 小学生読書リーダー養成講座 全4回講座を実施し、20人の読書リーダーを養成しました。 子ども読書に関する啓発 4月23日の子ども読書の日にあわせ、広報おおむたに特集ページでの掲載を行うとともに、全児童・生徒にチラシを配布。市立図書館においては関連イベント等を実施しました。 家庭での読書の推進 家庭での読書環境の充実を図るため、広報おおむたに関連記事を掲載するとともに、うちどくノートを作成し、希望者に無料で配布しました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 1,099 千円 | | 40 | | | 1,059 |
| (次年度への繰越 | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 指標の達成度は96.2%となっており、前年度から比較すると2,790冊減少しています。団体貸出しの利用を促進するなど、貸し出し冊数を増やす取組みが必要です。 「赤ちゃんとのコミュニケーション講座」をはじめとした各種おはなし会への参加者を増やすことで、子どもが読書に親しむ環境づくりを進める必要があります。 小学生期と比較すると中学生期の不読率が高いことから、中学生期の読書活動を促す取組みが必要です。 | | | | | | |
| 今後の方向性(具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者との協働により、団体貸出しに関する広報の充実や、利用しやすい手法等を検討します。 各種おはなし会についての情報提供を充実、工夫することで参加者の増加を図り、子どもが読書に親しむ機会を増やします。 中学生期の読書活動の充実を図るため、中学生読書活動サポーター養成講座を実施します。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 目標値には到達することができず、昨年度と比較しても貸出冊数が減少しています。指定管理者や学校をはじめとした関係機関と連携するとともに、団体貸出の周知や中学生期への取り組み等を通して、子どもの読書活動の推進を図っていきます。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 地域コミュニティ推進課

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 事業名 | (施策推進の視点) 子どもの体験活動の充実 子ども未来デッサン事業 |
|-----|--------------------------------------|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|---|---------|------|------|------|------|--|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 小学校高学年(4~6年生)が、自分の将来のことを考え、夢や目標を見つけるきっかけをつくることで、児童達に未来へ向かって頑張る姿勢を身に付けてもらうための一助となることを目指しています。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 児童達が、様々な仕事に携わる職業人から、職業に就いたきっかけや、夢を実現させるために努力したこと、現在の職業のやりがいや様子などの話を聞く機会をつくります。実施にあたっては、講義のみならず模擬体験などを行い、子ども達の興味を促すよう工夫を凝らした内容で行います。 なお、職種については、青少年向けの職業を紹介した書籍、小学校6年生の将来の夢(小学校日より)、受講した子どものアンケートなどを参考に選定を行うとともに、講師については、地元の人材を活用するなど、地域における世代間交流にも結びつくような取組みへとつなげます。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| チャレンジ意識を持てるようになった参加者の割合 (参加者アンケート) | 目標値 (%) | 100 | 100 | — | — | 児童全員が事後のアンケートで「自分も何かを頑張ってみようと思った」と回答することを目指して取組みます。 |
| | 実績値 (%) | 97.9 | 98.0 | — | — | |
| | 達成度 (%) | 97.9 | 98.0 | — | — | |
| 夢や将来のことを考えたり思ったりした参加者の割合 (参加者アンケート) | 目標値 (%) | — | — | 95.0 | 97.0 | 自分の夢や将来のことを考え、「未来の自分の姿」を描くことができるようになることを目指し、目標値をH30年度95%、R元年度97%と設定しました。 |
| | 実績値 (%) | — | — | 89.7 | | |
| | 達成度 (%) | — | — | 94.4 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|---|--|---|---|----|-----|------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> DTP クリエーター (合同会社壺百年計画 代表 田中達磨氏) 8/23 受講者 14人 英会話講師 (㈱キバックスインターナショナル 代表 木場真一氏) 9/2 受講者 9人 獣医師 (大牟田市動物園 園長 椎原春一氏、獣医師 木村藍氏) 9/16 受講者 19人 シュガークラフトアーティスト (スマイルスイーツ 代表 松岡麻美氏) 12/09 受講者 15人 臨床検査技師 (大牟田市立病院 中央検査部 部長 境加津代氏他) 12/15 受講者 14人 元プロ野球選手 (現:野球解説者 柴原洋氏) 1/13 受講者 33人 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 125 千円 | | | | | 125 |
| (次年度への繰越 千円) | | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 事業開始から3年が経過しており、それまでの指標において高い達成度となっていたことから未来の自分の姿を描ききっかけとなったかどうかの指標へと変更しました。その結果、約9割の児童が考えるきっかけとなったと答えるなど、一定の効果は得られたものと思われまます。 本講座は講義が中心で、講師自身の生き方や体験を聴き、仕事の素晴らしさや将来の目標を見つけるきっかけづくりとなることを目的としており、一部模擬体験も行われるものの、職場実習や体験のみの講座とは異なる旨を周知段階で行なったことや、会場を地区公民館に移したことなどにより、全体的な受講者数は減少する結果となりました。 講師の知名度で参加者数にばらつきがあることを防ぐため、講師名を公開しないで広報を行ないましたが、複数の市民より公表すべきでとの意見があったことから、講師名の事前公表の在り方について検討する必要があります。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 実施にあたっては、講座の趣旨(講師の生き方や体験を「聴く」ことにより自身の将来や夢を実現するためのきっかけづくりの講座)を充分理解するための市民周知(児童への理解)の工夫をします。 定員を原則30名とするとともに、講師名を事前に公開して興味を持っていただくなどの工夫を行います。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 対象者のニーズに即しており、社会性をはぐくむ事業です。大人(職業人)の「子どもを地域で育てる意識」の醸成、社会全体で青少年を見守りはぐくむ環境づくりにも寄与しています。また、講師自らが学んだ成果を発表する場にもなっています。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) 子ども体験活動の充実 文化芸術を通じたコミュニケーション能力アップ事業 |
|------------|--|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|---|---------|------------|------------|------------|------------|--|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 子どもたちが身近に、かつ日常的に文化芸術に触れる中で、今必要とされている異文化理解能力や想像力を養い、コミュニケーション能力が向上することを目指します。併せて、周りの大人たちがコミュニケーション能力の重要性を再認識し、ともに理解し合える環境を整備していきます。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| H30 年度以降、当面は、演劇によるコミュニケーション教育の手法を軸とした事業を継続実施することで、子どもたちの文化的土壌を作ります。 具体的には、演劇の手法を活用したワークショップや講演会を実施します。 子どもたちに体験してもらうとともに、子どもの周りの大人たちが体験し、その意義を実感することで相乗的な効果を生み出し、まちづくりへの活力とします。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 「コミュニケーション能力向上の必要性を理解した」参加者の割合 | 目標値 (%) | - | - | 90 | 90 | 事業の意図に合致した講演等を実施できたかを、このアンケートの回答割合で判断します (目標 90%以上)。 |
| | 実績値 (%) | - | - | 99.6 | | |
| | 達成度 (%) | - | - | 111 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|---|---|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| 講師に劇作家で「演劇を通じたコミュニケーション教育」の実践など多方面で注目される平田オリザ氏を招き、次のとおり事業を実施しました。 ・講演会及びワークショップ〔教職員研修を兼ねる〕 教職員 149 人 その他 55 人 ・羽山台小学校での演劇ワークショップ 6 年生 54 人 ・市職員等研修〔2 回〕 ①主査級職員他 32 人 ②管理職員 19 人 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 2,100 千円 | | | | | 2,100 |
| (次年度への繰越 | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く大人がコミュニケーション能力の重要性を再認識するとともに、この事業の意義について実感できるような取組みとなるよう、工夫する必要があります。 演劇ワークショップなどを活用した取組みの効果を更に向上させるためには、関係機関と連携し、この手法の更なる活用の検討を進める必要があります。 コミュニケーション能力の向上にとどまらず、文化芸術の持つ力を人づくりやまちづくりに活用し、まちの魅力を高める取組みへとつなげていくことが必要です。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 小学校での演劇ワークショップでは、継続的な効果や波及効果を狙うため次年度は 5 年生を対象に 2 回実施します。また、地域全体で子どもの育成を支える人づくりやまちづくりについて考える契機とします。 若手職員を対象に市職員研修を継続し、事業を通じて文化芸術や教育施策の意義について考えるとともに、まちの文化を自己決定する能力や「新しい広場」の概念について理解を深める取組みをすすめます。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 文化芸術、特に演劇の持つ力を活かした取組みを実施することで、コミュニケーション能力向上の重要性について、参加者の認識が深まりました。次年度も引き続き本事業に取り組み、更なる環境の整備に努めます。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： スポーツ推進室

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) スポーツ・文化芸術活動を通じた青少年の心身の育成 子どもの体力向上事業 |
|------------|--|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|------------|------------|------------|-----------|------------------------------|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 子どもが、幼少期から運動・スポーツに慣れ親しむことで、スポーツの習慣化による心身の健全化を図ります。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 就学前の子どもの保護者に対してスポーツが持つ効果の理解促進を図り、子どもと保護者が、家庭において気軽に運動・スポーツに取り組めるよう就学前の子ども (3~6歳) を対象とした「親子運動セミナー」を実施します。 | | | | | | |
| 全5回連続講座：第1回目 保護者講義、子どもの体力測定① 第2、3、4回目 親子を対象とした実技 第5回目 子どもの体力測定② | | | | | | |
| 参加者に対するアンケート追跡調査 (H31年3月頃) | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 半年後に運動・スポーツを週1回以上継続して実施している子どもの割合 | 目標値 (%) | 100 | 100 | 100 | 100 | H27年度実績(継続実施率:100%)を基に目標値を設定 |
| | 実績値 (%) | 100 | 100 | 100 | | |
| | 達成度 (%) | 100 | 100 | 100 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|---|--|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 親子運動セミナー (48組、110人) 時期 H30.6.17~10.28 場所 大正小学校体育館 (第4回のみ大正小学校運動場) 内容 第1回 保護者セミナー、子どもの体力測定① 第2、3、4回 親子で運動遊び 第5回 子どもの体力測定② 参加者に対するアンケート追跡調査 (H31.4) 子どもの体力測定において1回目と5回目の比較では、ほとんどの種目において記録が伸びており、子どもの体力向上がみられました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 450 千円 | | | | | 450 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 本事業は、参加者数も多く、また、参加者の満足度が高い事業です。 就学前の子どもを対象として継続して実施する事業が少なく、アンケート結果では、保護者は年間を通じた事業実施を望む声もあります。また、内容については、いろいろなスポーツの体験ができるといった意見など、好評を得ている事業であります。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| 今後の実施回数や内容については参加者の意見などを参考に検討を進めます。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | セミナー終了後に行うアンケート結果からも、好評を得ており、体力の向上とスポーツの習慣化に寄与しています。 | | | | | |

評価・検証シート【施策】

平成 30 年度

【所管部局】教育委員会

| | |
|-----|--|
| 施策名 | (第1編第3章) 社会を生き抜く力を育成する学校教育が充実しているまち |
|-----|--|

1. 計画 (Plan)

意図 (どのような状態になることを狙っているのか)

児童生徒に、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、激しく変化し続ける社会の中で、それらを活用しながら、自ら課題を発見し、主体的に解決できるようになるために必要な資質や能力すなわち「社会を生き抜く力」をはぐくみます。

| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
|------------------------------|---------|-------|-------|-------|------|--|
| 将来に向けて意欲を持って取り組もうとする中学3年生の割合 | 目標値 (%) | 74.0 | 76.0 | 78.0 | 80.0 | 現状値から8ポイント程度(年2ポイント)の向上を目指します。 [現状値:72.6%(H27年度実績)] |
| | 実績値 (%) | 74.3 | 76.2 | 78.6 | | |
| | 達成度 (%) | 100.4 | 100.3 | 100.8 | | |

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

本施策の成果指標のH30年度の実績値は78.6%となり、目標を達成することができました。その要因として次のようなことが考えられます。

児童生徒は、自己の能力を発揮できたときや自己の目標の達成感を味わったとき、新たな目標を持ち、主体的に行動します。本市の特色ある教育の主要な柱であるESDの推進において、各学校は、学校の特色や児童生徒の発達段階に応じ、自ら考え行動する児童生徒の育成を目指した教育活動を展開し、教育委員会はその支援を行うとともに、ESDに関する様々な全市的的事业に取り組みました。その結果、児童生徒は、目標を持つことの大切さについて理解するとともに、目標に向けて頑張ったことによる達成感を味わうことができたと考えられます。

更に、社会を生き抜く力の基礎となる「確かな学力(知育)」、「豊かな心(徳育)」、「健やかな体(体育)」のバランスが取れた児童生徒の育成を目指して、各学校は、児童生徒の興味・関心や能力に応じた教育活動を展開し、教育委員会はその支援を行うとともに、様々な全市的的事业に取り組みました。

その結果、児童生徒それぞれが自己のよさを様々な場面で発揮でき、達成感を味わうことができたと考えられます。

(2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す)

これまでの継続的な取り組みの結果がH30年度目標の達成につながったと考えられますので、今後においても、本施策を構成する様々な事業の更なる推進と拡充を基本に取り組んでいくことが重要であると考えます。

このため、ESDを中核として、郷土愛をはぐくむ学習や英語教育などの本市の特色ある教育の充実を一層進めるとともに、知育・徳育・体育のバランスが取れた教育を推進し、児童生徒が達成感を味わうことで、新たな目標を持ち、将来に向けた意欲を持てるようはぐくんでいきます。

また、各学校が更に特色ある教育活動を展開することで、児童生徒一人ひとりが自己のよさを発揮し、目標を持って主体的に学ぶことができるよう支援していきます。

(教育委員会事務局長 中村 珠美)

4. 施策推進の視点と各構成事業

| No. | 事業名 | 所管課 | 成果指標等 | | | 評価結果 | |
|----------------------------------|---------------------------------|-------------|----------------------------------|----|------------------|-------------|------------|
| | | | 指標名 | 単位 | H30 目標 H30 実績 | 評価検証 ・分析 | 今後の 方向性 |
| [視点1] 特色ある学校教育の展開 | | | | | | | |
| 1 | 【重点】おおむた・みらい・ESD 推進事業 | 指導室 | ESD を通じた地域や世界への貢献の意識 | % | 89.0 89.7 | 順調 | 充実 |
| 2 | 【重点】人と海と未来をつなぐ海洋教育推進事業 | 指導室 | 三池港や有明海に対する興味・関心 | % | 75.0 85.2 | 順調 | 継続 |
| 3 | おおむた郷土学習推進事業 | 指導室 | 郷土大牟田に対する興味・関心 | % | 89.0 89.0 | 順調 | 継続 |
| 4 | 小中学生伝統文化等体験事業 | 指導室 | 大牟田の伝統文化等に対する興味・関心 | % | 70.0 73.7 | 順調 | 充実 |
| 5 | 【重点】大牟田英語教育ステップアップ推進事業 | 指導室 | 英語の授業の理解度 | % | 84.0 84.2 | 順調 | 継続 |
| 6 | 小中連携・小中一貫教育の推進 | 指導室 | 小中連携・小中一貫教育の取組み実績 | 回 | 58 62 | 順調 | 継続 |
| 7 | 学びのイノベーション推進事業 | 指導室 | 電子黒板の導入効果 | % | 70.0 72.3 | 順調 | 継続 |
| [視点2] 知育・徳育・体育のバランスが取れた児童生徒をはぐくむ | | | | | | | |
| 8 | 少人数学級編制・少人数授業推進事業 | 学校教育課 | 少人数学級編制による学習意欲の向上 | % | 90.0 97.0 | 順調 | 継続 |
| 9 | 【重点】大牟田学力ブラッシュアップ推進事業 | 指導室 | 標準学力検査結果 | — | 50 50.0 | 順調 | 継続 |
| 10 | 【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業 | 指導室 | 友だちを大切にする意識 | — | 3.7 3.70 | 順調 | 継続 |
| 11 | 読書活動推進事業 | 指導室 | 本をよく読むと答えた児童生徒の割合 | % | 31.0 34.2 | 順調 | 継続 |
| 12 | 【重点】子ども大牟田体力検定推進事業 | 指導室 | 児童生徒の体力向上の取組み実績 | % | 90.0 90.5 | 順調 | 継続 |
| 13 | 学校教育における食育推進事業 | 学務課、指導室 | 毎日朝食を食べている児童生徒の割合 | % | 90.5 87.7 | やや遅れ | 改善 |
| 14 | 特別支援教育支援員活用事業 | 学校教育課 | 特別支援教育支援員の配置効果 | % | 100 100 | 順調 | 充実 |
| 15 | 特別支援学校医療的ケア事業 | 学校教育課 | 看護師の配置効果 | % | 100 100 | 順調 | 継続 |
| 16 | 教育相談事業 | 指導室 | 適応指導教室、訪問指導員が関わることで解決又は好転した事案の割合 | % | 80.0 82.4 | 順調 | 継続 |
| [視点3] 学校教育環境の充実 | | | | | | | |
| 17 | 【重点】学校再編整備推進事業 | 学校再編推進室、学務課 | 学校再編による教育環境向上の満足度（駿馬小） | % | 80.0 88.4 | 順調 | 継続 |
| 18 | 学校施設長寿命化改修事業 | 学務課 | 長寿命化を完了した学校の割合（当該年度分） | % | — | — | 継続 |
| 19 | 非構造部材耐震化推進事業 | 学務課 | 耐震化を完了した学校の割合（特定天井の撤去率）（当該年度分） | % | 100 100 | 順調 | 終了 |
| [視点4] 安心して学べ、地域とともにある学校づくり | | | | | | | |
| 20 | 【重点】（再掲）「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業 | 指導室 | 友だちを大切にする意識 | — | 3.7 3.70 | 順調 | 継続 |
| 21 | スクールソーシャルワーカー活用事業 | 指導室 | SSW が関わることで解決又は好転した事案の割合 | % | 78.0 78.1 | 順調 | 充実 |
| 22 | 就学援助事業 | 学務課 | 保護者への就学援助事業を周知した割合（申請書等配布率） | % | 100 100 | 順調 | 継続 |
| 23 | ユネスコスクールの体制に関する研究 | 学校教育課 | ユネスコスクールの体制に関する研究・協議の実施回数 | 回 | 6回 6回 | 順調 | 継続 |

※「市立学校適正規模・適正配置計画の中間見直し」は評価対象から除外しています。

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 特色ある学校教育の展開

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 【重点】 おおむた・みらい・ESD 推進事業 《平成 30 年度重点事業の取組状況報告書 参照》 |
| 事業名 | 【重点】 人と海と未来をつなぐ海洋教育推進事業 《平成 30 年度重点事業の取組状況報告書 参照》 |
| 事業名 | おおむた郷土学習推進事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】 H30 年度の子ども大牟田検定（郷土検定）は小学校低学年も受検しました。1 回目（通算 15 回目）を 9 月に行い、7,484 人の児童生徒が受検しました。2 回目（同 16 回目）を 1 月に行い、7,460 人の児童生徒が受検しました。年間合計の受検率は 93.9% でした。また、市内高校生や一般市民約 2,300 人が受検しました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】 小学校低学年は、2 回目からの受検とし、発達段階に応じた、検定問題や受検体制等、効果的な取組の継続を図ります。 |
| 事業名 | 小中学生伝統文化等体験事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】 8 月に、市内児童生徒を対象に「おおむた カルタ講座」を 2 回の連続講座として開催しました。また、生涯学習課と連携し、音楽や総合的な学習の時間における伝統文化の学習において、学校へボランティア講師を派遣し、児童生徒の体験学習を支援しました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【充実】 児童生徒に、体験を通して伝統文化に触れさせるために、生涯学習課やカルタックス等と連携を図りながら、取組の充実を図っていきます。 |
| 事業名 | 【重点】 大牟田英語教育ステップアップ推進事業 《平成 30 年度重点事業の取組状況報告書 参照》 |
| 事業名 | 小中連携・小中一貫教育の推進 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】 市内中学校区ごとに、小学校と中学校の 9 年間を見通した教育活動を推進するために、全職員参加の小中合同研修会や管理職・担当者ごとの情報交換連絡会などを実施しました。今後、各中学校校区における取組の一層の具体化と、中学校区相互の取組内容の共有化が課題です。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】 中学校区ごとの各研修会の定期的な実施および内容の充実と、市教委が主催する各担当者会や教育講座等において小中連携の視点を取り入れていきます。 |
| 事業名 | 学びのイノベーション推進事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】 パソコン室 PC の更新に伴い、市内小学校 19 校に着脱式 PC を、中学校にデスクトップ PC を整備し、教科・領域の学習において活用できるようにしました。また、各小学校において、国語や算数の学習を中心に電子黒板を活用し、学力の向上を目指しています。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】 電子黒板やタブレット PC 等を一層効果的に活用することができるよう、ICT 活用に関する研究指定校を指定して、その成果を市内学校に広げていきます。 |

[視点2] 知育・徳育・体育のバランスが取れた児童生徒をはぐくむ

| | |
|--------------------|--|
| 事業名 | 少人数学級編制・少人数授業推進事業 |
| 事業の 実施状況 と課題 | <p>【順調】少人数学級編制については、県加配教員を担任とする等により、全小学校の全学年を35人以下学級としました。中学校では学校の実態に応じて弾力的運用を図り、対象5校のうち1校1学年を35人以下学級としました。また、少人数授業推進のため、非常勤講師を小学校に13人、中学校に9人派遣しました。これらの取組みを通してきめ細かな指導の充実を図ったことで、学習意欲や学力の向上とともに、落ち着きある学級づくりを進めることができました。</p> <p>課題としては、事業の成果を更に向上できるよう、非常勤講師の派遣の一層の充実を図る必要があります。</p> |
| 今後の方向 性と具体策 | <p>【継続】今後数年間における本事業の対象学級数の出現率を見極めながら、非常勤講師の派遣の充実に取り組みます。</p> |
| 事業名 | <p>【重点】大牟田学カブラッシュアップ推進事業 《平成30年度重点事業の取組状況報告書 参照》</p> |
| 事業名 | <p>【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業 《平成30年度重点事業の取組状況報告書 参照》</p> |
| 事業名 | 読書活動推進事業 |
| 事業の 実施状況 と課題 | <p>【順調】児童生徒が読書の楽しさを知り、豊かな心をはぐくむことを目的に、読書感想文コンクールを実施しました。H30年度は新たに、本市出身の絵詞（えことば）作家である「内田麟太郎」部門を設け、自由図書部門とあわせて7月に作品を募集し、2月に優秀賞の表彰式を行いました。3月に読書感想文集を各学校や関係機関へ配布しました。</p> <p>11月に、図書館教育の市研究指定委嘱校である倉永小学校が研究発表会を開催し、読書環境の整備や家庭・地域との連携を通じた読書活動の充実について研修を深めました。</p> <p>各学校では、担当教師と司書等が連携を図り、学校の実態に応じて読書週間の取組や推薦図書コーナーの設置、読み聞かせや親子読書などに取り組み、児童生徒の読書への関心が高まっています。</p> |
| 今後の方向 性と具体策 | <p>【継続】各学校の担当教師と司書等が一層の連携を図りながら、読書活動の更なる充実を進めていきます。</p> |
| 事業名 | <p>【重点】子ども大牟田体力検定推進事業 《平成30年度重点事業の取組状況報告書 参照》</p> |

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 学校教育における食育推進事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【やや遅れ】食育推進モデル校、早寝早起き朝ごはん運動推進モデル校の指定による食に関する意識や食習慣の改善、朝食摂取率の向上等の推進とともに、朝食啓発レシピ「朝食ポケットレシピ」の配布や学校給食レシピコンテストの実施等により食への関心を高める取組みを進めました。成果指標（朝食摂取率）のH30実績値が目標値に達していないため、「やや遅れ」と評価しました。年度当初の計画どおりに事業は実施したものの、国・県ともに朝食摂取率が低下傾向にあるとは言え、国・県の平均値よりも下回っていることがその理由です。朝食の摂取状況は、所得や世帯類型の影響や他の生活習慣にも課題があることも指摘されている中、モデル校での取組み等の充実とともに、各学校、保護者等への啓発・普及も積極的に図る必要があります。また、平日は食べていても、休日には朝食を食べない児童生徒がいることが考えられることから、休日の朝食摂取率の向上を図ることも必要です。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【改善】モデル校での取組みの内容とその成果を各学校へ広げるとともに、食育通信等での啓発をさらに充実することにより、休日も含め朝食を食べる習慣を促し、全ての児童生徒と保護者が朝食の大切さをしっかりと理解し、家庭での実践に結びついていくよう更なる啓発を進めます。</p> |
| 事業名 | 特別支援教育支援員活用事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】障害児就学指導委員会等により要支援と判断された全ての児童生徒125人に対し、小学校18校に37人、中学校8校に15人、計52人の支援員を派遣しました。きめ細かな支援を受けることで、対象児童生徒本人の精神的な安定が図られ、周囲の児童生徒の理解も進み、学級全体が落ち着き、集中して学習に取り組むことができました。また、保護者の介助等の軽減も図られました。課題としては、今後も要支援児童生徒の増加が見込まれており、それに伴う人材と派遣人数の確保と、各学校の校長を中心とした組織的な校内支援体制づくりの充実が必要です。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【充実】要支援児童生徒の増加に対応できるよう、支援員の人材確保と資質の向上を図るとともに、組織的な校内支援体制づくりに関する管理職への周知を更に進めます。</p> |
| 事業名 | 特別支援学校医療的ケア事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】大牟田特別支援学校の対象児童生徒4人に対し、2人の看護師を非常勤職員として配置しました。校長を中心とした医療的ケア運営委員会を毎学期2回開催し、主治医・指導医の指導のもと、保護者の理解も得ながら医療的ケアを行うことで、児童生徒の症状は安定し、保護者の負担も軽減されています。また、対象児童生徒の年度途中での増加に対応できるよう、看護師の一定の増員も可能としています。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】児童生徒数の推計では、今後数年は同程度で推移すると予想されますが、常に関係機関との連携を図りながら、児童生徒の実態把握に努めていきます。</p> |
| 事業名 | 教育相談事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】市教育研究所教育相談室に、教育相談員2人、ひきこもり児童生徒訪問指導員3人、スクールソーシャルワーカー（SSW）3人を配置しました。加えて、県派遣のSSW1人を1中学校区に配置しました。SSWの増により、学校や保護者からの相談への早期対応が進みました。教育相談員、訪問指導員、SSWの3者による連携を図り、児童生徒、保護者等への面談、学校・家庭訪問等を実施し、問題の解決に取り組んだことで、解決又は好転に向かいました。今後も、複雑化・深刻化する前の段階での早期対応の充実が課題です。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】教育相談室、学校、子ども家庭課等の関係機関と、問題発生時の早い段階での情報共有に努め、問題への早期対応、早期解決に努めていきます。</p> |

[視点 3] 学校教育環境の充実

| | |
|--------------------|--|
| 事業名 | 【重点】学校再編整備推進事業 《平成 30 年度重点事業の取組状況報告書 参照》 |
| 事業名 | 学校施設長寿命化改修事業 |
| 事業の 実施状況 と課題 | <p>H30 年度は工事等の実施はありませんでしたが、R 元年度以降の事業の進め方について課題整理等を行いました。</p> <p>学校施設の整備については、長寿命化改修以外にも、多くの事業を実施していく必要がありますが、改修時期等を延伸することで施設の老朽化が一層進行し改修費用が更に増加することがないように、学校施設長寿命化改修計画に示す基本方針を踏まえ、計画的に学校施設の長寿命化を進める必要があります。</p> |
| 今後の方向 性と具体策 | 【継続】総合計画の財政計画との整合を図りながら、手鎌小学校校舎の外壁改修工事、屋上防水工事や羽山台小学校の実施設計など、計画的に学校施設の長寿命化を進めます。 |
| 事業名 | 非構造部材耐震化推進事業 |
| 事業の 実施状況 と課題 | 【順調】小学校 4 校（明治小学校、高取小学校、上内小学校、吉野小学校）、中学校 1 校（白光中学校）及び大牟田特別支援学校の体育館等の天井落下防止工事、並びに LED 照明器具への取換えを行いました。 |
| 今後の方向 性と具体策 | 【終了】H30 年度をもって全ての天井落下防止対策等が完了したことにより、事業を終了します。 |

[視点4] 安心して学べ、地域とともにある学校づくり

| | |
|--------------------|---|
| 事業名 | 【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業 《再掲 第1編3章視点2参照》 |
| 事業名 | スクールソーシャルワーカー活用事業 |
| 事業の 実施状況 と課題 | 【順調】市教育研究所相談室にスクールソーシャルワーカー（SSW）3人を配置し、さらに、県派遣のSSW1人を1中学校区に配置し、学校関係者や保護者等からの電話での相談や面談等の対応を行いました。教育相談室内の関係者による情報交換や、教育、福祉関係機関によるケース会議において、支援を要する児童生徒等の情報の共有と問題の解決を図りました。しかし、相談件数は年々増加し、相談内容も多様化・複雑化しており、よりきめ細かな対応ができる相談体制の整備が課題です。 |
| 今後の方向 性と具体策 | 【充実】SSWと関係機関との更なる連携を図るとともに、拠点校型や派遣型等、状況に応じたきめ細かな対応ができる相談体制をとるようにしていきます。 |
| 事業名 | 就学援助事業 |
| 事業の 実施状況 と課題 | 【順調】1,381人（小学校929人、中学校452人）の児童生徒の保護者に対して、学校給食費や学用品費等を支給しました。また、中学校新入学学用品費の入学前支給について、保護者の申請手続きの負担軽減を図りました。今後も就学援助の制度周知や申請手続き面の充実に努めていくとともに、就学援助の内容についても検討していく必要があります。 |
| 今後の方向 性と具体策 | 【継続】子どもの貧困対策の推進に関する法律などの関係法令の趣旨を踏まえ、今後も引き続き、援助が必要な児童生徒等の保護者に対し、「広報おおむた」や学校等を通じて就学援助制度の周知を図るとともに、申請手続き面の負担軽減も図りながら、必要な援助を適切な時期に実施できるよう努めていきます。また、実態も考慮しながら、よりよい就学援助制度について検討していきます。 |
| 事業名 | ユネスコスクールの体制に関する研究 |
| 事業の 実施状況 と課題 | 【順調】ユネスコスクールの支援体制強化を目指す「大牟田版コミュニティ・スクール構想」について、他市のコミュニティ・スクールの視察等を行うなどにより、本市の実情を踏まえた「学校運営推進委員会（仮称）」の研究を進めました。学校評議員、学校関係者評価委員及び地区公民館長等で構成する「学校運営推進委員会（仮称）」の将来的な設置に向け、まずは一定の学校をモデル校として試行的に取り組むこととしました。今後は、試行する学校区の選定と試行体制の整備を行う必要があります。 |
| 今後の方向 性と具体策 | 【継続】試行する学校区を具体的に選定するとともに、円滑な試行に向けた体制の整備を行っていきます。 |

平成30年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：学校教育課指導室)

| | |
|-----|---|
| 事業名 | (施策推進の視点) 特色ある学校教育の展開 おおむた・みらい・ESD推進事業 |
|-----|---|

| | |
|----|--|
| 目的 | 本市の特色あるESD(持続可能な開発のための教育)の取組をさらに発展・拡充させ、持続可能な社会づくりの担い手としての児童生徒の育成を目指します。また、ESDを市全体に広めていくとともに、全国や世界に向けて本市のESDの取組を発信し、「ESDのまち・おおむた」のブランド化を目指します。 |
|----|--|

| | |
|------|---|
| 事業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1月17日の「大牟田市ユネスコスクールの日」を「ユネスコスクール・ESDのまち おおむた宣言」記念日として「ESD子どもサミット」を開催し、児童生徒による学習成果の発表や他地域の学校との交流を行います。また、「大牟田市ユネスコスクール週間」の期間中に各学校が行うESDに係る学習発表会等への支援を行います。 各学校のユネスコスクール・ESDの充実を図るため、次のことに取り組みます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各学校が行う世界遺産学習、環境学習、福祉学習、国際理解学習等の教育活動、全国や世界のユネスコスクールとの交流活動の充実を支援します。 (2) 小学校1校を研究校に指定し、地域の特色を活かしたESDの調査研究を行います。 (3) 市立学校の児童生徒を対象に、自然体験などのESD体験講座を開催し、体験を通して主体的に考え行動する態度を育成します。 学校教育において、地域のSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献しつつ、全国レベルで持続可能なESDの推進体制を構築するため、次のことに取り組みます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 先進的にESDに取り組む教育委員会が参画する「SDGs/ESD教育委員会コンソーシアム」を形成し、「ユネスコスクール・SDGs/ESD教育委員会サミット」を開催するなど、相互に連携する体制づくりを進めます。 (2) 全国各地域におけるESD実践の中核となる指導的な教員の養成とネットワーク化のシステム「ESDマスターティーチャープログラム」を開発します。 市内外の教職員等を対象に、ユネスコスクール・ESD研修会を開催します。 保護者、一般市民、企業・団体等を対象に、ESDに関する市民講座や交流会を開催し、ESDへの理解を促進します。 啓発リーフレットや各学校の実践事例集の作成・配布、ホームページやSNSの活用等を通して、全国や世界に向けて本市のESDの取組を発信します。あわせて、市民向けの啓発(『広報おおむた』へのESD特集記事の掲載等)を行います。 |
|------|---|

| 指標名 | 目標値等 | H28 | H29 | H30 | H31 | 指標・目標値設定の根拠 |
|---------------------|---------|-------|-------|-------|-----|--|
| ESDを通じた地域や世界への貢献の意識 | 目標値 (%) | 87 | 88 | 89 | 90 | 地域や世界のために頑張りたいと答えた小学5年生と中学2年生の割合(27年度実績・86%)を、90%を目指して年に1ポイントずつ向上させます。 |
| | 実績値 (%) | 87.4 | 88.3 | 89.7 | | |
| | 達成度 (%) | 100.5 | 100.3 | 100.8 | | |

| | |
|------|--|
| 取組実績 | <ol style="list-style-type: none"> 7月の定例校長会で「ユネスコスクール・ESD子どもサミット」での学校の発表について周知し、発表校の募集を行いました。1月12日に開催したサミットで、市内小学校6校・中学校2校が発表しました。市外からは宮城県多賀城高等学校が発表しました。さらに、各学校が実施するユネスコスクール週間の企画に関して助言等の支援を行いました。 各学校のユネスコスクール・ESDの充実を図るため、次のことに取り組みました。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各学校は、学校の特色に応じたESDのテーマを設定し、特色ある教育活動を展開しました。学校の要請に応じて、校内研修に指導主事を派遣し、ESDに係る理論研修や実践のポイント等について指導助言を行いました。 (2) 吉野小学校を研究校に指定し、「持続可能な社会づくりについて自分の考えを持ち、行動する児童の育成」をテーマに研究を進めました。指導主事を派遣し、研究構想や実践について指導助言を行いました。 (3) 6月と10月に延命公園においてESD体験講座(環境学習)「ネイチャースクール」を開催しました。合計43人の児童が参加し、自然環境の大切さ等について学びました。 本市教育委員会が企画した事業「ESDの深化によるSDGsの達成に向けた教育行政ネットワークと指導者育成システムの構築」が文部科学省のユネスコ活動費補助金の採択を受け、採択団体として次の取組を進めました。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全国10市町の教育委員会が参画する「SDGs/ESD教育委員会コンソーシアム」を創設し、その活動の一環として、8月21日と1月12日に「ユネスコスクール・SDGs/ESD教育委員会サミット」を開催しました。各教育委員会のSDGs/ESDの実践手法や地域課題を共有するとともに、今後の推進・充実に向けた協議を行いました。 (2) 「ESDマスターティーチャー養成講座」を年間5回開催しました。市外から8人、市内から10人の教職員が参加し、SDGs/ESDに関する理論と実践の研修や授業実践の交流等を行い、学びを深めました。 |
|------|--|

- 4 8月22日に「ユネスコスクール・ESD全国実践交流会 in おおむた」を開催しました。全国から300人を超える教職員やESD関係者が参加し、午前のSDGs/ESDについての講演、午後の分科会での実践交流等を通して、SDGsの達成を目指したESDの充実について学び合いました。
- 5 8月から9月にかけて、市民を対象に「ESDちいき講座」を各地区公民館と多目的交流施設「えるる」で8回開催し、166人が受講しました。本市が進めるESDや市立学校の取組を紹介するなどして啓発を行いました。また、8月に市職員（課長、主査等）を対象に「ESD職員研修」を4回開催し、238人が受講しました。
- 6 ホームページやSNS、「広報おおむた」等により本市のESDの取組を紹介し、市民への啓発を図りました。

| 決 算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
|------------------|-----------------|-------|---|----|-----|-------|
| 決算額 (次年度への繰越) | 5,565 千円 千円) | 3,558 | | | | 2,007 |

問題点及び課題

各学校のESDをリードしていく教員を今後も養成するとともに、市民団体や地元企業等との連携を図り、各学校が重点とするSDGsの達成を目指したESDの充実を図っていく必要があります。

今後の方向性（具体策）

「ESDマスターティーチャー」を引き続き養成するとともに、各学校の目指すSDGsを重点化して、さらなるESDの充実を図り、その取組を「SDGs/ESD全国実践交流会」や「子どもサミット」を通して全国に発信します。

| 評 価 | 評価の理由 |
|-------|---|
| 順調・充実 | 当初の計画どおりに事業を展開することができ、成果も上がっています。今後も各学校のSDGsの達成を目指したESDの充実を図るとともに、大牟田市のESDの取組を国内外に発信していきます。 |

平成30年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：学校教育課指導室)

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) 特色ある学校教育の展開 人と海と未来をつなぐ海洋教育推進事業 |
|------------|--|

| | |
|-----------|--|
| 目的 | 世界遺産である三池港やその先に広がる有明海を学習対象として、本市の特色を活かしたカリキュラムや教材開発等の研究を進め、その成果を各学校に広げることにより、「海を通したE S D」といわれる海洋教育を推進し、人と海との持続可能な関係について理解し自分にできることから行動する児童生徒の育成を目指します。 |
|-----------|--|

| | |
|-------------|--|
| 事業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターと連携し、全国の海洋教育促進拠点と研究内容について交流を行うとともに、海洋教育の先進校や実践校との交流を行います。 2 海洋教育を推進するモデル校に指定した学校（みなと小学校・天領小学校・天の原小学校の3校）が行うカリキュラム開発等の研究を支援します。 3 各モデル校が行う公開授業や研究成果の発信、研究紀要等の作成を支援します。 4 各モデル校と市内外の関係機関との連携を支援します。 5 教職員等を対象に研修会を開催します。 |
|-------------|--|

| 指標名 | 目標値等 | H28 | H29 | H30 | H31 | 指標・目標値設定の根拠 |
|------------------|---------|-----|-------|-------|-----|---|
| 三池港や有明海に対する興味・関心 | 目標値 (%) | — | 70 | 75 | 80 | 三池港や有明海のことをもっと知りたいと答えたモデル校の小学5年生の割合を、80%を目指して年に5ポイントずつ向上させます。 |
| | 実績値 (%) | — | 70.5 | 85.2 | | |
| | 達成度 (%) | — | 100.7 | 113.6 | | |

| | |
|-------------|--|
| 取組実績 | <ol style="list-style-type: none"> 1 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進センターと連携し、6月21日に本市の海洋教育モデル校3校と、九州の海洋教育促進拠点である鹿児島県南さつま市及び佐賀県玄海町並びに海洋教育に取り組んでいる同県鹿島市の各1校の計6校の学校間で情報交換会を行いました。 2 6月22日に、海洋教育促進研究センターから講師を招へいして、モデル校3校合同による教職員研修会を開催し、カリキュラム開発のための考え方等について研修を深めました。 3 モデル校の公開授業に指導主事を派遣し、理論研修や実践のポイント等について指導助言を行いました。7月19日に文化会館でモデル校3校が主催した「海洋教育推進モデル校学習交流会」の開催に際し、海洋教育促進研究センターから講師を招へいしました。また、1月25日に開催した「海洋教育こどもサミット2019 in おおむた」において、講師を招へいするとともに、30年度の実践報告書作成に関する指導助言を行いました。また、モデル校以外の学校に向けて、ホームページ等で海洋教育に係る研究成果を発信しました。 4 教育委員会とモデル校の担当者からなる海洋教育推進協議会を4月に開催し、海洋教育に係る関係機関や団体の情報の共有を図りました。また、モデル校による干潟観察会(5~6月)の開催に際し、「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」の方々をゲストティーチャーとして紹介する等の支援を行いました。 5 8月22日に開催した「ユネスコスクール・E S D全国実践交流会 in おおむた」において、海洋教育に関する分科会を設け、市内外の教員を対象に海洋教育に係る研修を実施しました。 |
|-------------|--|

| | | | | | |
|------------------|------------------|---|----|-----|------|
| 決算 | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 (次年度への繰越) | 300 千円 千円) | | | | 300 |

| | |
|----------------|---|
| 問題点及び課題 | 本市海洋教育モデル校の実践を市内の各学校へ発信するとともに、市外の海洋教育推進校との実践の交流を通して海洋教育の更なる広がりや深まりを目指します。 |
|----------------|---|

| | |
|--------------------|--|
| 今後の方向性(具体策) | モデル校が実施する研修会や「子どもサミット」等への市内学校の参加、E S D研修会での実践発表、実践事例集の配布等を通して、海洋教育についての理解の促進を図ります。 |
|--------------------|--|

| | |
|-----------|--|
| 評価 | 評価の理由 |
| 順調・継続 | 当初の計画どおりに事業を実施でき、成果も上がっています。今後も、モデル校の取組を充実させるとともに、その成果の発信を通して本市の海洋教育の充実を図っていきます。 |

平成30年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：学校教育課指導室)

| | |
|-----|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) 特色ある学校教育の展開 大牟田英語教育ステップアップ推進事業 |
|-----|--|

目的
児童生徒が英語を実践的に使う機会を設けることで、英語が世界中の人々とコミュニケーションをとる有効な手段であることを実感できるようにするとともに、外国の言語や文化について理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。

事業内容

- 外国語活動の充実を図るため、小学校が夏季休業期間中に6年生を対象として実施する「イングリッシュ・サマースクール」に「イングリッシュ・アドバイザー」を派遣して支援します。
- 小学6年生用の「イングリッシュ・ノート」を作成し、外国語活動の学習で活用します。
- 中学生を対象に、次の2コースの「イングリッシュセミナー」を開催します。
(1)本市の世界遺産等を外国人見学者に英語で説明する「子どもイングリッシュボランティアガイド」育成コース
(2)ガイド用資料作成コース
- 各学校の英語教育の発表の場「オオムタ・E1グランプリ」を開催し、小学生コンテスト(スキット)と中学生コンテスト(スピーチや暗唱)を行い、優れた発表者を表彰します。
- 新学習指導要領における質の高い英語教育の先行実施として、小学生と中学生の各コースの「ジョイフル・イングリッシュ・タイム(仮称)」を開催し、「聞く」「話す」「読む」「書く」を取り入れた学習や、双方向のコミュニケーション学習の機会を提供します。
- 小学校1校を研究校に指定し、AIロボット活用などの先進的な英語教育の調査研究を行います。
- 小学校では英検5級の、中学校では英検3級の受験を希望する児童生徒に検定料の一部を補助します。
- 本市の英語教育の取組を教育委員会ホームページや『広報おおむた』等に掲載するなどにより、保護者や市民等への情報発信の充実を図ります。

| 指標名 | 目標値等 | H28 | H29 | H30 | H31 | 指標・目標値設定の根拠 |
|-----------|---------|-------|-------|-------|-----|---|
| 英語の授業の理解度 | 目標値 (%) | 82 | 83 | 84 | 85 | 外国語活動、英語科の授業はよく分かれると答えた小学5年生と中学2年生の割合(27年度実績・81.7%)を、85%を目指して毎年1ポイントずつ向上させます。 |
| | 実績値 (%) | 82.9 | 83.2 | 84.2 | | |
| | 達成度 (%) | 101.1 | 100.2 | 100.2 | | |

取組実績

- 夏季休業期間中に全小学校で5日間の「イングリッシュ・サマースクール」を開催しました。英語の指導のサポートを行う「イングリッシュ・アドバイザー」を派遣するなどして、英語を「聞く」「話す」「読む」「書く」の学習の充実を図りました。
- 小学6年生用の「イングリッシュ・ノート」を4月に各学校に配布し、外国語活動の学習の中で活用するよう指導しました。
- 宮原中学校を会場にイングリッシュセミナーを合計20回開催し、延べ160人の生徒が受講しました。セミナーには毎回「イングリッシュ・アドバイザー」を派遣し、学習の充実と生徒の英語の実践力の向上を図りました。
(1)「子どもイングリッシュボランティアガイド」育成コースでは、世界文化遺産宮原坑のよさを英語で伝える活動に取り組みました。
(2)ガイド用資料作成コースでは、宮原坑をはじめ、世界遺産を紹介する英語のパンフレットと、大牟田の宝を紹介する英語カルタを作成しました。
- 小学校と中学校に対し参加を募り、11月10日に大牟田文化会館小ホールで「オオムタ・E1グランプリ」を開催しました。小学校5グループと中学校10グループが外国語活動や英語の学習成果を発表しました。発表後、E1グランプリ賞ほか各賞の表彰を行いました。
- 8月28日に文化会館で、小学校高学年と中学生の各コースの「ジョイフル・イングリッシュ・タイム」を開催しました。小学生54人・中学生17人が参加し、参加者同士やALT(外国語指導助手)との「聞く」「話す」「読む」「書く」を取り入れた学習や、双方向のコミュニケーション学習を行いました。
- 明治小学校を研究校に指定し、大阪樟蔭女子大学等との連携のもと、人型の英会話ロボット“NAO”を活用した英語教育の調査研究を行いました。“NAO”は主に3年生の外国語活動で活用し、5月と2月に学校関係者や報道関係者を対象に授業を公開しました。
- 10月と1月に、英検5級を受験する小学校6年生と英検3級を受験する中学校2・3年生(2年生は1月のみ)を対象に、検定料の一部を補助(小学生1,000円、中学生1,700円)しました。小学生223人と中学生104人が受験しました。
- 本市の英語教育の取組をホームページやSNS等で随時紹介するなど、保護者や市民への情報発信を行いました。

| 決 算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
|---|--|---|---|----|-----|-------|
| 決算額 (次年度への繰越) | 1,333 千円 千円) | | | | | 1,333 |
| 問題点及び課題 | | | | | | |
| <p>新学習指導要領の全面实施（小学校：令和2年度、中学校：令和3年度）を見据えた学習活動の充実が必要です。また、英検検定料の一部補助の継続を含め、児童生徒の興味・関心に応じた学習機会の提供が必要です。</p> | | | | | | |
| 今後の方向性（具体策） | | | | | | |
| <p>各小学校が実施するサマースクールへの支援を継続するとともに、小学校段階での英語を「読む」「書く」の学習が充実するよう学習展開の充実を図ります。また、イングリッシュセミナーとE1グランプリの開催、英検検定料の一部補助についてH30年度の取組を継続します。</p> | | | | | | |
| 評 価 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | <p>当初の計画どおりに事業を実施でき、成果も上がっています。今後、新学習指導要領の全面实施も見据えながら、児童生徒の英語を使う実践力の向上に向けて事業の充実を図っていきます。</p> | | | | | |

平成30年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：学校教育課指導室)

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) 知育・徳育・体育のバランスが取れた児童生徒をはぐくむ 大牟田学力ブラッシュアップ推進事業 |
|------------|--|

目的

本市のこれまでの学力向上の取組の成果と児童生徒の学習状況等を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得並びにそれらを活用する能力の育成を図ります。特に、学力と相関の高い自尊感情の向上を通して、児童生徒の主体的な学びの高まりを目指します。

事業内容

- 1 小学5年生を対象に「将来の夢ノート」を作成・配布し、学ぶ意欲と相関の高い自尊感情の向上を図ります。
- 2 各小・中学校が夏季休業期間中に実施する強化学習「サマースクール」や放課後等に実施する補充学習「アフタースクール」に学習サポーターを派遣し、個に応じたきめ細かな指導を支援します。
- 3 小学校高学年児童及び中学校生徒を対象に、国語・算数(数学)等の難問や応用問題等にチャレンジする「チャレンジスクール」を開催します。
- 4 小・中学校の児童生徒(個人やグループ)による理科や社会科等の学習に関する自由研究のコンテスト「学びのグランプリ」を開催し、教科別・学年別に優れた発表者を表彰します。
- 5 児童生徒用の「家庭学習ガイドブック」と保護者用の「家庭学習リーフレット」を作成し、全児童生徒及び全保護者へ配布するとともに、中学校区単位での小・中連携による取組を進め、家庭学習習慣の定着に取り組みます。
- 6 教職員を対象とする学力向上実践報告会を開催し、各学校の学力向上に関する取組を交流します。
- 7 本市の学力向上の取組を教育委員会ホームページや『広報おおむた』等に掲載するなどにより、保護者や市民等への情報発信の充実を図ります。

| 指標名 | 目標値等 | H28 | H29 | H30 | H31 | 指標・目標値設定の根拠 |
|----------|--------|-------|-------|------|-----|--|
| 標準学力検査結果 | 目標値 | 50 | 50 | 50 | 50 | 小学5年生と中学2年生を対象に実施する標準学力検査の結果を毎年度50(全国平均値)以上とすることを目標とします。 |
| | 実績値 | 50.3 | 50.2 | 50.0 | | |
| | 達成度(%) | 100.6 | 100.4 | 100 | | |

取組実績

- 1 小学5年生用の「将来の夢ノート」を6月に各学校に配布して、道徳や学級活動、並びに学校生活等の中で活用するように指導し、学ぶ意欲と相関の高い自尊感情の向上を図りました。
- 2 各小・中学校において、夏季休業期間中に5日間程度、強化学習「サマースクール」を実施しました。その際、学習サポーターとして教員や学生等を派遣し、学習の充実を図りました。また、各小・中学校が放課後等に実施している補充学習「アフタースクール」等に学習サポーターを派遣し、児童生徒個々の実態に応じたきめ細かな指導を行いました。
- 3 8月7日に文化会館で「チャレンジスクール」を開催し、小学校高学年(国語・算数)44人、中学生(数学)17人が参加しました。小学校高学年の国語では漢字クイズや百人一首など、算数ではつるかめ算や俵算などに挑戦し、中学生の数学では難問に挑戦しました。12月27日には、小学5年生と中学2年生を対象に、国語、算数・数学の基礎・基本の問題に挑戦する「学習チャレンジ大会」を開催しました。
- 4 小・中学校に対し、夏休みの自由研究の作品の中から、理科や社会科等の学習に関する作品を募集しました。それぞれ多数の応募の中から、小学校6点、中学校5点の作品を選考し、10月13日に石炭産業科学館において「学びのグランプリ」を開催し、研究成果の発表と交流を行いました。
- 5 児童生徒用の「家庭学習ガイドブック」と保護者用の「家庭学習リーフレット」を作成し、9月に各学校を通して配布しました。また、毎月11日(”いい日”)を「家庭学習の日」と定め、各中学校区において小学校と中学校が連携し、家庭学習強化週間の設定を行うなどの取組を展開し、家庭学習習慣の定着に取り組みました。
- 6 各学校の校内研修等へ指導主事を派遣し、学校の学力向上プランの充実やPDCAサイクルによる授業改善サイクルの確実な実施についての指導助言を行いました。また、2月28日に学力向上実践報告会を開催し、小・中学校が連携して学力向上を図る授業づくりについて研修を行いました。
- 7 本市の学力向上に係る教育委員会や各学校の取組を教育委員会ホームページやSNS等で随時紹介するなど、保護者や市民への情報発信を行いました。

| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
|-----------|----------|---|---|----|-----|-------|
| 決算額 | 1,689 千円 | | | | | 1,689 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |

| | |
|--|---|
| 問題点及び課題 | |
| <p>児童生徒一人ひとりの学力の実態に応じたきめ細かな学習指導の充実や、新学習指導要領（小学校は令和 2 年度から、中学校は令和 3 年度から全面実施）の趣旨を生かした学習指導を実現するための教師の指導力向上が課題です。</p> | |
| 今後の方向性（具体策） | |
| <p>「強化学習」や「補充学習」への学習サポーター派遣を継続し、個に応じたきめ細かな指導を行います。また、児童生徒の学習への興味関心を高めるとともに、学ぶ意欲を育むため、「チャレンジスクール」、「学びのグランプリ」を引き続き実施します。</p> | |
| 評 価 | 評価の理由 |
| <p>順調・継続</p> | <p>当初の計画どおりに事業を実施でき、成果も上がっています。今後も、児童生徒の学力の向上に向けて事業の充実を図っていきます。</p> |

平成30年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：学校教育課指導室)

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) 知育・徳育・体育のバランスが取れた児童生徒をはぐくむ／安心して学べ、地域とともにある学校づくり 「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業 |
|------------|--|

| | |
|-----------|---|
| 目的 | 児童生徒が日常的にいじめや不登校の問題を考えたり仲間づくりを推進したりすることで、「いじめを許さない・いじめのない学校づくり」や「みんなが笑顔で登校する学校づくり」に関する考えを深め、「思いやり・親切」のある楽しい学校生活、豊かな人間関係づくりを推進します。 |
|-----------|---|

| | |
|-------------|---|
| 事業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 各学校の児童会・生徒会の代表者が一堂に会する「児童会・生徒会リーダーミーティング」を年2回(8月と12月)開催し、各学校における「思いやり・親切」に係る取組の交流や、全学校で共通して実施することの採択等を行い、各学校における取組の充実を図ります。 「思いやり・親切」に係る各学校独自の取組や全学校共通の取組に対する支援を行います。 5月と10月を「思いやり・親切」に係る重点月間として、全学校において次のような取組を行います。 <ol style="list-style-type: none"> 5月に各学校の児童会・生徒会において楽しい学校づくりの取組を話し合い、学校の取組を決定するとともに、友だちを大切に作るポスターや標語の募集を開始します。 10月に各学校の児童会・生徒会において楽しい学校づくりの取組の振り返りを行い、友だちへの関わり方の良かった児童生徒を称賛するとともに、学校代表の「友だち応援隊」として選びます。 各学校で募集が行われた標語とポスターについては、10月に優れた作品を表彰します。また、学校代表の「友だち応援隊」については、1月の大牟田地域教育力向上推進大会で表彰します。 各学校の児童会・生徒会が中心となって取り組む次のような広報啓発活動に対する支援を行います。 <ol style="list-style-type: none"> 楽しい学校づくりの実践を紹介するチラシやポスターの作成・配布等 保護者や地域住民に向けた情報発信 |
|-------------|---|

| 指標名 | 目標値等 | H28 | H29 | H30 | H31 | 指標・目標値設定の根拠 |
|-------------|--------|-------|-------|------|-----|---|
| 友だちを大切に作る意識 | 目標値 | 3.7 | 3.7 | 3.7 | 3.7 | 27年度に実施した学校生活アンケート(1~4の4段階で評価)での「友だち関係」の項目の平均値約3.6ポイント(小学5年生と中学2年生が対象)を毎年度上回ることを目標とします。 |
| | 実績値 | 3.72 | 3.73 | 3.70 | | |
| | 達成度(%) | 100.5 | 100.8 | 100 | | |

| | |
|-------------|--|
| 取組実績 | <ol style="list-style-type: none"> 1回目の「児童会・生徒会リーダーミーティング」を、7月から8月にかけて各中学校区単位でそれぞれ開催し、小・中学校の児童会・生徒会の代表児童生徒が、挨拶運動やメルシーアーチに係る取組の交流や「思いやり・親切」についての意見交換を行いました。中学校区単位で開催したことで、少人数での意見交換となり、各学校の取組の成果と課題をしっかりと共有することができました。2回目は12月26日に開催し、全学校の代表児童生徒が一堂に会し、各学校の8月以降の児童生徒主体の「思いやり・親切」に係る取組の成果と課題について交流しました。 6月に児童会・生徒会担当会を開催し、「思いやり・親切」に係る各学校の取組について情報の共有を行うなどして、各学校の児童生徒主体の取組の充実を図りました。 5月と10月の重点月間に、以下の取組を行いました。 <ol style="list-style-type: none"> 各学校では、5月に児童会・生徒会において楽しい学校づくりの取組を決定し、具体的な取組を開始しました。また、各学校に対して「思いやり・親切」に係るポスターと標語の募集を行いました。 各学校では、10月にこれまでの楽しい学校づくりの取組の振り返りを行うとともに、特に友だちへの関わり方の良かった児童生徒(個人やグループ等)を学校代表の「友だち応援隊」として選びました。 各学校で募集が行われた標語とポスターの審査を10月5日に行い、同月23日に優れた作品を表彰した後、学校や市庁舎、「えるる」等に掲示しました。また、学校代表の「友だち応援隊」については、1月の大牟田地域教育力向上推進大会において、広く市民に取組の内容等の紹介を行いました。 各学校では、1月から2月にかけて、児童会・生徒会による自校の「思いやり・親切」に関する取組を、チラシやポスターの配布等を通して発信しました。 |
|-------------|--|

| 決算 | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
|------------------|------------------|---|----|-----|------|
| 決算額 (次年度への繰越) | 200 千円 千円) | | | | 200 |

| | |
|--|---|
| 問題点及び課題 | |
| <p>中学校区ごとに実施する1回目の児童会・生徒会リーダーミーティングを経て、市全体で開催する2回目のリーダーミーティングにおいて市全体の共通実践を採択する仕組みを整えることができました 今後は、採択した共通実践の継続的な取組と、その成果と課題を共有する工夫が必要です。</p> | |
| 今後の方向性（具体策） | |
| <p>中学校区ごとの取組と各学校の取組とを市全体で共有するとともに、市全体で採択した共通実践を、各学校でさらに具体化し、取組の充実を図っていきます。 また、各学校が保護者や地域に向けて積極的に情報発信するよう支援を継続していきます。</p> | |
| 評 価 | 評価の理由 |
| <p>順調・継続</p> | <p>当初の計画どおりに事業を実施でき、成果も上がっています。今後も、「思いやり・親切」のある楽しい学校づくりに向けて事業を実施していきます。</p> |

平成30年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：学校教育課指導室)

| | |
|------------|---|
| 事業名 | (施策推進の視点) 知育・徳育・体育のバランスが取れた児童生徒をはぐくむ 子ども大牟田体力検定推進事業 |
|------------|---|

目的

児童生徒が主体的・日常的に運動に取り組み体力を向上させるとともに、健康な生活の実践への興味・関心を持つことができるようにします。

事業内容

- 5月に「体力向上チャレンジカード」と「検定カード」を全児童生徒に配布し、日常的に運動に取り組めるようにします。
- 全ての学校において、年間2回(1回目:6月から12月、2回目:1月から2月)の子ども大牟田体力検定を実施します。児童生徒の到達度合いに応じ、体力認定証を配布します。
- 小・中学校体育科研究会と連携して、8月に全小・中学校の児童生徒の体力テストの結果(各学校5月から7月に実施)を分析し、必要に応じて9月以降の体力検定の行い方や内容を見直すとともに、2月に次年度の体力検定の行い方や種目等の検討を行います。

| 指標名 | 目標値等 | H28 | H29 | H30 | H31 | 指標・目標値設定の根拠 |
|-----------------|---------|-------|-------|-------|-----|---|
| 児童生徒の体力向上の取組み実績 | 目標値 (%) | 90 | 90 | 90 | 90 | 27年度に実施した子ども大牟田体力検定に参加した児童生徒の割合89.8%を毎年度上回ることを目標とします。 |
| | 実績値 (%) | 93.5 | 94.6 | 90.5 | | |
| | 達成度 (%) | 103.9 | 105.1 | 100.6 | | |

取組実績

- 5月に「体力向上チャレンジカード」と「検定カード」を全児童生徒に配布しました。各学校では、学校の実態に応じて、「体力向上チャレンジカード」を活用し、児童生徒の1日5分以上の運動実施の定着に取り組まれました。また、体育の時間や朝の時間や昼休みの時間等に、検定カードを活用し、個人縄跳びや集団縄跳び挑戦する場を設け、児童生徒が自己の記録の伸びを実感しながら、敏捷性や全身持久力などの体力の向上を図るようにしました。
- 各学校において、学校の実態に応じて、年間2回(1回目は6月から12月までの期間、2回目は1月から2月までの期間)の子ども大牟田体力検定を実施しました。小学校の検定種目は、全校共通で個人縄跳びと集団縄跳びとし、中学校の検定種目は、より多くの生徒が参加しやすいように、学校や生徒の実態に応じて、集団縄跳び、全校リレー、10分間持久走などを検定種目に取り上げ、それぞれ目標値を設定し、実施するようにしました。体力検定実施後は、各学校からの体力検定に係る児童生徒の到達度合い(体力の認定)の報告に基づき、学校を通して児童生徒に認定証を配布しました。
- 8月に、小・中学校体育科研究会と連携し、児童生徒の体力テストの結果を踏まえた体力検定の行い方や内容について確認を行いました。小学校体育科研究会では、10月7日開催の「スポーツ市民の祭典」で実施される集団縄跳びに合わせて、各小学校での取組を一層奨励していくことを確認しました。中学校体育科研究会との検討では、各中学校の実態に応じて種目の選定を行い、生徒の運動の習慣化を図ることを確認しました。2月に、30年度の取組の検証を行い、今後の体力向上の取組について協議しました。

| 決算 | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
|------------------|------------------|---|----|-----|------|
| 決算額 (次年度への繰越) | 101 千円 千円) | | | | 101 |

問題点及び課題

小・中学校において、子ども体力検定に係る取組を通して、運動の喜びや楽しさを味わわせ、さらなる運動の習慣化を図る必要があります。また、中学校においては、各学校の実態に応じた取組の工夫を継続していく必要があります。

今後の方向性(具体策)

小学校においては、運動の習慣化に重点化し、運動の喜びや楽しさを味わわせるため、「体力検定チャレンジカード」の活用の充実を図ります。中学校においては、各学校の体力に係る実態に応じて、学校独自の取組を重点化し、目標達成に向けた取組を継続していきます。

| 評価 | 評価の理由 |
|-------|---|
| 順調・継続 | 当初の計画どおりに事業を実施でき、成果も上がっています。今後も、児童生徒の体力向上に向けて事業を実施していきます。 |

平成30年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：総務課学校再編推進室、学務課、学校教育課)

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) 学校教育環境の充実 学校再編整備推進事業 |
|------------|--|

| |
|--|
| 目的 |
| <p>市立学校においては、児童生徒数の減少により複式学級編制への対応や学習活動への特別な工夫を要する小規模校が増加するなど、解決すべき課題が生じています。</p> <p>長期的展望に立ち、責任ある教育行政の確保の観点から学校の小規模化に対応した学校再編整備を行うことにより、各学校におけるクラス替えの実施、中学校の教科指導体制の充実、部活動の活性化など、児童生徒の教育環境の向上を目指します。</p> |

| |
|---|
| 事業内容 |
| <p>1 市立学校適正規模・適正配置計画第1期実施計画の推進</p> <p>(1) 駒馬南・駒馬北小学校の再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒馬南・駒馬北小学校の再編後の新校(駒馬小学校)を4月に開校します。 ・駒馬小学校の児童、保護者、教職員に対しアンケートを実施し、再編後の教育環境の向上の成果を把握します。 ・駒馬小学校校舎の改修等工事を行います。 <p>2 市立学校適正規模・適正配置計画の中間見直しを踏まえた第2期実施計画の策定</p> <p>(1) 市立学校適正規模・適正配置検討委員会の答申に基づき、第2期実施計画を策定します。</p> <p>3 上内小学校における小規模特認校制度の運営</p> <p>(1) 小規模特認校制度を運営し、複式学級編制の解消など、課題への対応を行います。</p> |

| 指標名 | 目標値等 | H28 | H29 | H30 | H31 | 指標・目標値設定の根拠 |
|---|---------|-------|-------|-------|-----|--|
| 学校再編による教育環境向上の満足度 (H28 大傘田中央小学校) (H29 宮原中学校) (H30 駒馬小学校) | 目標値 (%) | 80 | 80 | 80 | — | 宅峰中学校(27年4月開校)での生徒・保護者・教職員アンケート結果(教育環境が向上したとの回答割合:80.0%)以上とすることを目標としました。 |
| | 実績値 (%) | 81.9 | 86.5 | 88.4 | — | |
| | 達成度 (%) | 102.4 | 108.1 | 110.5 | — | |

| |
|---|
| 取組実績 |
| <p>1 市立学校適正規模・適正配置計画第1期実施計画の推進</p> <p>(1) 駒馬南・駒馬北小学校の再編</p> <p>4月1日に駒馬小学校を開校しました。10月に駒馬小学校の児童、保護者、教職員を対象に再編後のアンケート調査を実施し、「教育環境が向上した」と回答した人の割合は88.4%でした。</p> <p>駒馬小学校校舎の第2期工事として、特別教室の改装、トイレ改修等、並びに繰越しにより旧体育館の解体、体育倉庫の改築等の工事を行い、再編に伴う施設整備を終了しました。</p> <p>2 市立学校適正規模・適正配置計画の中間見直しを踏まえた第2期実施計画の策定</p> <p>(1) 市立学校適正規模・適正配置検討委員会の答申に基づき、第2期実施計画を策定します。</p> <p>計画の中間見直し検討に当たり、H29年7月に教育委員会から検討委員会に諮問を行い、現地視察を含む11回の検討委員会における慎重、かつ丁寧な議論を経て、6月27日に答申がなされました。答申では、中学校の再編について、現計画(白光・歴木・橘)と既存の近隣校活用案「3校(白光・歴木・田隈)+1校(甘木)」の両論併記となりました。答申後は、市議会等に概要の説明を行うとともに、9月以降に開催する答申内容の地域説明会の案内、周知を行いました。</p> <p>答申内容の説明会は関係する校区で9月~10月に開催し、さらに11月~H31年2月にかけて各小中学校単位のPTAにも説明や意見聴取を行いました。</p> <p>3 上内小学校における小規模特認校制度の運営</p> <p>(1) 小規模特認校制度を運営し、複式学級編制の解消など、課題への対応を行います。</p> <p>H30年度は、全校児童73人中30人の児童が本制度により校区外から通学しており、引き続き複式学級が解消されている状況にあります。今後も本制度の円滑な運営に努めます。</p> |

| 決算 | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
|------------------|---------------------|--------|--------|-----|-------|
| 決算額 (次年度への繰越) | 67,814 千円 千円) | 21,846 | 44,200 | 99 | 1,669 |

| | |
|--|---|
| 問題点及び課題 | |
| <p>市立学校適正規模・適正配置計画の中間見直しに当たっては、説明会での様々な意見、要望等を参考とした上で、検討委員会の答申内容を踏まえ、市立小中学校の将来に向けたより良い教育環境の姿を描くとともに、地域の実情や市の財政状況等も十分勘案しながら取り組みを進めていく必要があります。</p> | |
| 今後の方向性（具体策） | |
| <p>H31年度は市立学校適正規模・適正配置計画の中間見直し、及び第2期実施計画（案）について、保護者、地域への説明を行うとともに、パブリックコメント等も実施しながら、同計画の策定を行う予定です。</p> | |
| 評価 | 評価の理由 |
| 順調・継続 | <p>市立学校適正規模・適正配置計画第1期実施計画に基づき、米生・勝立中学校（H29年4月に新校開校）、駛馬南・駛馬北小学校（H30年4月に新校開校）を再編しました。いずれの再編事業も概ね計画どおりに実施してきました。</p> <p>市立学校適正規模・適正配置計画の中間見直し、及び第2期実施計画については、H30年度内の策定を目指していましたが、見直しの答申が両論併記となったこともあり、答申の内容について幅広く周知を図るとともに、様々な意見を聴取するため、関係者等へのより丁寧な説明に努め、H31年度に策定を行う予定です。</p> |

評価・検証シート【施策】

平成 30 年度

【所管部局】企画総務部

| | |
|-----|---------------------------------|
| 施策名 | (第1編第4章) 専門的な教育の機会が確保されているまち |
|-----|---------------------------------|

1. 計画 (Plan)

| | | | | | | |
|---|----------|-------|-------|-------|-----|---|
| 意図 (どういふ状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 市民の身近なところで専門的な教育を受けることができる環境が整備され、より高度な教育の機会が確保されているまちを目指します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 高等教育機関等との連携事業数 | 目標値 (事業) | 24 | 26 | 28 | 30 | 年間 2 事業の増加を目標とします。[現状値: 19 事業 (H26 年度実績)] |
| | 実績値 (事業) | 38 | 32 | 32 | | |
| | 達成度 (%) | 158.3 | 123.1 | 114.2 | | |

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

| | |
|---|--|
| (1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証) | |
| <ul style="list-style-type: none"> 本市実施事業における高等教育機関等との連携や学生等の参画については、地域協働型高校魅力化プロジェクトなど、学生等の知見・アイデアをシティプロモーションに活かす新たな取組みも行われ、目標値を上回りました。 実施された連携事業においては、市民講座や小中学校向け出前講座等の講師を務めていただくなど、学生が地域の小中学生へ知識や勉強の楽しさを伝えたり、高等教育機関として地域コミュニティの形成や生涯学習講座などへ協力を頂いたものもあり、市民が身近なところで専門的な教育を受けることができる機会となりました。 東京大学高齢社会総合研究機構が有明工業高等専門学校と協働のもと、H29 年度から 30 年度にかけて本市との共同研究を行いました。本市ではその研究成果を反映した住生活基本計画を策定し、また、同機構による市関係部局や事業者等への共同研究報告会が行われました。 | |
| (2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す) | |
| <ul style="list-style-type: none"> 高等教育機関等の存在は、本市において教育を受ける機会の多様化に寄与しています。教育水準の向上はもとより、高度な専門教育による優秀な人材の輩出、大学が存在することによる都市イメージの向上、多くの若い人たちが大牟田に集まることによりもたらされるまちのにぎわいなど地域の活性化が期待されます。 今後のまちづくりを担う人材を育成するとともに、地域課題の解決を図るため、学生等のまちづくりへの参加を促進します。 | |
| (企画総務部長 井田 啓之) | |

4. 施策推進の視点と各構成事業

| No. | 事業名 | 所管課 | 成果指標等 | | | 評価結果 | |
|------------------------|-----------------|-------|------------------|----|------------------|-------------|------------|
| | | | 指標名 | 単位 | H30 目標 H30 実績 | 結果検証 ・分析 | 今後の 方向性 |
| [視点 1] 高等教育機関等の充実促進 | | | | | | | |
| 1 | 高等教育機関等充実促進事業 | 総合政策課 | 高等教育機関との意見 交換 | 校 | 2 2 | 順調 | 継続 |
| [視点 2] 学生等のまちづくりへの参加促進 | | | | | | | |
| 2 | 学生等のまちづくり参加促進事業 | 総合政策課 | 市主催事業等への参加 者数 | 人 | 560 679 | 順調 | 継続 |
| [視点 3] 高等教育機関等との連携 | | | | | | | |
| 3 | 高等教育機関等との連携事業 | 総合政策課 | 連携事業数 | 件 | 28 33 | 順調 | 継続 |

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 高等教育機関等の充実促進

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 高等教育機関等充実促進事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】 帝京大学福岡キャンパスや有明工業高等専門学校と、地域において高度な教育を受けることができる環境の充実に向けた意見交換を行いました。帝京大学において、H31年4月からは、大学院に保健学科研究科看護学専攻が開設され、さらなる教育水準の向上はもとより、専門的で高度な教育を受けることができる環境が整備され、より優秀な人材の輩出や地域の活性化等が期待されます。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】 引き続き、市内外の高等教育機関等と協議を進め、地域において更なる高等教育機会の充実に向けて取り組みます。 |

[視点2] 学生等のまちづくりへの参加促進

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 学生等のまちづくり参加促進事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】 豊かな人間性と自主性、社会性を涵養し、主体的な活動などに結びつくよう人づくりを支援するため、市内高等教育機関等の学生等へ、市が実施するワークショップや事業への参加を促しました。大蛇山まつりや認知症支援の取組みなど多くの事業への参加を通して学生等が地域を知る機会や興味や愛着を持つ機会が増えたと考えられます。また、地域協働型高校魅力化プロジェクトなど、シティプロモーションに関する新たな取組みを進めました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】 引き続き、各部局における取組みへの学生等の参加を促します。 |

[視点3] 高等教育機関等との連携

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 高等教育機関等との連携事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】 高等教育機関等が持つ教育資源の有効活用や人材・情報の交流を推進するとともに、市民がより高度な知識や情報を得ることができるよう32の連携事業に取り組みました。</p> <p>帝京大学と有明工業高等専門学校には、市民講座や小中学校向け出前講座等の講師を務めていただくなど、学生が地域の小中学生へ知識や勉強の楽しさを伝えたり、高等教育機関として地域コミュニティの形成や生涯学習講座などへ協力を頂いたものもあり、市民が身近なところで専門的な教育を受けることができる機会となりました。</p> <p>東京大学高齢社会総合研究機構が有明工業高等専門学校と協働のもと、H29年度から30年度にかけて本市との共同研究を行いました。本市ではその研究成果を反映した住生活基本計画を策定し、また、同機構による市関係部局や事業者等への共同研究報告会が行われました。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】 引き続き、各部局による連携事業の実施を促します。また、今後も市内外の高等教育機関との連携を図ります。 |

評価・検証シート【施策】

平成 30 年度

【所管部局】市民協働部

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 施策名 | (第1編第5章) 生涯学習が盛んで、その成果が活かされるまち |
|-----|-----------------------------------|

1. 計画 (Plan)

| 意図 (どういふ状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
|---|---------|------|------|------|------|--|
| いつでも、どこでも、誰でも、日常生活をはじめ家庭や職場などのあらゆる場面で楽しく学ぶことができ、その学んだ成果を適切に活かすことができるまちを目指します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 1 年間に、何らかの学習活動を行った市民の割合 | 目標値 (%) | 50.0 | 53.0 | 56.0 | 60.0 | 内閣府の調査結果 (H24 年度 57.1%) を基に目標値を設定 [現状値 43.8%(H26 年度実績)] |
| | 実績値 (%) | 44.4 | 46.2 | 47.9 | | |
| | 達成度 (%) | 88.8 | 87.2 | 85.5 | | |
| 学んだ成果を活かすことができたと回答した市民の割合 | 目標値 (%) | — | — | 80.0 | 85.0 | 大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査結果を基に目標値を設定 [現状値 74.2%(H23 年度調査)] |
| | 実績値 (%) | — | — | 71.2 | | |
| | 達成度 (%) | — | — | 89.0 | | |

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

| (1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証) |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 企業出前講座では、企業の参画や講座のメニュー数を拡充することで新たな分野の学習機会を提供できました。また、メニューいろいろまちづくり出前講座では、メニュー表の充実や YouTube での動画配信など、様々な媒体で学習情報を提供したことで、市民の学習活動の充実に貢献しました。 H30 年度は生涯学習ボランティア登録者の増加を図るとともに活動の機会をさらに広げるため、市内大型商業施設と連携した PR プロジェクトや「まなばんかん」のプロモーションビデオをインターネットで配信するなど、情報発信を充実させました。その結果、派遣回数 H29 年度実績を大きく上回り、「学んだ成果が適切に活かされる」まちづくりへと繋がりました。 地域学習機会提供事業、人材育成・地域活動促進事業などを実施し、地域課題の把握や解決に向けた取り組みを行ったことで、市民の幅広い学習機会の提供を行うとともに、学習活動の必要や地域づくりに対する意識の醸成が図られました。 目標値に到達することはできませんでしたが、これらの様々な取り組みを通して市民へ幅広く学習活動の場や機会を提供することができ、学習活動を行った市民の割合は H29 年度より上昇しており、その中の約 7 割が学んだ成果を活かすことにつなげています。 |
| (2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す) |
| <ul style="list-style-type: none"> 企業出前講座の充実、生涯学習ボランティア登録派遣事業の PR などを通して、新たな学習機会を提供するとともに本市における生涯学習によるまちづくりを推進することができました。今後もこれらの活動を継続する一方で、インターネットや SNS を活用した動画配信等に取組み、学習情報や機会の提供を進めます。 地域での学習活動の支援については、地域課題の解決に向けた学習の機会を地区公民館はもとより市民により身近な場所で提供します。また、関係機関との連絡調整を密にしながら課題やニーズを的確に捉え、事業の組立や運営に反映させます。 H30 年度から 2 か年をかけて「大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究」に取り組んでおり、H30 年度に実施した調査報告書を踏まえて、社会教育及び生涯学習に係る施策・事業の再構築を図ることと、「生涯学習が盛んで、その成果が活かされるまち」の実現を目指します。 <p style="text-align: right;">(市民協働部長 中島 敏信)</p> |

4. 施策推進の視点と各構成事業

| No. | 事業名 | 所管課 | 成果指標等 | | | 評価結果 | |
|----------------------|-----------------------|-------------------|--------------------------|----|------------------|-------------|------------|
| | | | 指標名 | 単位 | H30 目標 H30 実績 | 結果検証 ・分析 | 今後の 方向性 |
| [視点1] 学習機会の充実 | | | | | | | |
| 1 | 【重点】多様な学習機会提供事業 | 生涯学習課 | 企業出前講座に参画する民間企業数 | 社 | 10 11 | 順調 | 継続 |
| 2 | 学習情報提供事業 | 生涯学習課 | 学習情報紙「まなびのカタログ」の発行回数 | 回 | 6 6 | 順調 | 継続 |
| 3 | 地域学習機会提供事業 | 地域コミュニティ推進課 | 講座内容の満足度 | % | 95.0 95.1 | 順調 | 継続 |
| [視点2] 学習成果を活かす仕組みづくり | | | | | | | |
| 4 | 【重点】生涯学習ボランティア登録派遣事業 | 生涯学習課 | 生涯学習ボランティア登録者意欲の高まり | % | 100 98.9 | 順調 | 継続 |
| | | | 生涯学習ボランティア利用者の満足度 | % | 100 99.8 | | |
| 5 | 学習成果活用事業 | 生涯学習課、地域コミュニティ推進課 | 事業参加後に生涯学習ボランティアを始めた人の割合 | % | 50.0 62.7 | 順調 | 継続 |
| [視点3] 地域での学習活動の支援 | | | | | | | |
| 6 | 【重点】(再掲)人材育成・地域活動促進事業 | 地域コミュニティ推進課 | 講座に参加した人の地域活動に対する関心の割合 | % | 90.0 90.6 | 順調 | 継続 |
| 7 | 地区公民館整備事業 | 地域コミュニティ推進課 | 当該年度に予定している施設修繕の実施率 | % | 100 100 | 順調 | 継続 |

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 学習機会の充実

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 【重点】多様な学習機会提供事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 学習情報提供事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】市内で開催される各種講座・事業、イベントを掲載した学習情報紙については、計画通り発行することができました。(まなびのカタログ発行部数：2,000部/回) 学習情報の提供にあたっては、誰もが見やすく、わかりやすい内容となるように工夫し、併せて、広く市民へ周知できるよう、多様な情報発信手段を活用することが必要です。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】学習活動を行っていない人やあらゆる世代に学習情報が届くよう、紙面だけでなく、インターネットやラジオなど、多様な媒体を活用して様々な学習に関する情報提供していきます。特にインターネットやSNSを活用したPRを行うため、学習情報の動画の作成・配信に取り組みます。 |
| 事業名 | 地域学習機会提供事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】現代的課題・地域課題や市民の多様なニーズに対応し、あらゆる層の市民が参加できる学習機会の提供のため、地区公民館において、家庭教育支援事業(家庭教育講座)5講座、子ども体験活動事業10講座、地域の歴史や文化等をテーマにした一般成人向け講座8講座を実施しました。 高齢者の生きがいがづくりと社会参加の促進を図るとともに、介護予防の取組みを推進する高齢者生きがいがづくり社会参加促進事業を実施しました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】今後も参加者が学びたいことと行政として学んでもらいたいことのバランスを考慮しながら、事業を企画し、新たな参加者の獲得に取り組むとともに、人づくりからつながりづくり・地域づくりにつながるようESDの視点を盛り込んだ講座を検討・企画していきます。 |

[視点2] 学習成果を活かす仕組みづくり

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 【重点】生涯学習ボランティア登録派遣事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 学習成果活用事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】多くの人が、生きがいを持って楽しくボランティア活動ができるように、場や機会の拡大を図るため、高齢者生きがいがづくり社会参加促進事業(生涯青春まなびの扉)における「ボランティア塾」3講座や、カヌー事業ボランティアを養成するカヌーサポーターの養成講座やカヌーパートナー講習会を開催し、受講生51名中32名が講座終了後も継続的な活動に結びついています。 また、ボランティアのスキルアップのための研修会の実施や、視聴覚ボランティアの支援等を行いました。 ほかにも、公民館で活動するサークルや学ぶ場の提供として、文化祭のほか、夏休み子どもサークル体験の実施や、駛馬小学校のクラブ活動の支援等を行いました。 今後も、多様なボランティア活動に対するニーズに応える養成講座を実施することはもとより、学んだ成果を活かすことができる場・機会を充実させる必要があります。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】今後も、ボランティア活動に対するニーズを把握し、学んだ成果を活かしボランティア活動を行えるような人材や団体を育て、支援するため、ボランティアの意義や実践の場を組み入れた講座を企画し、実施します。あわせて、個人の学びをボランティア活動につなげられるよう公民館利用者等に働きかけを行います。 |

[視点 3] 地域での学習活動の支援

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 【重点】人材育成・地域活動促進事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 地区公民館整備事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】H30年度においては、勝立地区公民館の屋上防水工事等4工事を予定通り実施しました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】R元年度においても、地区公民館の利用の安全を維持するため、適切な施設の整備に努めます。 |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

| | |
|-----|----------------------------------|
| 事業名 | (施策推進の視点) 学習機会の充実 多様な学習機会提供事業 |
|-----|----------------------------------|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|-----|-----|-----|-----|-------------------------------------|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 市民自ら策定した「大牟田市生涯学習まちづくり推進基本構想」に基づいて、市民、行政、企業が主体的に生涯学習を推進することで、「いつでも、どこでも、誰でも楽しく学習でき、その学んだ成果が適切に活かされる社会」を実現する。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 生涯学習まちづくり推進本部 (市民主体の組織) の「生涯学習ボランティア登録派遣事業」、「企業出前講座」、生涯学習まちづくり推進会議 (庁内組織) の「メニューいろいろまちづくり出前講座」などの取組みを推進します。 また、今後の社会教育・生涯学習行政の方向性や事業の再構築に着手するため、社会教育・生涯学習に関する調査に取り組みます。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 企業出前講座に参画する民間企業数 | 目標値 (社) | — | 5 | 10 | 15 | 多様な学習機会が提供できる社会になっているかを参画する企業数でみます。 |
| | 実績値 (社) | — | 8 | 11 | | |
| | 達成度 (%) | — | 160 | 110 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|---|---|---|----|-----|-------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <p><生涯学習まちづくり推進本部></p> <ul style="list-style-type: none"> 企業出前講座「がんばる地場企業」【企業】: 11社 27メニュー/17回/受講者延 327人 生涯学習ボランティア登録派遣事業【市民】: 登録件数 201件/派遣回数 延 929回/参加者 延 56,551人 市民大学講座【高等教育機関との連携】: 4回 (帝京大学・有明高専) /受講者 延 92人 <p><生涯学習まちづくり推進会議></p> <ul style="list-style-type: none"> メニューいろいろまちづくり出前講座【行政】: 121メニュー/派遣回数 182回/受講者 延 7,588人) <p><その他></p> <p>社会教育・生涯学習行政が果たすべき役割やそのあり方を考え、施策・事業の再構築を図ることを目的に市民意識調査に取り組みました。</p> | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 1,240 千円 | | | | | 1,240 |
| (次年度への繰越 | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 企業出前講座は、目標を上回る企業の参画を得るとともに、講座のメニュー数も拡充 (13 増加) することができました。今後さらに多くの人に事業を知ってもらうためにプロモーションをしていく必要があります。 「メニューいろいろまちづくり出前講座」は、メニュー表を充実させて発行したことや H30 年 11 月から YouTube (ほっとシティおおむたチャンネル) で紹介動画の配信を行ったことなどにより、実施回数、受講者ともに前年度を上回ることが出来ました。 「メニューいろいろまちづくり出前講座」、「企業出前講座」、「生涯学習ボランティア登録派遣事業 (まなばんかん)」では、それぞれでメニュー表を作成していますが、より分かりやすく市民に情報提供するためには、メニュー表を一本化するなどの工夫が必要です。 H30 年度に実施した市民意識調査を踏まえて、社会教育・生涯学習に係る施策・事業の再構築を図ることが必要です。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 「企業出前講座」のプロモーション動画配信 (R2 年 1 月より YouTube で配信予定) を行います。 学習情報を集約し、市民の利便性を図るため「メニューいろいろまちづくり出前講座」、「企業出前講座」のメニュー表と「まなばんかん」の利用案内の統合を行います。 社会教育・生涯学習行政に係る施策・事業の再構築を図ります。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 今後も市民・行政・企業が主体的に生涯学習によるまちづくりを推進していくことができるよう、意識啓発や情報発信を充実させ、学習の機会を充実させていきます。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) 学習成果を活かす仕組みづくり 生涯学習ボランティア登録派遣事業 |
|------------|--|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|------------|------------|------------|------------|-------------------------------|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 「いつでも、どこでも、誰でも楽しく学習でき、その学んだ成果が適切に活かされる社会」を実現するために、市民の方々が学んだ知識・技術を他の人々へ教える機会・場の提供を通して市民の間に学びの輪が広がることを目指します。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 市民から依頼があった学習ニーズ・要求に応じて、「生涯学習ボランティア登録者 (市民)」をコーディネートし、派遣します (無料)。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 生涯学習ボランティア登録者意欲の高まり | 目標値 (%) | — | 100 | 100 | 100 | 学習の成果を人づくりやまちづくりに役立てたいと回答した割合 |
| | 実績値 (%) | — | 94.8 | 98.9 | | |
| | 達成度 (%) | — | 94.8 | 98.9 | | |
| 生涯学習ボランティア利用者の満足度 | 目標値 (%) | 100 | 100 | 100 | 100 | 次回も活用したいと回答した割合 |
| | 実績値 (%) | 99.7 | 99.8 | 99.8 | | |
| | 達成度 (%) | 99.7 | 99.8 | 99.8 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|---|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ H30 年度生涯学習ボランティア登録者名簿「まなばんかん」(冊子) : 2,000 部発行 ・ 生涯学習ボランティア 延べ登録者数 : 1,498 人 ・ 派遣回数 : 延 929 回 (参加者数 延 56,551 人) ・ 利用者説明会 (5 月) / 登録者説明会・交流会 (6 月) / 表彰式 (2 月) ・ 市内大型商業施設と連携したイベント「まなばんかん PR プロジェクト」の実施 (8 月、9 月、2 月) ・ ボランティア登録者の増加と活動の機会を広げるため、H30 年 4 月から「まなばんかん」のプロモーションビデオをインターネットで配信しました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 845 千円 | | | | | 845 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの派遣回数については、H29 年度の実績を上回っており、登録者名簿の増刷や PR プロジェクト等の効果が出てきています。 ・ 今後もボランティア登録者の増加を図るとともに活動の機会をさらに広げるため、「まなばんかん」の PR や情報発信を充実させることが必要です。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| 様々な機会を通じた情報発信を行う「まなばんかん PR プロジェクト」に引き続き取り組み、ボランティア登録者を増やすとともに、学んだ知識・技術を生かして活動する機会を広げます。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 利用者の満足とボランティアを実践する人の意欲の高まりが相まって、好循環となり学びの輪が広がっています。様々な機会を通じて情報発信に取り組み、ボランティア登録者の増加と活動の機会の拡充を図ります。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 地域コミュニティ推進課

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) 地域での学習活動の支援 人材育成・地域活動促進事業 |
|------------|--|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|------------|------------|------------|------------|---------------------------------------|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| <p>これまで地域活動の核となっていた人が高齢化し、まちづくりの担い手や後継者の不足により、地域コミュニティの維持が困難な状況になっています。このため、地区公民館の事業をとおして、住民が自らの知識や経験を活かし、自分のこととしてさまざまな地域づくりの取り組みが進められるような人材育成や、地域活動を支える多様な人材の発掘と育成を行います。</p> | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| <p>地域づくりの担い手及び後継者の育成・発掘、また地域コミュニティの活性化につなげる取組みとして各地区公民館において「地域力アップ支援事業」を行い、地域の学習機会の提供や活動の支援を行います。事業に取り組むにあたっては、校区まちづくり協議会などの地域の関係団体との意見交換を行い、地域の実態や要望、地域課題をよく把握した上で取組みを進めます。</p> | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 講座に参加した人の地域活動に対する関心の割合 | 目標値 (%) | — | — | 90.0 | 90.0 | 講座に参加した人の9割以上が地域活動に関心を持つことを目標に設定しました。 |
| | 実績値 (%) | — | — | 90.6 | | |
| | 達成度 (%) | — | — | 100.7 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|---|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 地域との意見交換を行いながら、地域の実情や要望、地域課題を把握し、「地域コミュニティの形成と活性化」や「地域の人材育成」を図るため、各地区公民館で次のとおり実施しました。 全23事業の内訳は、防災をテーマとした講習会や訓練などを実施し、地域ネットワークの形成を支援するものが16事業、地域イベントのスタッフ育成や、地域の広報力アップ講座など人材育成を図るものが6事業、地域の歴史を探り魅力を継承するものが1事業です。 全23事業中14事業は地区公民館以外の場所に出向いて実施しました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 736 千円 | | | | | 736 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 地域と協議を行い、地域の課題を把握し事業を行ったことで、参加者の地域活動への関心を持つことにつながったと思われます。 積極的に担当校区のニーズや課題等を把握するように努めることが必要です。 協働のまちづくりを進める上でも地域コミュニティの活性化や地域活動を担う人材育成については、今後も継続的に取り組み必要があります。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 市が果たす役割に基づきながら、今後も協働のまちづくりを推進する必要があり、地域担当職員と連携しながら、事業を組み立て、地域が自主的に運営や活動できるよう支援します。 事業を実施することで地区公民館が地域づくりの拠点としての機能を果たすことを目指します。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | <p>達成度については、目標値を超えたことから「順調」と評価をしました。地域活動を支える多様な人材の発掘と育成、地域の自主的・自立的な運営や活動は、継続的な目標・課題であり、事業内容や手法の改善を図りながら目標達成、課題解決に取り組む必要があります。</p> | | | | | |

評価・検証シート【施策】

平成 30 年度

【所管部局】市民協働部

| | |
|-----|---------------------------------------|
| 施策名 | (第1編第6章) スポーツを通して生きがいに満ち、活気にあふれるまち |
|-----|---------------------------------------|

1. 計画 (Plan)

| | | | | | | |
|---|---------|------|------|-------|------|--|
| 意図 (どのような状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 誰もが、ライフステージに応じてスポーツに親しみ、楽しむことで、生涯にわたり心身ともに健康で、活気にあふれた生きがいある生活を営むことができるまちを目指します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 1年間のうち、週1回以上の運動・スポーツの実施率 | 目標値 (%) | 30.0 | 35.0 | 40.0 | 45.0 | 本市スポーツ振興計画に掲げる目標値 (R2年度_50.0%) を基に目標値を設定 [現状値:25.3%(H26年度実績)] |
| | 実績値 (%) | 25.5 | 24.9 | 41.6 | | |
| | 達成度 (%) | 85.0 | 71.1 | 104.0 | | |

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

| | |
|---|--|
| (1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証) | |
| <ul style="list-style-type: none"> 本市のスポーツ振興計画では、「誰もがどこでも気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり」、「活気あるスポーツ活動を支える仕組みづくり」、「スポーツがしやすい環境づくり」の3つの基本施策のもと、各種事業を実施しています。 事業実施に当っては、スポーツ都市宣言推進協議会、体育協会、スポーツ推進委員協議会等と連携し、スポーツに楽しめる教室や地域スポーツ行事など、地域や年齢層に応じ多様なスポーツ活動の機会を提供しました。 成果指標については、41.6%と、前年度と比較して16.7ポイント増となっており、本市のスポーツ振興計画に掲げる目標値を達成することができました。(市民アンケートの設問で運動の事例を追記したことに伴い、実績値は大きく変動しています。) 今後更に目標達成に向けて、日頃からスポーツや運動をやっていない人への情報提供や実施に向けたアプローチが必要と考えます。 | |
| (2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す) | |
| <ul style="list-style-type: none"> スポーツ・運動を普段していない人に向けて、スポーツ・運動の持つ効果を発信することにより、関心を持ってもらい、スポーツに気軽に参加できるような機会づくりに努めます。 市民の誰もがどこでも生涯にわたり、スポーツに親しみ健康で明るい生活を送るためには、さまざまな市民団体等との連携が必要であり、また、幅広い市民の方がスポーツに触れることができるよう、さまざまな機会を捉え、各種事業のタイムリーな情報提供を行い、参加者の増を図ります。 体育館の施設整備計画や運営計画及び事業手法等を定める「(仮称)総合体育館整備基本計画」を関係機関や関係者等との協議を踏まえ、R元年度内に策定することとしています。 <p style="text-align: right;">(市民協働部長 中島 敏信)</p> | |

4. 施策推進の視点と各構成事業

| No. | 事業名 | 所管課 | 成果指標等 | | | 評価結果 | |
|---------------------------|-------------------------|--------------------|-----------------------------------|----|------------------|-------------|------------|
| | | | 指標名 | 単位 | H30 目標 H30 実績 | 結果検証 ・分析 | 今後の 方向性 |
| [視点1] 気楽に親しめるスポーツ活動の機会づくり | | | | | | | |
| 1 | 市民スポーツ推進事業 | スポーツ推進室 (指定管理者) | 人口に占める市民スポーツ教室等への参加率 | % | 3.75 3.10 | やや遅れ | 継続 |
| 2 | 【重点】地域スポーツ活動推進事業 | スポーツ推進室 | スポーツ推進委員が企画・運営等支援する地域スポーツ行事数 | 件 | 76 77 | 順調 | 継続 |
| 3 | 【重点】(再掲) 子ども体力向上事業 | スポーツ推進室 | 半年後に運動・スポーツを週1回以上継続して実施している子どもの割合 | % | 100 100 | 順調 | 継続 |
| [視点2] スポーツ活動を支える仕組みづくり | | | | | | | |
| 4 | 地域スポーツクラブ育成・支援事業 | スポーツ推進室 | 総合型地域スポーツクラブ総設置数 | 箇所 | 2 1 | やや遅れ | 継続 |
| 5 | スポーツ団体との連携によるスポーツ活動支援事業 | スポーツ推進室 | チャレンジデー参加率70%以上 | % | 70.0 71.2 | 順調 | 継続 |
| 6 | 競技スポーツ振興・支援事業 | スポーツ推進室 | 県民体育大会(秋季大会)5位以内 | 位 | 5 8 | やや遅れ | 継続 |
| 7 | 表彰・奨励事業 | スポーツ推進室 | おおむたっ子がんばれ奨励金授与数 | 件 | 135 166 | 順調 | 継続 |
| [視点3] スポーツがしやすい環境づくり | | | | | | | |
| 8 | スポーツ施設整備事業 | スポーツ推進室 | 当該年度の施設改修等予定実施率 | - | 整備 整備 | 順調 | 継続 |
| 9 | 【重点】(仮称)総合体育館整備事業 | スポーツ推進室 | 進捗管理 | - | 3段階 - | やや遅れ | 継続 |
| 10 | 指導者育成事業 | スポーツ推進室 | 研修会への参加者数 | 人 | 230 264 | 順調 | 継続 |
| 11 | スポーツ情報提供事業 | スポーツ推進室 | スポーツカレンダー配布数 | 冊 | 18,000 18,000 | 順調 | 継続 |

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 気楽に親しめるスポーツ活動の機会づくり

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 市民スポーツ推進事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【やや遅れ】指定管理者の必須事業として、広く市民に対して募集を行う初心者を対象としたスポーツ教室やスポーツ大会を実施し、運動・スポーツ実施の機会を提供しました。(計 3,555 人) ①市民スポーツ教室(春季 5 講座、222 人、秋季 5 講座、184 人、新春 5 講座、192 人) ②サマースポーツ教室(7 講座: 369 人) ③市民スポーツ大会(市民グラウンドゴルフ大会: 97 人、市民ソフトバレーボール大会: 77 人、市民女子フットベースボール大会: 162 人、市民健康マラソン大会: 2,232 人、市民観梅ハイキング: 20 人) 実績値及び達成度ともに昨年度より減少しています。このため、スポーツのもつ効果についてさらに市民周知を図り、スポーツに親しみ、楽しむきっかけづくりが必要です。スポーツ教室やスポーツ大会などの運動・スポーツ実施の機会を提供していますが参加者はここ数年、微減傾向にあります。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】スポーツのもつ効果について、啓発を行います。また、指定管理者と連携して積極的な情報発信を行い参加促進を図ります。 |
| 事業名 | 【重点】地域スポーツ活動推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 【重点】子ども体力向上事業 《再掲 第1編第2章視点3参照》 |

[視点2] スポーツ活動を支える仕組みづくり

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 地域スポーツクラブ育成・支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【やや遅れ】本市唯一の総合型地域スポーツクラブ「右京ふれあい健康クラブ」には、オブザーバとして定例理事会への参加や各種イベントの広報やスタッフとして参加するなど支援を行いました。当クラブでは、ヨガ教室などのクラブ活動や右京ふれあいタイム(毎週火曜日: 卓球、バドミントン 延べ 777 人)、バドミントン教室(延 15 人)、パソコン教室(延べ 162 人)、天領校区右京ふれあい体育祭(400 人)、宝さがしウォーキング(15 人)などを開催しています。 総合型地域スポーツクラブ「右京ふれあい健康クラブ」の会員数は目標の 60 人を上回る 69 名でした。今後、総合型地域スポーツクラブを他の地域へ広げる取り組みが課題です。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】今後も総合型地域スポーツクラブ「右京ふれあい健康クラブ」のオブザーバとして参加しクラブ運営の支援をしていくとともに、他の地域の意識の醸成に取り組みます。 |
| 事業名 | スポーツ団体との連携によるスポーツ活動支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】市民団体、スポーツ団体、商・工・観光団体、医療・福祉団体、学校、行政等で組織されるスポーツ都市宣言推進協議会では、数多くの市民が参加する「スポーツ 2018 市民の祭典」の実施や「チャレンジデー」に参画し、その構成団体と連携し市民のスポーツ活動を推進しました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】スポーツ都市宣言推進協議会は市内の様々な団体で構成されるスポーツ活動を推進する組織であり、今後も引き続きスポーツ都市宣言推進協議会と連携を密にし、スポーツ活動を支援していきます。 |

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 競技スポーツ振興・支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【やや遅れ】九州一円の各郡市の選手が参加し競技力の向上並びに親睦・融和を図ることを目的に開催される全九州都市対抗陸上競技大会を支援しました。(H30年度:総合3位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技スポーツの振興及び本市の活性化に寄与するものとして開催される広域スポーツ大会を支援しました。(H30年度実績:11広域大会、参加者6,542名) ・広く県民間にスポーツを振興し、その普及発展とスポーツ精神の高揚を図り、一層健康で明朗な県民生活に確立に寄与することを目的に開催される「福岡県民体育大会」に選手団を派遣しました。(H30年度実績:秋季大会8位、市町村対抗駅伝7位) ・指標目標である県民体育大会(秋季大会)の5位以内入賞のために各種目の選手層の充実が今後の課題です。 |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】全九州都市対抗陸上競技大会については、第71回の歴史ある大会であり九州各県から参加があり、広域スポーツ大会についても、近隣市町から広く参加があるため、地域の活性化にも寄与することから、継続して実施します。</p> <p>県民体育大会については、秋季大会は、前年度11位から8位と順位を上げました。目標の5位まではわずか62.5ポイントであり、目標達成まであと一歩のところまでできています。市町村対抗駅伝では、H28年度14位、H29年度10位、H30年度7位と着実に順位を上げています。今後も更なる支援に取り組みます。</p> |
| 事業名 | 表彰・奨励事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】全国大会等において優秀な成績を収めた者及びスポーツの発展に寄与したものに対し、大牟田市スポーツ功労表彰を授与しました。(H30年度実績:功労賞11名、記録賞9名・3団体)</p> <p>また、青少年の育成、スポーツの振興、選手の意欲向上に寄与するため、青少年健全育成基金を活用し、全国レベルの大会等に出場した者におおむたっ子ががんばれ奨励金を交付しました。(H30年度実績:167名)</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】表彰・奨励事業を実施することは、スポーツ実施者ならびにスポーツ支援者の励みとなるものであり、他市町の実施状況等を調査しながら継続して実施します。</p> |

[視点3] スポーツがしやすい環境づくり

| | |
|------------|---|
| 事業名 | スポーツ施設整備事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】御大典記念グラウンドは日本陸上競技連盟第二種公認競技場であり、公認施設として棒高飛用マットを更新しました。これにより公認競技場として適正な競技大会を継続して実施することができます。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】本市の体育施設は老朽化しており、大会等運営に支障がでないよう、また、利用者が安心・安全に利用できるように整備が必要です。</p> |
| 事業名 | 【重点】(仮称)総合体育館整備事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 指導者育成事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】スポーツ推進委員の資質向上を図るため、南筑後地区スポーツ推進委員春季研修会及び秋季研修会を本市で開催しました。また、国、県等が主催する研修会にスポーツ推進委員を派遣しました。さらに、スポーツ少年団の指導者を対象とした研修会やスポーツ指導者と実施者を対象としたスポーツ医科学研修会を実施しました。(H30年度実績：延べ264名) |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】指導者の資質向上は、子供たちや市民のスポーツの振興に寄与することから、継続して資質向上に向けた取組みを実施します。 |
| 事業名 | スポーツ情報提供事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】広報おおむた、愛情ねっと等を活用してスポーツ情報の発信を行っています。また、本市のスポーツ情報をはじめ各体育施設のスポーツ大会等開催情報を多く掲載する「スポーツカレンダー」を日本スポーツ振興センターの助成金を活用して作成し、広く市民、スポーツ団体、小・中・高校生等に配布しました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】スポーツカレンダーは、市民にも好評を得ており、今後も内容を検証しながら継続して作成していきます。 |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： スポーツ推進室

| | |
|-----|---|
| 事業名 | (施策推進の視点) 気楽に親しめるスポーツ活動の機会づくり 地域スポーツ活動推進事業 |
|-----|---|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|-----|-----|-----|----|---|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 市民が、身近な地域でスポーツに親しめるよう、地域でのスポーツ活動を活性化し、市民の健康増進や地域活動全体の活性化につなげます。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 地域団体等の活動が継続的に活発になるようスポーツ推進委員による地域スポーツ活動への支援や地域で気軽に取り組める地域元気アップスポーツ事業を行います。 | | | | | | |
| (1) 地域元気ウォーキング (2回: 5月、2月) | | | | | | |
| (2) スロージョギング教室 (1回/3連続講座: 12~2月) | | | | | | |
| (3) ニュースポーツ体験教室 (1回: 3月) | | | | | | |
| (4) スポーツ推進委員研修会 (1回)、県等研修会への派遣 (6回) | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| スポーツ推進委員が企画・運営等支援する地域スポーツ行事数 | 目標値 (件) | 80 | 80 | 76 | 76 | 各校区4件の地域スポーツ行事を目標値として80件と設定。H30年度から19校区となったため、76件に設定。 |
| | 実績値 (件) | 88 | 84 | 77 | | |
| | 達成度 (%) | 110 | 105 | 101 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|--|---|---|----|-----|-------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 地域団体等のスポーツ活動が活発になるよう、その地域のスポーツ推進委員は地域スポーツ行事等の企画、指導・助言、運営、参加呼びかけ等により地域団体等を支援しました。 市民が身近な地域や家庭で気軽にスポーツに取り組めるよう地域元気アップスポーツ事業を実施しました。 (H30年度実績) 地域ふれあい元気ウォーキング教室 [2地区] 延べ50人 スロージョギング教室 [全3回] 延べ85人 ニュースポーツ体験教室 [1回] 35人 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 4,978 千円 | | | | | 4,978 |
| (次年度への繰越 | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進委員と地域との連携により、目標を達成しました。 大人から子どもまで参加する地域の運動会の実施は、地域コミュニティの活性化にも効果が期待されますが、地域役員の高齢化等により地域におけるスポーツ行事の減少が懸念されます。 スポーツ推進委員の高年齢化が顕著であるため、委員の若返りも課題となっています。また、定数も満たしておらず、委員の補充が必要です。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進委員による地域で行われるスポーツ行事等の運営支援に努めます。 子どもから高齢者まで地域で気軽楽しめる「ニュースポーツ用具」の充実を図り、活用を促します。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 今後もこのスポーツ推進委員と連携を密にして、地域スポーツ活動の推進を図る必要があります。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： スポーツ推進室

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) スポーツがしやすい環境づくり (仮称) 総合体育館整備事業 |
|------------|--|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|---|---------|------------|------------|------------|------------|--|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 老朽化した施設を更新することで、①市民が、安心・安全、快適に使用でき、健康・体力づくり、生きがいがづくり、医療費抑制・介護予防に寄与します。②広域のスポーツ大会等が実施されることで、交流人口が増加し、経済効果がもたらされ地域活性化に寄与します。③プロスポーツ、トップアスリートを身近で見ることができるようになるため子どもたちに夢や希望を与えることができます。④大規模災害時等の避難所、収容施設として、被災者・避難者に対応できます。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 「(仮称)総合体育館建設に係る基礎調査 (H26 年度実施)」、「(仮称)総合体育館建設に係る交通量調査 (H28 年度実施)」、「(仮称)総合体育館建設に係るワークショップ・市民意見募集 (H28 年度実施)」を実施し、これらを踏まえて、H28～29 年度には「(仮称)総合体育館民間資金等活用事業導入可能性調査」を行い、財政状況が厳しい本市における民間資金等の活用を視野に入れ、今後の総合体育館建設に向けた整備方針を決定していきます。 | | | | | | |
| H30～R 元年度 民間資金活用による施設整備に向けた施設計画等策定 | | | | | | |
| R2～3 年度 建設工事 | | | | | | |
| R4 年度 既存施設解体工事 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 進捗管理 1 段階：交通量調査 2 段階：PFI 等導入可能性調査 3 段階：要求水準書案、実施方針策定、特定事業選定 4 段階：募集要項等の策定・公表、PFI 事業者選定、契約締結 5 段階：建設工事 6 段階：既存施設解体工事 | 目標値 (一) | 1 段階 | 2 段階 | 3 段階 | 3 段階 | 総合体育館建設着工のため必要な事務作業を実施します。 (*H29 年度は、年度途中で指標・目標値を変更したため、達成度は記載) |
| | 実績値 (%) | 1 段階 | (2 段階) | - | | |
| | 達成度 (%) | 100 | - | - | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|--|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| 総合体育館の建設予定地については、これまで実施してきた様々な調査結果などを踏まえながら候補地 (諏訪公園、延命公園) の精査・検証を行い、延命公園に決定しました。 | | | | | | |
| また、総合体育館の機能・規模等については、「公共施設維持管理計画」との整合を図るため、他の公共施設との複合化を考慮しながら継続して検討を進めました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 千円 | | | | | |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| 総合体育館の機能・規模とともに、事業手法等についても「(仮称)総合体育館民間資金等活用事業導入可能性調査」結果等をもとに継続して検討を進めてきましたが、機能や規模とともに事業手法についても民間資金等を活用した事業として定めるまでには至らず、第3段階へ進むことは困難でした。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| 総合体育館の機能・規模、運営計画や事業手法等を定める「(仮称)総合体育館整備基本計画」を関係機関や関係者等との協議を踏まえ、R元年度内に策定することとしています。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| やや遅れ・継続 | 予定している進捗計画から、やや遅れておりますが、老朽化の著しい体育館の建替えは必要性が高いことから、事業を継続して取り組むこととします。 | | | | | |

評価・検証シート【施策】

平成 30 年度

【所管部局】市民協働部、企画総務部、産業経済部

| | |
|-----|----------------------------------|
| 施策名 | (第1編第7章) 文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち |
|-----|----------------------------------|

1. 計画 (Plan)

| | | | | | | |
|---|---------|------|------|------|------|---|
| 意図 (どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 郷土の歴史や遺産を大切に継承・活用し、郷土を愛する気持ちと誇りをはぐくむとともに、市民が文化芸術を通して心豊かで充実した生活を送ることができる文化の薫るまちを目指します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 1 年間のうち、何らかの文化芸術活動 (テレビやインターネット等での鑑賞は除く) への参加率 | 目標値 (%) | 30.0 | 33.0 | 36.0 | 40.0 | 文化庁「文化芸術の振興に関する基本的な指針」の成果指標 (R2年度_40.0%) を基に目標値を設定 [現状値: 23.8%(H26年度実績)] |
| | 実績値 (%) | 25.7 | 27.1 | 26.2 | | |
| | 達成度 (%) | 85.7 | 82.1 | 72.8 | | |

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

| | |
|---|--|
| (1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証) | |
| <ul style="list-style-type: none"> 市民文化のつどいとして年間で20の事業を実施し、活動発表の場と鑑賞の場を設けるとともに、公募事業や賛助出演により、新規参加の受入れを行いました。 市民参加を促進するため、広報おおむたやホームページ、愛情ねっと等のツールを活用し、幅広く文化事業の開催等の周知を行いました。また、若者の文化芸術活動への参加を促進するため、ダンスによる若者育成事業に取り組みました。さらには、本市の特色を生かした文化芸術事業として、競技かるたにふれるイベントを実施し、本市の魅力を市内外へ発信しました。 文化芸術を通じたコミュニケーション能力アップ事業では、多様化した現代における人材育成やまちづくりにおいて、文化芸術の活用を考え、文化芸術にふれる機会の大切さについて、理解を深める意識の醸成に取り組んでいます。 全小学6年生対象のバス見学会や、市民を対象とした世界遺産講座&バス見学会、文化財マップの作成・活用などの啓発事業により、郷土への愛着と誇りを育みました。 世界遺産構成資産については、H29年度に策定した「三池炭鉱跡の保存・公開・活用に関する計画」に基づき整備を進めています。H30年度は、史跡である宮原坑及び三池炭鉱専用鉄道敷跡の発掘調査・測量を行いました。また、三川坑跡については、H27年度に策定した「三川坑跡保存・活用計画」に基づき、整備等を進めており、H30年度は、管理棟の第1期改修工事及び正門門扉の改修を行うとともに、三川坑跡に対する愛着を深めることを目的に、DIYや季節の協働型イベント等を実施しました。 100周年記念事業として取り組んでいる市史編さんについては、当初計画より遅れているため、部内・庁内の応援体制を強化し、継続して取り組んでいます。 | |
| (2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す) | |
| <ul style="list-style-type: none"> 本市における文化芸術活動がさらに盛んになり、創造性豊かな活力ある地域社会を目指すために、文化芸術に親しむことができる環境づくりを進めるとともに、各文化団体等の「後継者」「後進」の育成に努めます。また、現行の文化芸術振興プランの計画期間がR元年度までとなっていることから、今後も引き続き、本市が目指す文化芸術振興の方向性を示し、時代と実情に応じた地域の文化芸術振興に中長期的に取り組むため、R元年度はプランを改訂し各事業を検討します。 (市民協働部長 中島 敏信) 世界遺産をはじめとする近代化産業遺産や文化財の保存・活用および、遅れている市史の作成を進め、完成した市史を活用した事業の立案実施により、多くの市民がまちの歴史や文化に対する理解を深め、それがまちへの愛着と誇りにつながるよう、引き続き、市民との協働により取り組みます。 (企画総務部長 井田 啓之) | |

4. 施策推進の視点と各構成事業

| No. | 事業名 | 所管課 | 成果指標等 | | | 評価結果 | |
|-----------------------|----------------------------------|-----------------|-------------------------------|----|------------------|-------------|------------|
| | | | 指標名 | 単位 | H30 目標 H30 実績 | 結果検証 ・分析 | 今後の 方向性 |
| [視点1] まちの歴史や文化を知る・学ぶ | | | | | | | |
| 1 | 【重点】市史編さん事業 | 市史編さん室 | 執筆進捗率 | % | 75.0 60.7 | 遅れ | 改善 |
| 2 | 【重点】近代化産業遺産活用事業 | 世界遺産・文化財室、総合政策課 | 来場者の理解度 | % | 93.0 91.2 | 順調 | 継続 |
| 3 | 文化財保護事業 | 世界遺産・文化財室 | 文化財テーマの講座等への参加者数 | 人 | 530 1,117 | 順調 | 継続 |
| 4 | 三川坑跡保存活用事業 | 総合政策課 | 三川坑跡の認知度 | % | 56.0 56.0 | 順調 | 継続 |
| [視点2] 文化芸術事業の充実 | | | | | | | |
| 5 | 多様な文化芸術提供事業 | 生涯学習課 | 文化のつどい参加者数(発表者、観覧者含む) | 人 | 14,000 12,246 | やや遅れ | 充実 |
| 6 | (再掲)子どもの文化芸術体験事業 | 生涯学習課 | アウトリーチ事業の実施件数 | 件 | 44 51 | 順調 | 継続 |
| 7 | 若者の関心に合わせた文化芸術事業 | 生涯学習課 | 若者の関心に合わせた文化芸術事業数 | 回 | 1 1 | 順調 | 継続 |
| 8 | 【重点】本市の特色を活かした文化芸術事業 | 生涯学習課 | 本市の特色を活かした文化芸術事業数 | 件 | 6 6 | 順調 | 継続 |
| 9 | 広域連携による文化芸術事業 | 生涯学習課 | 定住圏域内市町による連携事業数 | 件 | 1 1 | 順調 | 継続 |
| [視点3] 文化芸術活動への参加機会の充実 | | | | | | | |
| 10 | 文化芸術活動参加促進事業 | 生涯学習課 | 文化のつどい公募採択事業数 | 件 | 2 1 | 順調 | 継続 |
| 11 | 文化団体等育成・支援事業 | 生涯学習課 | 文化団体等への補助等の件数 | 件 | 2 2 | 順調 | 継続 |
| [視点4] 文化芸術の環境づくり | | | | | | | |
| 12 | 街かどのにぎわい創出事業 | 生涯学習課、産業振興課 | 文化会館以外での文化芸術活動への支援(共催・後援数) | 件 | 35 24 | やや遅れ | 継続 |
| 13 | 郷土伝統芸能保存継承事業 | 生涯学習課、世界遺産・文化財室 | 伝統芸能保存継承活動への補助件数 | 件 | 1 1 | 順調 | 継続 |
| 14 | 文化施設整備事業 | 生涯学習課 | — | — | — — | 順調 | 継続 |
| 15 | 【重点】(再掲)文化芸術を通じたコミュニケーション能力アップ事業 | 生涯学習課 | 「コミュニケーション力向上の必要性を理解した」参加者の割合 | % | 90.0 99.6 | 順調 | 充実 |

※「文化芸術振興プラン改訂事業」は評価対象から除外しています。

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

【視点1】まちの歴史や文化を知る・学ぶ

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 【重点】市史編さん事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 【重点】近代化産業遺産活用事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 文化財保護事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】世界遺産構成資産を含む本市の文化財について、毎月定期的に点検するなど、適切な保護を行っています。また、メニューいろいろ出前講座や、カルタ歴史資料館などと連携した啓発事業に取り組み、文化財に対する理解促進に努めました。</p> <p>さらに、啓発資料として文化財マップを大幅改定しました。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】引き続き、文化財を適切に管理するとともに、H30年度に作成した文化財マップを活用した啓発事業などに取り組みます。</p> |
| 事業名 | 三川坑跡保存活用事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】保存に関しては、管理棟の改修（1期）を完了しました（工事費合計25,178千円）。引き続き、保存活用計画に沿った保全・整備が必要です。また、事業の意図である三川坑跡への愛着を深めるため、市民ワークショップによりトイレ内装のしっくい塗などのDIYを行いました。今後もより多くの市民に参加いただけるよう、回数・内容などの充実が必要です。</p> <p>活用については、地域のNPO法人や他部局などとの協働により、毎月1回以上のイベントを開催し、三川坑跡への関心と認知の向上を図りました。今後も協働での開催を基調として、開催回数を維持しながら、限られた資源においても持続可能で話題性がある内容への改善及び恒例化・定着化を図る必要があります。</p> <p>年間来場者数は、16,931人（港まつり来場者数除く。前年15,640人、前年比108%）で、公開日1日当たり来場者数は146人（131人、111%）でした。</p> <p>認知度については、話題性のあるイベント企画と積極的な情報発信により、新聞、TV等に延べ64回（前年50回）取り上げられ、認知度は56.0%（前年50.9%）となりました。これまでの取組み効果が表れており、引き続き積極的な情報発信に努める必要があります。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】保存活用計画に沿って、構内施設の保全・整備を進めるとともに、市民の愛着を育むDIYの取組みの充実を図ります。</p> <p>協働による毎月のイベントに引き続き取り組むとともに、話題性、持続可能性の観点から改善・充実を図ります。</p> <p>引き続き積極的な情報発信を行い、市内外への認知向上を図ります。</p> |

【視点2】文化芸術事業の充実

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 多様な文化芸術提供事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【やや遅れ】大牟田市民文化のつどいをH30年度は20事業実施し、12,246人の参加者を得ましたが、100周年記念冠事業として実施したH29年度と比較して2事業の減、参加者が約3,700人の減となりました。</p> <p>文化団体や大牟田市文化振興財団と連携し、幅広い世代の市民が気軽に文化芸術にふれ、参加できる機会を増やすなど、文化芸術の環境づくりの充実を図ることが必要です。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【充実】大牟田市民文化のつどいは単に文化団体の発表の場のみならず、多くの市民に参加してもらえるよう他の文化事業とあわせてイベントの情報が取得しやすい情報発信を工夫します。また、文化団体に対し、若い世代が文化芸術事業に参加する取組みを促進するよう働きかけを行います。</p> |

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 子どもの文化芸術体験事業 《再掲 第1編第2章視点3参照》 |
| 事業名 | 若者の関心に合わせた文化芸術事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】ダンスによる若者育成事業「ダンスチャレンジおおむた」を開催し、ダンスワークショップでは高校生10人・小学生12人が参加したほか、高校4校のダンス部による発表や市内外小学生から高校生までを対象としたダンス大会を行いました。(大会参加者99人、来場者340人) 若者のニーズを汲み取るとともに、若者が文化芸術活動に参加しやすい環境をつくる必要があります。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】文化団体でも会員減少、高齢化、後進の育成が課題となっており、若者の文化芸術活動への参加を促進するため、文化団体や大牟田市文化振興財団と連携して取り組みます。 |
| 事業名 | 【重点】本市の特色を活かした文化芸術事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 広域連携による文化芸術事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】有明圏域定住自立圏共生ビジョンに基づき、従前より実施している「有明美術展」を開催したほか、圏域内の自治体4市2町で圏域内の文化事業に関する情報の効果的な発信として各自治体や文化施設に定住コーナーを設けるとともに、共同文化事業について協議しました。 今後は圏域内での文化振興における協力体制を強化し、共同文化事業の取組みを具体的に推進する必要があります。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】文化芸術を通して圏域自治体の魅力を再認識し、交流人口の促進を図るため、今後も引き続き、圏域で協力して圏域内住民の文化向上や交流を図るための共同文化事業を検討します。 |

[視点3] 文化芸術活動への参加機会の充実

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 文化芸術活動参加促進事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】大牟田市民文化のつどいは、市民の参加を促進するため広報おおむたやホームページなどで広く公募を行い、H30年度は1団体が「クリスマスコンサート」を実施しました。そのほか、単独で実施できない文化芸術団体については、既存の事業の中で14団体が「賛助出演」として出演し、文化連合会の活性化につながっています。市民文化のつどいでは引き続き、文化芸術活動の参加確保に努めます。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】活動団体単体では事業実施が難しくても、賛助出演では参加しやすい状況のため、賛助出演を含めて発表の機会を提供し、文化活動参加の促進を図っていきます。また、市民や市民団体が自主的に行う文化芸術事業、イベントに対し引き続き後援等により支援を行います。 |
| 事業名 | 文化団体等育成・支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】本市の文化団体の連合体である大牟田文化連合会に対し、運営費補助を行いました。また、中学校文化連盟に対し、負担金を交付しました。その他文化の振興に資する事業に対しては、後援等(77件)を実施しました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】今後もこの補助金・負担金により、文化団体や中学生の活動を支援するとともに、後援等を実施することで、文化団体等の育成に取り組みます。 |

[視点 4] 文化芸術事業の環境づくり

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 街かどのにぎわい創出事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【やや遅れ】幅広い文化芸術事業に対して、後援等決定（24件※文化会館を会場とする事業を除く）を行い、広報おおむたへの掲載や、チラシ、ポスターの配布など、支援を行いました。文化芸術による「街かど」のにぎわいを創出するためには、後援や共催により文化芸術事業への支援を行うなど、文化団体等に対する行政からの更なる働きかけが必要です。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】今後もさまざまな場所で行われる文化事業への支援を積極的に行います。 |
| 事業名 | 郷土伝統芸能保存継承事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】毎年、市指定無形文化財「岡天満宮祭礼行事」の担い手であるぜんでこ踊り保存会に対して、保存活動事業に要する経費について補助金を交付しており、H30年度についても実施しました。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】当該事業を通じて、市内の郷土芸能の保存を促すとともに、後継者問題等の解決につなげます。 |
| 事業名 | 文化施設整備事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】大牟田文化会館は開館31年、カルタックスおおむたは開館26年が経過し老朽化が進んでいることから、維持補修に取り組みました。 文化会館：非常用発電機更新、大小ホール運営系カメラシステム更新、照明更新など カルタックス：エレベーター通路確保に伴う駐車場照明更新工事、カラー舗装工事など老朽化が進む中、今後も計画的な予防保全が必要となっています。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】今後も適切な維持管理に取り組みます。 |
| 事業名 | 【重点】文化芸術を通じたコミュニケーション能力アップ事業 《再掲 第1編第2章視点1参照》 |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 市史編さん室

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 事業名 | (施策推進の視点) まちの歴史や文化を知る・学ぶ 市史編さん事業 |
|------------|-------------------------------------|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|---|---------|------------|------------|------------|------------|--|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 概ね S39 年からの本市の歴史を的確に記録し、後世に引き継ぐために、市制 100 周年記念事業の一環として、新たな市史の編さんに取り組むことにより、市民が郷土への理解を深め、愛着を高め、誇りを醸成する契機となることを目指します。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 『新大牟田市史』(「現代史編」「三池炭鉱近現代史編」「テーマ特講編」「資料編」)の作成を進めます。H30 年度は「テーマ特講編」「資料編」の完成を目指します。事業の進捗が遅れているため、事業期間を 1 年間延長し「現代史編」「三池炭鉱近現代史編」の完成目標を R 元年度とします。あわせて、事務局体制を強化し、着実に取り組みます。 | | | | | | |
| 収集した資料が市史編さん事業終了後も、適切に保管され、後々まで活用されるよう、整理、分類し、資料に応じた引継ぎの準備を進めます。 | | | | | | |
| 市民への周知のため、歴史講座の開催並びに広報おおむたへの「市史だより」の掲載を継続するとともに、出前講座の要望に対応します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 執筆進捗率 | 目標値 (%) | 15.0 | 50.0 | 75.0 | 100 | 新大牟田市史の内容原稿の執筆の進捗率を指標とします。(全体の原稿量を 1,942 頁分と想定した内の進捗率) |
| | 実績値 (%) | 2.2 | 26.6 | 60.7 | | |
| | 達成度 (%) | 14.6 | 53.2 | 80.9 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|--|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 『新大牟田市史』「テーマ特講編」「資料編」を作成、発行 市史編さん委員会を 3 回開催 (5 月、10 月、1 月) 市史編さんの機運を盛り上げるため、大牟田の近代を学ぶ歴史講座を 2 回実施 (10 月 13 日、20 日) 広報おおむたに「市史だより」を 2 回掲載、出前講座等に 9 回対応 企画総務部内の応援体制として、世界遺産・文化財室との連携を深め、文化財専門職員 1 人の週 1 回の当室での勤務日を設定。産業経済部所属 1 人含め、4 人の文化財専門職員が執筆に従事。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 14,545 千円 | | | | 78 | 14,467 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 市史編さん委員、外部執筆者、事務局に加え、企画総務部内、庁内の文化財専門職員が執筆に携わり、30 年度予定していた「テーマ特講編」「資料編」の完成を見たため、執筆進捗率が向上しました。 5 冊の内 3 冊が完成しましたが、R 元年度作成の「三池炭鉱近現代史編」は戦後の資料が得にくい状況にあり、執筆が足踏み状態です。 H30 年度下期からは「現代史編」を並行して作成予定でしたが、「テーマ特講編」「資料編」の作成の人数が想定以上であったため、遅れています。そのため、達成度は 100%に達しませんでした。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> R 元年度中に「現代史編」「三池炭鉱近現代史編」が完成できるよう、項目設定と分担を工夫し、スケジュール管理を徹底します。補足調査を行い、執筆のための資料を充足します。 資料と業務の引き継ぎが円滑にできるよう、整理と協議を的確に進めます。 市史完成後に市史を活用して、郷土への誇りと愛着を醸成できるような事業を立案します。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 遅れ・改善 | H30 年度分の「テーマ特講編」「資料編」は完成しましたが、全体の完成予定に照らすと、執筆進捗率が目標に達していません。進捗状況を把握しながら、的確なスケジュール管理を行っていきます。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 世界遺産・文化財室、総合政策課

| | |
|------------|---|
| 事業名 | (施策推進の視点) まちの歴史や文化を知る・学ぶ 近代化産業遺産活用事業 |
|------------|---|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|------|-------|------|------|---|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 市内に数多く残る三池炭鉱関連の近代化産業遺産の価値や歴史を市民等に伝え、理解していただくことで、まちへの愛着を育み、まちづくりの原動力としていきます。また、必要な修復、整備を行い、各資産を適切に管理していきます。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 次世代を担う子どもたちの近代化産業遺産への理解促進を図るため、小学生を対象とした近代化産業遺産のバス見学会を実施します。また、広報おおむたやホームページにより近代化産業遺産に関する情報を掲載し、資産の価値、保全や活用に対する理解促進を図ります。 資産の保存・活用に向け、三池炭鉱跡の保存・公開・活用に関する計画に基づき、宮原坑や専用鉄道敷跡の整備に向けた調査等を継続実施します。また、大牟田市近代化産業遺産を活用したまちづくり協議会を中心に、イベント等各種啓発活動や市民と連携した清掃活動などに取り組むとともに、資産保全のための取組みを行い、資産を適切に管理します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 来場者の理解度 | 目標値 (%) | 87.0 | 90.0 | 93.0 | 96.0 | 近代化遺産一斉公開のアンケートで、施設の保存・継承に係る理解度を測る。(H27 年度 84%から毎年 3%アップ) |
| | 実績値 (%) | 82.4 | 93.7 | 91.2 | | |
| | 達成度 (%) | 94.7 | 104.1 | 98.1 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|---|--|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 市内の全小学校 19 校の 6 年生 (893 人) を対象に近代化産業遺産のバス見学会を実施し、理解促進を図りました。また初めての事業として、一般市民を対象とした、世界遺産公開講座&バス見学会を実施し、三池炭鉱・三池港だけでなく、同じ「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である三重津海軍所跡も見学し、より理解を深めました。 近代化産業遺産ホームページへの施設の公開情報やイベント案内等の掲載、来訪者への「三池炭鉱ナビ」による施設案内など、資産の理解促進に資する取組みを行いました。 資産への関心の高まりや愛着を深めるため、宮原坑や三川坑において、地域の人たちや子供たちとともに花植えを行うなど、協働による環境美化活動を行い、また、三川坑では、DIY や時節に即した定期的な市民等との協働型イベントを実施しました。 H29 年度に策定した「三池炭鉱跡の保存・公開・活用に関する計画」に基づき、宮原坑や専用鉄道敷跡の発掘・調査、測量を行いました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 32,700 千円 | 7,686 | 2,250 | | 288 | 22,476 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| 行政主導から民間主導へ移行した「炭鉱の祭典」などの“集客型イベント”と、美化活動や DIY などの“協働型イベント”がバランスよく充実、実施し、高い理解度を保っています。今後も、地域に残る貴重な資産として、より多くの人に郷土の歴史や施設の価値を理解してもらうための活動など、積極的な事業展開が必要です。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> より多くの市民が関心を高めるよう、イベント等へ市民が主体的に参画するような取組みを行っていきます。また、発掘現場を公開するなど、管理保存への取組みや施設の価値の理解を進めます。 「三池炭鉱跡の保存・公開・活用に関する計画」に基づき、整備等を進めます。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 小学 6 年生のバス見学会の定着などで、理解は進みつつあります。環境美化、イベント等各種啓発活動を継続しながら、より多くの市民が活動へ参画し、資産への関心を高める取組みを今後も進めていきます。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

| | |
|-----|---|
| 事業名 | (施策推進の視点) 文化芸術事業の充実 本市の特色を活かした文化芸術事業 |
|-----|---|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|---|--------|-----|-----|-----|-----|--|
| 意図（誰が、どういう状態になることを狙っているのか） | | | | | | |
| 本市の特色を生かした文化芸術事業を通して、市民が本市の歴史や文化芸術を再認識し、関心を高めるとともに、郷土への愛着を深めます。また、併せ広く本市の魅力を発信することで、認知度の向上、ひいては来牟者の増加につながります。 | | | | | | |
| 事業内容（具体的にどのような取組みを行なうのか／前年度からの改善策への対応についても記述） | | | | | | |
| 本市の特色を生かした事業を実施・充実します。 【本市の特色】 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・絵本作家や作家及び、多くの漫画家を輩出しています。 ・カルタ発祥の地として、国内唯一の公立カルタ資料館を有しています。 ・押花文化（技術、技法）が盛んです。 | | | | | | |
| 具体的な事業として、絵本や漫画・アニメに関する文化芸術事業（テーマ別展覧会）、カルタ大会等の充実、押花作品の展覧会 等 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 本市の特色を活かした文化芸術事業数 | 目標値（件） | 5 | 6 | 6 | 6 | H27年度実績：5事業 H29年度から、テーマ別展覧会を開催することとしています。（+1事業） |
| | 実績値（件） | 6 | 7 | 6 | | |
| | 達成度（%） | 120 | 117 | 100 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|---|--|---|---|----|-----|------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・競技かるたの魅力にふれてみよう！ 参加者 88 人 ・おれたちともだち～キツネとオオカミのえほんのじかん～（ともだちや絵本ギャラリー実行委員会）参加者 880 人 ・大牟田押花フェスタ（大牟田押花の会） 参加者 321 人 ・市民カルタフェア（指定管理者事業） 参加者 166 人 ・九州新人かるた競技大会（指定管理者事業） 参加者 324 人 ・「お正月かるた祭り」参画（指定管理者事業） ワークショップ参加者 45 人 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 158 千円 | | | | | 158 |
| | （次年度への繰越 千円） | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた（気付いた）問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・文化団体や民間の活動団体、指定管理者などが行う継続的な取組みを広報宣伝や情報発信などにより支援していくことが必要です。 ・観光やシティプロモーションとも連携し機会をとらえて本市の特色ある文化芸術を市内外にPRするほか、関係課や指定管理者等と連携した事業の実施を検討します。 | | | | | | |
| 今後の方向性（具体策） | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今後も本市ならではの人材や素材、歴史を活かした事業を展開し、市民に身近な場所で文化芸術にふれる機会を提供していきます。R元年度は本市ゆかりの漫画家と漫画文化に焦点をあてた展示を指定管理者と協働で実施する予定です。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | H30年度はカルタをはじめとした事業を実施することで、本市の魅力を市内外へアピールすることができました。次年度以降も関係団体等と連携しながら本市の特色を活かした事業を実施するとともに、関係団体等が実施する事業について、広報等の支援を行っていきます。 | | | | | |

評価・検証シート【施策】

平成 30 年度

【所管部局】市民協働部・教育委員会

| | |
|-----|---|
| 施策名 | (第1編第8章) 一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち |
|-----|---|

1. 計画 (Plan)

| 意図 (どういった状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
|--|---------|------|------|-------|------|--|
| 市民一人ひとりの人権が尊重され、互いに認め合える、あらゆる差別のない、男女が生き生きと暮らすことができるまちの実現を目指します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 人権が尊重されていると思う市民の割合 | 目標値 (%) | 37.0 | 38.0 | 39.0 | 62.5 | 市民アンケート回答選択肢変更に伴い、現状値:61.5%(H30年度実績)を基に年1ポイントアップも目標値として設定 |
| | 実績値 (%) | 33.9 | 32.2 | 61.5 | | |
| | 達成度 (%) | 91.6 | 84.7 | 157.7 | | |
| 性別による固定的な役割分担意識に同感しない市民の割合 | 目標値 (%) | 58.0 | 60.0 | 65.0 | 65.0 | 市第3次男女共同参画プランに掲げる目標値(R4年度65.0%)を基に目標値を設定 [現状値:57.2%(H28年度実績)] |
| | 実績値 (%) | 57.2 | 58.0 | 60.1 | | |
| | 達成度 (%) | 98.6 | 96.7 | 92.5 | | |

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

| (1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証) |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 人権が尊重されていると思う市民の割合は61.5%となりました。(市民アンケートの回答選択肢を変更したことに伴い、実績値は大きく変動しています。)人権・同和問題啓発推進事業では、人権フェスティバル等の各種啓発事業の実施により、また人権擁護推進事業では、人権擁護委員が行う人権相談及び啓発活動への支援などにより、指標の実績値に影響していると考えます。 指標の達成度(男女)は、目標の92.5%でした。実績値では、60.1%と昨年から2.1ポイント上昇しており、男女共同参画に関する意識啓発事業では、性別による固定的な役割分担意識の解消に向けては、一定の効果が上がっているものと考えられますが、一方では、今なお根強く残っているものと考えられます。 近年は、人権侵害や男女共同参画に関する話題がマスコミ等を通じて注目を受けることもあります。このことは市民の意識に大きく影響し、指標達成にも一定の影響を及ぼす可能性がある一方で、これらの問題を考えていくことを通じて意識向上にもつながっていくものと考えます。 |
| (2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す) |
| <ul style="list-style-type: none"> 人権・同和問題啓発推進事業や人権擁護推進事業においては、これまで継続的な事業実施により指標達成に努めてきたところです。しかしながら、今なお、全国的には差別問題や人権侵害事象の発生は後を絶たず、特に最近インターネットを介した人権侵害事件が多く発生しています。そのような中、H28年度施行された人権3法の周知・啓発を通じて、今後とも、差別解消に向けた取組みを継続していきます。 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(H27年制定)及び「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律」(H26年改正)を反映した第3次おおむた男女共同参画プランを推進していくことにより、周知・啓発等に取り組んでいきます。 (市民協働部長 中島 敏信) 人権・同和教育推進事業及び人権・同和教育連携事業においては、大牟田市人権・同和教育研究協議会(市同研)等の関係団体と連携を図りながら、人権問題に対する理解と認識を深める取組みを進めてきました。今後とも人権・同和教育諸事業を推進していきます。 (教育委員会事務局長 中村 珠美) |

4. 施策推進の視点と各構成事業

| No. | 事業名 | 所管課 | 成果指標等 | | | 評価結果 | |
|--------------------------|----------------------|---------------|--------------------------------|----|----------------|-------------|------------|
| | | | 指標名 | 単位 | H30目標 H30実績 | 結果検証 ・分析 | 今後の 方向性 |
| [視点1] 人権に関する教育・啓発の推進 | | | | | | | |
| 1 | 【重点】人権・同和問題啓発推進事業 | 人権・同和・男女共同参画課 | 人権イベントにおいて初めて参加した人の割合 | % | 42.0 46.5 | 順調 | 継続 |
| 2 | 【重点】人権・同和教育推進事業 | 人権・同和教育課 | 人権尊重意識の醸成度 | % | 100 96.5 | 順調 | 継続 |
| 3 | 人権・同和教育連携事業 | 人権・同和教育課 | 市同研参加者の人権意識が向上した割合 | % | 100 97.6 | 順調 | 継続 |
| [視点2] 人権擁護の推進 | | | | | | | |
| 4 | 人権擁護推進事業 | 人権・同和・男女共同参画課 | 差別や偏見がないと思う市民の割合 | % | 39.0 39.0 | 順調 | 継続 |
| [視点3] 男女がともに生きる社会への意識づくり | | | | | | | |
| 5 | 【重点】男女共同参画に関する意識啓発事業 | 人権・同和・男女共同参画課 | 社会全体の中で「男女の地位が平等である」と回答した市民の割合 | % | 40.0 18.5 | やや遅れ | 継続 |
| 6 | 女性に対する暴力防止及び被害者支援事業 | 人権・同和・男女共同参画課 | DV相談件数 | 件 | 48 52 | 順調 | 継続 |
| [視点4] 男女がともに参画する機会の確保 | | | | | | | |
| 7 | 【重点】女性参画促進事業 | 人権・同和・男女共同参画課 | 審議会等委員への女性の登用率 | % | 42.0 37.1 | やや遅れ | 継続 |

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点 1] 人権に関する教育・啓発の推進

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 【重点】人権・同和問題啓発推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 【重点】人権・同和教育推進事業 《平成30年度重点事業の取組状況報告書 参照》 |
| 事業名 | 人権・同和教育連携事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】事業内容としては、人権・同和教育研究実践交流会、課題別委員会「子ども就学支援」及び人権連続講座を実施しています。人権連続講座のアンケート結果において、開催テーマに対する理解度は97.6%と高くなっていますが、20歳代～30歳代の若年層の参加者の割合は20.9%に留まっており、今後の課題となっています。</p> <p>「おおむた子ども支援ガイドブック」は、今年度より50冊増刷し、500冊を作成して、子どもの育ちや学び、家庭にかかわる支援者がより広く活用できるようにしました。また、学校をはじめとして、人権・同和教育研究協議会加盟団体に配布するとともに、ホームページに掲載し、利用できるようにしています。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】講座等を開催するにあたっては、開催テーマに対する理解や認識を深めてもらうとともに、若年層を含めた幅広い参加が得られるように企画、周知することも必要です。このため、周知方法については、広報おおむた、ホームページ、Facebook、FMたんとう等を活用するほか、講座等の様子については、Facebook等で報告するなど、広く周知、啓発していきます。また、「おおむた子ども支援ガイドブック」については、毎年度、各種支援制度の改正などに対応し、改訂版を発行していきます。</p> |

[視点 2] 人権擁護の推進

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 人権擁護推進事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】人権擁護委員や県の関係機関と連携し、7月の同和問題啓発強調月間及び12月の人権週間に、街頭啓発活動を実施しました。また、人権擁護委員が実施する「人権なんでも相談」、「人権の花運動」及び「エコ風船飛ばし」の開催を支援しました。この事業の指標として、まちづくり市民アンケートにおいて、「差別や偏見がないと思う市民の割合」がH30年度では39.0%の目標に対し39.0%と順調に推移しました。しかしながら、「なんでも相談」の件数に減少が見られることから、今後は、これらの一層の周知に努め、人権擁護委員の活動を支援するとともに、同協議会や久留米人権啓発活動ネットワーク協議会とも連携しながら人権擁護に取り組みます。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】今後とも、柳川人権擁護委員協議会や久留米人権啓発活動ネットワーク協議会、県の機関等と連携しながら「なんでも相談」を開催するなど人権擁護の取組みを推進し、差別や偏見のない社会を目指します。</p> |

[視点3] 男女がともに生きる社会への意識づくり

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 【重点】男女共同参画に関する意識啓発事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
| 事業名 | 女性に対する暴力防止及び被害者支援事業 |
| 事業の実施状況と課題 | 【順調】女性に対する暴力を防止するために、国が定めた運動期間にあわせて広報啓発を実施するとともに、広報おおむたやホームページ並びに商業施設及び公共施設に DV 情報カードや DV 情報ポスターを作成・設置を行い、窓口や支援機関等の周知をしました。また、相談者に対する適切な支援を行うため、県、警察、市などの関係機関等と連携した支援や情報提供を行いました。また、女性相談員の資質向上のため各種研修会へ派遣しました。H30 年度の DV 相談件数は、52 件でした。 |
| 今後の方向性と具体策 | 【継続】女性の人権について理解を深めるため、広報おおむた、ホームページや商業施設などへのポスター掲示、メディア等を活用するなど意識啓発に取り組みます。また、関係機関等と連携し、相談窓口等の周知を行うとともに、相談機能の充実を図り、被害者の態様に応じた適切な支援や自立に向けた情報の提供等を行います。 |

[視点4] 男女がともに参画する機会の確保

| | |
|-----|-------------------------------|
| 事業名 | 【重点】女性参画促進事業 《評価・検証シート【事業】参照》 |
|-----|-------------------------------|

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 人権・同和・男女共同参画課

| | |
|-----|---|
| 事業名 | (施策推進の視点) 人権に関する教育・啓発の推進 人権・同和问题啓発推進事業 |
|-----|---|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|-------|-------|-------|------|---|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 関係機関等と連携しながら、人権に関する教育・啓発を推進することにより、市民一人ひとりが、人権問題に対する正しい理解と認識が深まり、互いの人権を尊重していく意識を醸成していきます。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 市民の人権問題に対する理解と認識を深めるために、関係団体・関係機関等と連携して、人権フェスティバルをはじめ、7月の福岡県同和问题啓発強調月間や12月の人権週間を中心に、各種啓発事業に積極的に取り組みます。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 人権イベントにおいて初めて参加した人の割合 | 目標値 (%) | 42.0 | 42.0 | 42.0 | 42.0 | 人権フェスティバル初参加者の割合を、過去5年間 (H23~27) の平均値 (42.0%) を常に上回るようにします。 |
| | 実績値 (%) | 58.6 | 43.1 | 46.5 | | |
| | 達成度 (%) | 139.5 | 102.6 | 110.7 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|---|---|---|-----|----|-----|------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 大牟田市人権・同和问题啓発推進協議会等との連携により、12月の人権週間に合わせて第33回人権フェスティバルを開催しました。元熊本市食肉センター解体作業員で絵本「いのちをいただく」の原案者である坂本義喜氏を招き、『「いのちと仕事」～いのちをいただく～』の演題で食肉センターでの勤務時の経験を通し、「いのちの大切さ」「食の大切さ」「仕事」について語っていただきました。参加者は260人、初参加者の割合は46.5%、人権問題への気付きとなったと答えた人の割合が91.7%でした。 人権擁護委員や市内にある県の機関と連携し、7月の福岡県同和问题啓発強調月間や12月の人権週間において街頭啓発を行い、人権・同和问题等に関する啓発活動に取り組みました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 491 千円 | | 200 | | | 291 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 人権フェスティバルは、メインとなる講演者及び講演テーマにより参加者層・数に大きな変動が生じますが、今回は絵本の原案者が講師ということもあり、親子連れの参加も多く、初めて参加した人の割合も46.5%と高くなりました。 市民の人権・同和问题に対する理解と認識を深めるためのきっかけ作りとなるよう、新たに興味を持って初めて参加する方を増やす必要があります。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 人権フェスティバルは、これまでは平日夕刻に開催しておりますが、土日での開催を検討し、市民参加のプログラムやロビーでの展示物を活用し他事業の取組みを紹介するなどの手法を取り入れ、今後も広がりのある事業展開を検討します。 今後も人権擁護委員や関係機関等と連携し、各種啓発活動に取り組みます。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| 順調・継続 | 人権フェスティバルへの初参加者の割合は、目標値 (42.0%) を上回り、市民の人権問題に対する理解と認識を促すきっかけとなりました。今後も市民の人権問題に対する理解と認識を深めるため、人権フェスティバルのプログラムに工夫を加え、取り組んでいきます。 | | | | | |

平成30年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：人権・同和教育課)

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) 人権に関する教育・啓発の推進 人権・同和教育推進事業 |
|------------|--|

| |
|--|
| 目的 |
| 人権・同和教育問題に対する理解と認識は、未だ十分とは言えません。学校、家庭、地域、職場など日常生活のあらゆる場を通して、市民一人ひとりが人権・同和教育問題を自らの課題として捉え、人権・同和教育問題に対する理解と認識を深めながら、「差別をしない」から「差別をなくす」取組を進めていくことにより、一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を目指します。 |

| |
|--|
| 事業内容 |
| 「第2次大牟田市人権教育・啓発基本計画」に基づき、市民の人権・同和教育問題に対する理解と認識を深めるための学習・啓発事業を実施します。 |
| 1 福岡県同和教育問題啓発強調月間(7月)の趣旨を踏まえて、「人権・同和教育講演会」を開催します。 |
| 2 福岡県同和教育問題啓発強調月間(7月)及び人権週間(12月)に街頭啓発を行います。 |
| 3 人権意識の向上のため、「人権学習会(仮称)」を開催します。 |
| 4 ホームページにより各種啓発事業や地域や職場での学習を支援するための啓発資料(啓発DVDや図書等)の案内を行うとともに、『広報おおむた』や『愛情ねっと』等に啓発記事や啓発事業の案内を掲載するなど、情報提供の充実を図ります。 |

| 指標名 | 目標値等 | H28 | H29 | H30 | H31 | 指標・目標値設定の根拠 |
|------------|--------|------|------|------|-----|---|
| 人権尊重意識の醸成度 | 目標値(%) | 100 | 100 | 100 | 100 | 諸事業の参加者アンケートで、開催テーマに対する理解及び認識が「深まった」「概ね深まった」と全ての人の人に回答していただくことを目指します。 (27年度の人権・同和教育講演会の参加者アンケートでの回答割合 95.9%を踏まえて設定。) |
| | 実績値(%) | 96.0 | 94.9 | 96.5 | | |
| | 達成度(%) | 96.0 | 94.9 | 96.5 | | |

| |
|---|
| 取組実績 |
| 1 3月9日(土)に大牟田文化会館で開催した人権・同和教育講演会には52人の参加があり、人権尊重意識の醸成度は100%でした。※7月8日(日)に開催予定の同講演会は、荒天のため中止しました。 |
| 2 福岡県同和教育問題啓発強調月間の7月3日(火)及び人権週間の12月3日(月)に、大牟田駅とゆめタウン大牟田で街頭啓発を実施しました。 |
| 3 人権・同和教育問題に対する正しい認識と理解を深めるため、12月4日(火)から12月14日(金)にかけて、中央地区公民館等の市内4会場において、人権学習会を開催しました。合わせて126人の参加があり、人権尊重意識の醸成度は96.8%でした。 |
| 4 啓発用DVDについては、貸出しを42件行い、地域や職場での研修等に活用されました。また、『広報おおむた』については、その都度記事を掲載して、事業の周知や意識啓発を図りました。さらに、ホームページへの掲載や「FMたんと」、「愛情ねっと」、「Facebook」を活用し、周知・啓発を図りました。なお、職場等における研修会には、37回講師を派遣し、1,597人の参加がありました。 |

| | | | | | |
|------------------|------------------|----------|-----------|------------|-------------|
| 決算 | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 (次年度への繰越) | 292 千円 千円) | | 132 | | 160 |

| |
|--|
| 問題点及び課題 |
| アンケート結果において、10歳代～30歳代の年齢層の参加者の割合は、人権・同和教育講演会で9.3%、人権学習会で12.6%と低い率となっています。このため、講演会等に若年層の参加者を増やすことが課題であると考えられます。 |

| |
|---|
| 今後の方向性(具体策) |
| 諸事業を開催するにあたっては、開催テーマに対する理解や認識を深めてもらうとともに、若年層を含めた幅広い市民の参加が得られるように企画、周知することも必要です。このため、周知方法については、広報おおむた、ホームページ、Facebook、「FMたんと」等を活用するほか、講演会等の様子については、Facebook等で報告するなど、広く周知、啓発していきます。 |

| | |
|-----------|---|
| 評価 | 評価の理由 |
| 順調・継続 | 人権・同和教育講演会のほか、H30年度は新たな事業として人権学習会を市内4会場で開催し、醸成度についてはほぼ目標に近い数字となりました。このため、開催テーマや趣旨については参加者に十分伝わったものと思われます。今後も、一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を目指して取り組んでいきます。 |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 人権・同和・男女共同参画課

| | |
|------------|--|
| 事業名 | (施策推進の視点) 男女がともに生きる社会への意識づくり 男女共同参画に関する意識啓発事業 |
|------------|--|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|------|------|------|-----|--|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| 男女共同参画に関する理解は深まってきていますが、依然として女性に対する差別や偏見が残っています。あらゆる場やあらゆる年齢層の方々に対して、男女共同参画について考える機会や学ぶ機会を増やし、啓発活動に取り組むことにより、男女共同参画に関する理解が深まります。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 男女共同参画について学習する機会の提供や啓発活動を行い、制度や慣行についての見直しを促進していきます。また、市民や事業者の男女共同参画に関する自主的な活動を促進するため、講師の派遣や講座の開催に係る情報の提供を行うなどの支援を行っていくとともに市内で活動している各団体と連携し、男女共同参画週間等において事業を実施し、各種団体等との新たなネットワークの構築を図ります。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 社会全体の中で「男女の地位が平等である」と回答した市民の割合 | 目標値 (%) | 40 | 40 | 40 | 40 | 第2次及び第3次男女共同参画プラン目標値 (H29 40.0%、R4 40.0%) を基に設定します。 [現状値: 14.4% (H26 年度実績)] |
| | 実績値 (%) | 21.8 | 15.8 | 18.5 | | |
| | 達成度 (%) | 54.5 | 40.0 | 46.2 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|--|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 国が定めた6月の「男女共同参画週間」に合わせて、7月に「家族の笑顔が増える！片づけ大作戦！！」のタイトルで、性別による固定的役割分担意識の解消やワーク・ライフ・バランスの推進についての講演会を開催するとともに、広報おおむたへの掲載、ポスターの掲示、男女共同参画についてのチラシの配布、FM たんと等のメディアを活用するなど積極的に啓発を行いました。 11月の福岡県「男女共同参画の日」に合わせて、国と連携しマスコットキャラクターのパープルリボン着用写真の啓発ホームページ掲載、中央地区公民館へパープルツリーの設置、商業施設において、県と連携しチラシの配布等街頭啓発を行いました。 男女共同参画に関する意識啓発のため、2月に市内で活動している各団体と連携し、「避難所の過ごし方 男女 (みんな) ができることから」のタイトルで、男女共同参画の視点から、災害時の必要な対策・対応について学びました。 3月に女性センターだより「レインボー」を発行し、男女共同参画事業報告やDV防止に係る記事を掲載し、啓発を行いました。 男女共同参画のさらなる推進を図るため、女性センターの名称をH31年4月より男女共同参画センターに変更しました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 723 千円 | | | | | 723 |
| (次年度への繰越) | 千円) | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 7月の講演の参加者数は78名で、初参加者約66.7%、おおむね理解できた割合は100.0%、2月の講演の参加者数は、50名で、初参加者37.1%、おおむね理解できた94.3%となっており、男女共同参画の意識啓発につながりました。 指標実績値18.5%でH29年度15.8%から2.7ポイント上がりましたが、まだまだ目標値に届いていないため、事業の推進状況を把握し、全庁的な調整を図るなどして、第3次おおむた男女共同参画プランに掲げる施策を計画的に推進する必要があります。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 広報おおむた、ホームページや商業施設などへのポスター掲示、FM たんと等のメディアを活用するなど積極的に啓発を行います。 男女共同参画に関する知識や理解を深めるため、第3次プラン策定内容に基づき、継続して学習の機会を提供します。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| やや遅れ・継続 | 社会全体の中で「男女の地位が平等である」と回答した市民の割合が、昨年と比較すると2.7ポイント増加しましたが、まだまだ目標値に届いていないため、第3次プランに掲げる施策の確実な実施に取り組みます。 | | | | | |

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 人権・同和・男女共同参画課

| | |
|------------|---------------------------------------|
| 事業名 | (施策推進の視点) 男女がともに参画する機会の確保 女性参画促進事業 |
|------------|---------------------------------------|

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

| | | | | | | |
|--|---------|------------|------------|------------|------------|--|
| 意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
| ワーク・ライフ・バランスを推進することにより、女性も仕事や、地域活動、ボランティア活動等への社会参加を通じて自己実現が可能となります。さらには様々な政策や方針決定過程の場に女性が参画する機会が増えるようになります。 | | | | | | |
| 事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述) | | | | | | |
| 女性の社会参画のために学習機会の提供を実施するとともに、企業、各種団体等における方針決定過程への女性の参画促進や、自分の希望するバランスで仕事や家庭、地域活動等に関われるように、ワーク・ライフ・バランスの趣旨について意識啓発を行います。 | | | | | | |
| また、市における政策・方針決定過程への女性の参画を推進するために、市内で活動している各分野の女性へ「女性人材リスト」への登録を促し、リストを整備するとともに、その人材についての情報提供を行っていきます。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 審議会等委員への女性の登用率 | 目標値 (%) | 40.0 | 40.0 | 42.0 | 42.0 | 第2次及び第3次男女共同参画プランに掲げる目標値 (H29 40.0%、R4 42.0%) を基に設定します。 [現状値:36.5%(H26 年度実績)] |
| | 実績値 (%) | 36.2 | 35.8 | 37.1 | | |
| | 達成度 (%) | 90.3 | 89.5 | 88.3 | | |

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

| | | | | | | |
|--|---|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| 当年度取組みの実施状況 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 女性の社会参画やワーク・ライフ・バランス等について、広報おおむたやホームページへの掲載や FM たんなどメディアを活用したり、資料の配布を行うなどの啓発活動を行いました。 審議会等委員の選任の際には、所管部局との事前協議を強化し、女性人材リストの活用に取り組みました。 「女性人材リスト登録者募集」のチラシやポスターを作成し、公共施設や地区公民館等へ配置し、募集・啓発を行いました。女性団体等へ人材の推薦を働きかけるとともに、既存登録者の整理を行い、人材リストの活用に向けて関係課へ情報を提供しました。その結果、女性人材リスト登録者は、40名となり、その登録者から延26名の方が審議会委員へと登用されました。 | | | | | | |
| 決算 | | 国 | 県 | 起債 | その他 | 一般財源 |
| 決算額 | 293 千円 | | | | | 293 |
| (次年度への繰越) | | | | | | |
| 結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 女性委員の登用を促進するためには、各課が求めている人材を確保することが必要ですが、弁護士、医師など専門職の女性の方の人材リスト登録を増やすことが課題です。 リストのさらなる有効活用をめざして、人材リストへの新規登録者の募集や既存登録者の更新などの整備が必要です。 | | | | | | |
| 今後の方向性 (具体策) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 女性団体などの関係機関と連携しながら、女性人材リストへの登録を働きかけリストの拡充をしていきます。 女性の社会参画やワーク・ライフ・バランス等の趣旨や取組みについて、広報おおむた、ホームページや商業施設などへのポスター掲示、FM たんと等のメディアを活用するなど意識啓発を行います。 | | | | | | |
| 評価結果 | 評価の理由 | | | | | |
| やや遅れ・継続 | 指標の実績値については、H29 年度から 1.3 ポイント増加しました。今後も女性が参画する機会が増えるよう、継続して女性人材リストへの募集・啓発を行います。 | | | | | |

評価・検証シート【施策】

平成 30 年度

【所管部局】企画総務部

| | |
|-----|--------------------------|
| 施策名 | (第1編第9章) 多文化共生が実現するまち |
|-----|--------------------------|

1. 計画 (Plan)

| 意図 (どういう状態になることを狙っているのか) | | | | | | |
|---|---------|-----|-----|-------|------|---|
| 市民が異文化を理解し、国籍にとらわれず互いに認め合い、誰もが住みやすく訪れやすいまちを目指します。 | | | | | | |
| 指標名 | | H28 | H29 | H30 | R 元 | 指標・目標値設定の根拠 |
| 英語弁論大会参加者数 | 目標値 (人) | 9 | 11 | — | — | 過去 5 年間の参加者数平均の 2 倍の参加者数を目標とします。 [現状値: 7.5 人 (過去 5 年間の平均)] |
| | 実績値 (人) | 0 | 0 | — | — | |
| | 達成度 (%) | 0 | 0 | — | — | |
| 異文化を理解することが大切と思う市民の割合 ※H30 年度より追加設定したものの。 | 目標値 (%) | — | — | 65.0 | 90.0 | R 元年度までにまちづくり市民アンケートでの割合 90%の到達を目指します。 [現状値: —] |
| | 実績値 (%) | — | — | 87.5 | | |
| | 達成度 (%) | — | — | 134.6 | | |

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

| (1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証) |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 成果指標については、H30 年度より「異文化を理解することが大切だと思う市民の割合」を新たに設定したところ、大切と思う市民の割合が 87.5%と高い状況となっています。これは、本市において長年にわたる国際交流の取組みが行われてきたことや、新聞テレビ等で多文化共生にかかる報道が多くなされていることなどの要因が考えられます。 中国大同市との都市交流は、自治体国際化協会 (CLAIR) の事業等を活用しながら事業を推進してきました。また、H30 年 8 月に市長をはじめ 19 名からなる日中友好第十次市民訪問団を派遣しました。これは大牟田市と大同市との交流発展を図るためのもので、大同市の環境と都市緑化に係るプロジェクト等の視察や世界文化遺産の名所旧跡を訪問するなど、交流を深めました。 多文化共生のまちづくり推進については、国の動向を見ながら市多文化共生指針の検討を進めました。そのような中、H30 年 12 月に国から「外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策」が示されたことから、こうした情勢の変化や国の動向を注視していく必要があります。 世界には様々な文化があることなどを知ること、学童期からの異文化への理解や関心をもってもらうことを目的として、H30 年度は新たに小中学生を対象とした異文化理解促進事業に取り組みました。 |
| (2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す) |
| <ul style="list-style-type: none"> 施策の実現に当たっては、異文化を理解することが大切と思う意識の醸成が重要となります。今後も国際交流等の機会を通して、外国の文化や価値観の違いを理解してもらうとともに、国際感覚を持ってもらえるような取組みを進めます。 多文化共生の視点は、経済、教育、福祉、人権等多岐に渡ることから、国から示された「外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策」の主旨を踏まえ、市民対応等に当たる各部署において、適切に対応しながら取り組むこととします。 <p style="text-align: right;">(企画総務部長 井田 啓之)</p> |

4. 施策推進の視点と各構成事業

| No. | 事業名 | 所管課 | 成果指標等 | | | 評価結果 | |
|---------------------|-----------------|-------|-----------------------|----|------------------|-------------|------------|
| | | | 指標名 | 単位 | H30 目標 H30 実績 | 結果検証 ・分析 | 今後の 方向性 |
| [視点 1] 国際感覚を持った人づくり | | | | | | | |
| 1 | 多文化共生のまちづくり推進事業 | 総合政策課 | 多文化共生指針の策定 | — | 策定 未策定 | 遅れ | 継続 |
| 2 | 異文化理解促進事業 | 総合政策課 | 本事業参加者の異文化 に対する理解度 | % | 70.0 81.4 | 順調 | 継続 |
| [視点 2] 友好姉妹都市交流の推進 | | | | | | | |
| 3 | 中国大同市との友好都市交流事業 | 総合政策課 | 交流事業の実施回数 | 回 | 2 2 | 順調 | 継続 |

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 国際感覚を持った人づくり

| | |
|------------|--|
| 事業名 | 多文化共生のまちづくり推進事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【遅れ】 国の動向や先行自治体を参考に、市多文化共生指針の検討を進めました。そのような中、外国人材を適正に受け入れ、共生社会の実現を図ることを目的として、国からH30年12月に「外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策」（国方針）が示されました。</p> <p>また、H31年4月には、外国人材受入の拡大に向けた入管法が改正されたところであり、こうした情勢の変化や国の動向を注視していく必要があります。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】 今後も国の動向を注視するとともに、国が示した国方針の主旨を念頭に置きながら、必要に応じ各分野における適切な対応を行っていきます。</p> |
| 事業名 | 異文化理解促進事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】 H30年度から新たに本事業に取り組み、中学校3校（甘木・田隈・松原）と小学校3校（中友・高取・手鎌）において、国際協力機構（JICA）の事業を活用し、青年海外協力隊などによる講話やワークショップを実施しました（参加者数738人（児童生徒715人、保護者23人））。受講者へのアンケート調査では、81.4%が「多文化の存在が良く分かった」と回答し、多文化がある中で互いに認め合うことの重要性について、95.0%の人が「認め合うことが大切」と回答するなど、受講者の異文化理解の促進を図ることができました。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】 本事業を実施することで、将来におけるグローバルな活躍や多角的な視野で物事を捉えて考えることができる人材の育成を図ります。</p> |

[視点2] 友好・姉妹都市交流の推進

| | |
|------------|---|
| 事業名 | 中国大同市との友好都市交流事業 |
| 事業の実施状況と課題 | <p>【順調】 自治体国際化協会（CLAIR）の「自治体国際協力専門化派遣事業」を活用し、大同市への教職員派遣により小学校において環境学習を行うとともに環境教育等に関する意見交換等を実施しました。</p> <p>日中友好第十次市民訪問団の派遣では、現地で大気汚染の改善が確認でき、これまでの環境技術や環境教育、都市緑化といった分野での国際協力による成果が見られました。また、環境技術交流を進めている大同市環境局等の視察では、これまで大牟田市へ来訪された研修員のみなさんと再会し、交流を深めることができました。</p> <p>今後は新たに医療介護分野での交流を確認するなど、広範な分野に渡って友好都市交流を推進することとしています。</p> |
| 今後の方向性と具体策 | <p>【継続】 大同市からのニーズも踏まえながら、自治体国際化協会（CLAIR）の助成事業を活用し、友好都市交流に取り組めます。</p> |